島根原子力線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書２

三 大 寺 遺 跡

2009年３月

中 国 電 力 株 式 会 社
島 根 県 教 育 委 員 会

島根原子力線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書２

三 大 寺 遺 跡

2009年３月

中 国 電 力 株 式 会 社
島 根 県 教 育 委 員 会

序

当社では、島根原子力発電所３号機の増設にあわせ、特別高圧送電線島根原子力線新設工事を進めています。

本送電線の新設工事に際しては、埋蔵文化財の保護に充分必要な調査の実施、記録の保存につとめるものとし、島根県教育委員会をはじめ関係各位のご協力をいただき、平成16年度から発掘調査を実施してまいりました。

本報告書は平成19年度から平成20年度に実施した三大寺遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。本報告書が郷土の歴史教育等のため広く活用されることを期待します。

最後に、今回の発掘調査及び報告書の取りまとめにあたり、ご指導ご協力いただきました関係者各位に深く感謝申し上げます。

中国電力株式会社

管財部門長　**福　本　和　久**

序

島根県教育委員会では、中国電力株式会社の委託を受けて、平成16年度から、島根原子力線送電鉄塔建設予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施していますが、このたび調査報告書第２集を刊行する運びとなりました。

本報告書は、平成19年度から平成20年度に実施した、松江市朝酌町に所在する三大寺遺跡の発掘調査の記録であります。今回の調査では古墳をはじめ奈良時代の建物跡や中世から近世にかけての古墓群が発見されるなど、貴重な成果が得られました。これらの調査結果は、地域の歴史を解明していく上で大いに役立つものと思われます。本報告書が郷土の歴史と文化財に対する理解や関心を高める一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元松江市民の方々、中国電力株式会社、松江市教育委員会をはじめ関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年３月

島根県教育委員会

教育長　**藤原義光**

例　言

1．本書は島根県教育委員会が中国電力株式会社の委託を受けて、平成19年度及び20年度に実施した島根原子力線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．本書で報告する遺跡は次のとおりである。

島根県松江市朝酌町字東平1192-1番地　　三大寺遺跡
字別所571番地
字奥別所573-1番地
字三大寺579、580番地

3．調査組織は次のとおりである。

【平成19年度】

事　務　局　卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（同調整監）、西尾克己（同企画調整スタッフ企画幹）、坂本憲一（同総務Ｇ課長）、赤山　治（同総務Ｇ企画幹）、廣江耕史（同調査第３Ｇ課長）

調　査　員　角田徳幸（同調査第３Ｇ主幹）、園山暢男（同教諭兼文化財保護主任）、濱岡宏行（同教諭兼文化財保護主任）、井谷朋子（同調査補助員）

調 査 指 導　田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）、蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）

調査協力　　大橋泰夫（島根大学法文学部教授）

【平成20年度】

事　務　局　卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（同副所長）、錦田剛志（同企画調整スタッフ企画員）、赤山　治（同総務Ｇ課長）、高尾　収（同総務Ｇ企画幹）

調　査　員　宮澤明久（同調査第１Ｇ課長）、伊藤　智（同文化財保護主任）、阿部賢治（同調査補助員）、平井大介（同調査補助員）、是田和美（同調査補助員）

調 査 指 導　中村唯史（島根県立三瓶自然館サヒメル学芸員）

4．本書のうち、挿図中の北は測量法による平面直角座標系ＸＹ座標（日本測地系）、第Ⅲ座標系のＸ軸方向を指している。

5．第１図は、国土交通省国土地理院発行の１/25,000を使用した。

6．本書に掲載した実測図の作成と浄書は調査員・補助員・遺物整理作業員が行い、写真は角田徳幸・伊藤　智が撮影した。

7．本書の執筆は、第４章を角田徳幸、第１～３章、第５～７章を伊藤智が行い、伊藤智が編集した。

8．本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

目　次

第１章　調査に至る経緯…… 1

第２章　遺跡の位置と環境…… 1

第３章　調査の概要…… 5

第４章　Ⅰ区の調査

第１節　古　墳…… 8

第２節　建物跡…… 9

第３節　古墓群……16

第４節　土　坑……31

第５章　Ⅱ区の調査…… 33

第６章　遺構に伴わない遺物…… 41

第７章　総　括…… 51

挿図目次

第１図　周辺の遺跡……2
第２図　三大寺遺跡調査前地形測量図……6
第３図　三大寺遺跡調査終了後地形測量図……7
第４図　古墳実測図……8
第５図　古墳関係遺物実測図……9
第６図　１号建物跡遺構実測図……10
第７図　１号建物跡遺物出土状況実測図……11
第８図　１号建物跡出土遺物実測図１……12
第９図　１号建物跡出土遺物実測図２……13
第10図　２号建物跡出土遺物実測図……14
第11図　２号建物跡遺構実測図……15
第12図　１号墓遺構実測図……16
第13図　古墓群遺構配置図……17
第14図　１号墓出土遺物実測図……18
第15図　２号墓・３号墓遺構実測図……19
第16図　２・３・６号墓出土遺物実測図……20
第17図　３号墓出土五輪塔実測図……21
第18図　４号墓遺構実測図……22
第19図　４号墓出土五輪塔実測図……23
第20図　５号墓遺構・遺物実測図……24
第21図　６～10・12・13号墓遺構実測図……25
第22図　１号盛土・２号盛土遺構実測図……26
第23図　11号墓遺構実測図……27
第24図　11号墓出土遺物実測図……28
第25図　遺構に伴わない五輪塔実測図１……29
第26図　遺構に伴わない五輪塔実測図２……30
第27図　１号土坑・２号土坑遺構実測図……31
第28図　１号土坑出土遺物実測図……31
第29図　３～８号土坑遺構実測図……32
第30図　調査Ⅱ区遺構配置図……33
第31図　炭溜まり１・炭溜まり２平面図……34
第32図　トレンチ・炭溜まり１・炭溜まり２土層図……35
第33図　柱列１・柱列２実測図……36
第34図　柱列３実測図……37
第35図　炭溜まり１出土遺物実測図……38
第36図　柱列１～３及びトレンチ出土遺物実測図……39
第37図　焼土遺構・11号土坑実測図……40
第38図　遺構に伴わない遺物実測図１……42
第39図　遺構に伴わない遺物実測図２……43
第40図　遺構に伴わない遺物実測図３……44
第41図　遺構に伴わない遺物実測図４……45

図版目次

図版１　三大寺遺跡（上空から）
図版２　三大寺遺跡（西上空から）
図版３　１　三大寺遺跡遠景（西から）
　２　古墳調査前（東から）
図版４　１　古墳調査後（東から）
　２　古墳ａ－ｂ土層北半部（西から）
　３　古墳ａ－ｂ土層南半部（北から）
　４　古墳ｃ－ｄ土層東半部（東から）
　５　古墳ｃ－ｄ土層西半部（東から）
図版５　１　１・２号建物跡近景（北から）
　２　１・２号建物跡近景（北東から）
図版６　１　１号建物跡検出状況（北東から）
　２　１号建物跡（北東から）
図版７　１　１号建物跡ｇ－ｈ土層(南西から)
　２　１号建物跡ｃ－ｄ土層（南から）
　３　１号建物跡排水溝土層(南西から)
図版８　１　１号建物跡遺物出土状況(北東から)
　２　１号建物跡遺物出土状況(南から)
　３　１号建物跡分銅出土状況(南東から)
図版９　１　P.1土層（北東から）
　２　P.1（北東から）
　３　P.2土層（北東から）
　４　P.2（北東から）
　５　P.3焼土１～３検出状況(東から)
　６　P.3（北から）
　７　P.3焼土１・２土層（北から）
　８　焼土３土層（北から）
図版10　１　１号建物跡土坑（北西から）
　２　１号建物跡横断土層（北西から）
　３　１号建物跡縦断土層（南西から）
図版11　１　２号建物跡検出状況（北東から）
　２　２号建物跡（北東から）
図版12　１　２号建物跡ａ－ａ´土層（西から）
　２　２号建物跡ｂ－ｂ´土層（西から）
　３　２号建物跡ｃ－ｃ´土層（西から）
図版13　１　P.1土層（北西から）
　２　P.1（北西から）
　３　P.2土層（北西から）
　４　P.2（北西から）
　５　P.3土層（北西から）
　６　P.3（北西から）
　７　P.4土層（北西から）
　８　P.4（北西から）
図版14　１　P.5土層（北西から）
　２　P.5（北西から）
　３　P.6土層（北西から）
　４　P.6（北西から）
　５　P.7土層（北西から）
　６　P.7（北西から）
　７　P.8土層（北西から）
　８　P.8（北西から）
図版15　１　P.9土層（北西から）
　２　P.9（北西から）
　３　焼土（北西から）
　４　焼土土層（北西から）
　５　２号建物跡（北東から）
　６　２号建物跡下東斜面（北東から）
　７　２号建物跡下西斜面（北西から）
　８　２号建物跡下西斜面（北西から）
図版16　１　古墓群検出状況（北西から）
　２　古墓群検出状況（南から）
図版17　１　古墓群調査後（北西から）
　２　古墓群調査後（南から）
図版18　１　１号墓検出状況（西から）
　２　１号墓検出状況（北西から）
　３　1号墓南側五輪塔検出状況(南西から)
図版19　１　１号墓土層（西から）
　２　１号墓（西から）
　３　１号墓遺物出土状況（北東から）
図版20　１　２号墓検出状況（西から）
　２　２号墓土層（西から）
　３　２号墓（西から）

図版21　1　３号墓検出状況（東から）
2　３号墓検出状況（南から）
3　３号墓土層（西から）
図版22　1　３号墓（西から）
2　３号墓銅銭出土状況（西から）
3　４号墓検出状況（西から）
図版23　1　４号墓検出状況（北東から）
2　４号墓土層（西から）
3　４号墓（西から）
図版24　1　５号墓東南集石検出状況(東から)
2　５号墓墓壙検出状況（西から）
3　５号墓土層（西から）
図版25　1　５号墓集石検出状況（西から）
2　５号墓集石検出状況（南から）
3　５号墓（西から）
図版26　1　６号墓検出状況（西から）
2　６号墓土層（西から）
3　６号墓（西から）
図版27　1　７号墓検出状況（西から）
2　７号墓土層（西から）
3　７号墓（西から）
図版28　1　８号墓検出状況（西から）
2　８号墓土層（西から）
3　８号墓（西から）
図版29　1　９号墓検出状況（西から）
2　９号墓土層（西から）
3　９号墓（西から）
図版30　1　10号墓検出状況（西から）
2　10号墓土層（西から）
3　10号墓（西から）
図版31　1　１・２号盛土（南西から）
2　１・２号盛土（北西から）
3　１号盛土ａ－ｂ土層（北東から）
図版32　1　1･2号盛土ｃ－ｄ断面中央部(北西から)
2　1号盛土ｃ－ｄ断面東半部(北西から)
3　1号盛土ｃ－ｄ断面西半部(北西から)
図版33　1　２号盛土ｃ－ｄ断面（北西から）
2　2号盛土ｃ－ｄ断面東半部(北西から)
3　２号盛土ｅ－ｆ断面（南西から）
図版34　1　11号墓検出状況（西から）
2　11－１号墓検出状況（西から）
3　11－１号墓検出状況（南から）
図版35　1　11－１号墓土坑検出状況(西から)
2　11－１号墓土層（西から）
3　11－１号墓遺物出土状況(西から)
図版36　1　11－１号墓（西から）
2　11－１号墓と11－２号墓(西から)
3　11－1号墓と11－3･4号墓(西から)
図版37　1　11－２号墓検出状況（西から）
2　11－２号墓土層（西から）
3　11－２号墓（西から）
図版38　1　11－３号墓検出状況（西から）
2　11－３号墓土層（北から）
3　11－３号墓（西から）
図版39　1　11－４号墓検出状況（西から）
2　11－４号墓土層（西から）
3　11－４号墓（西から）
図版40　1　12・13号墓検出状況（北から）
2　12号墓（北西から）
3　13号墓（西から）
図版41　1　１号土坑（西から）
2　１号土坑土層（南から）
3　２号土坑（北から）
図版42　1　３号土坑土層（北から）
2　３号土坑（北から）
3　４号土坑土層（南東から）
4　４号土坑（南東から）
5　５号土坑土層（西から）
6　５号土坑（西から）
7　６号土坑土層（西から）
8　６号土坑（西から）
図版43　1　７号土坑土層（西から）
2　７号土坑（西から）
3　８号土坑土層（西から）
4　８号土坑（西から）
5　Ⅰ区調査後近景（北から）

図版44　古墳関係遺物及び1号建物跡出土遺物
図版45　1号建物跡出土遺物1
図版46　1　1号建物跡出土遺物2
　　2　2号建物跡出土遺物
図版47　1　1号土坑出土遺物
　　2　1号建物跡出土土器
図版48　1号墓出土遺物
図版49　2・3・6号墓出土遺物
図版50　3・4号墓出土遺物
図版51　4・5・11号墓出土遺物
図版52　遺構に伴わない五輪塔
図版53　遺構に伴わない五輪塔と火葬骨
図版54　1　東壁土層（西から）
　　2　東壁土層（南西から）
　　3　炭溜まり2土層（南から）
図版55　1　トレンチ6東壁土層（南西から）
　　2　トレンチ6北壁土層（南東から）
　　3　炭溜まり1遺物出土状況(北東から)
図版56　1　炭溜まり1礫検出状況（西から）
　　2　炭溜まり1東西土層（南から）
　　3　柱列1～3ピット検出状況(南から)
図版57　1　P01土層
　　2　P02土層
　　3　P03土層
　　4　P01、P02、P03
　　5　P04土層
　　6　P04
　　7　P05土層
　　8　P05
図版58　1　P06土層
　　2　P06
　　3　P08土層
　　4　P08
　　5　P09土層
　　6　P09
　　7　P10土層
　　8　P10、P14
図版59　1　柱列1～3（南から）
　　2　礫群1検出状況（南東から）
　　3　9号土坑（南西から）
図版60　1　焼土遺構・11号土坑（南から）
　　2　11号土坑土層（南から）
　　3　炭溜まり2西遺物出土状況(南西から)
図版61　1　Ⅱ区完掘状況（南西から）
　　2　Ⅱ区完掘状況（北東から）
図版62　炭溜まり1・炭溜まり2・トレンチ出土遺物1
図版63　炭溜まり1・炭溜まり2・トレンチ出土遺物2
図版64　1　炭溜まり1・炭溜まり2・トレンチ出土遺物3
　　2　Ⅱ区出土生産関係遺物
図版65　遺構に伴わない遺物1
図版66　遺構に伴わない遺物2
図版67　遺構に伴わない遺物3
図版68　遺構に伴わない遺物4

第１章　調査に至る経緯

平成12年８月に中国電力株式会社は、国の電源開発基本計画に組み入れられた島根原子力発電所３号機の増設に伴い、この発生電力を送るため、島根原子力線新設工事および第二島根原子力幹線増強工事を計画した。平成19年１月23日に島根県教育委員会は、中国電力株式会社から新設される鉄塔用地（鉄塔№46）内確認調査の依頼を受けた。３月30日に鉄塔№46予定地内に埋蔵文化財包蔵地（三大寺遺跡）を確認し、中国電力株式会社に発掘調査が必要であると回答した。７月12日に中国電力株式会社から鉄塔用地内に新たな遺跡が発見された通知を受けた。８月７日に中国電力株式会社から記録保存のための三大寺遺跡の発掘調査の依頼がなされた。８月８日に中国電力株式会社から文化財保護法に基づく発掘調査を行うための土木工事に関する通知がなされた。９月26日に文化財保護法に基づく発掘調査を行うための通知を行った。10月２日に丘陵部分（三大寺遺跡Ⅰ区）の発掘調査を開始し、平成20年１月29日にⅠ区の調査を終了した。平成20年６月２日に北側谷部分（三大寺遺跡Ⅱ区）の調査を開始し、６月26日にⅡ区の調査を終了した。

第２章　遺跡の位置と環境

歴史的環境

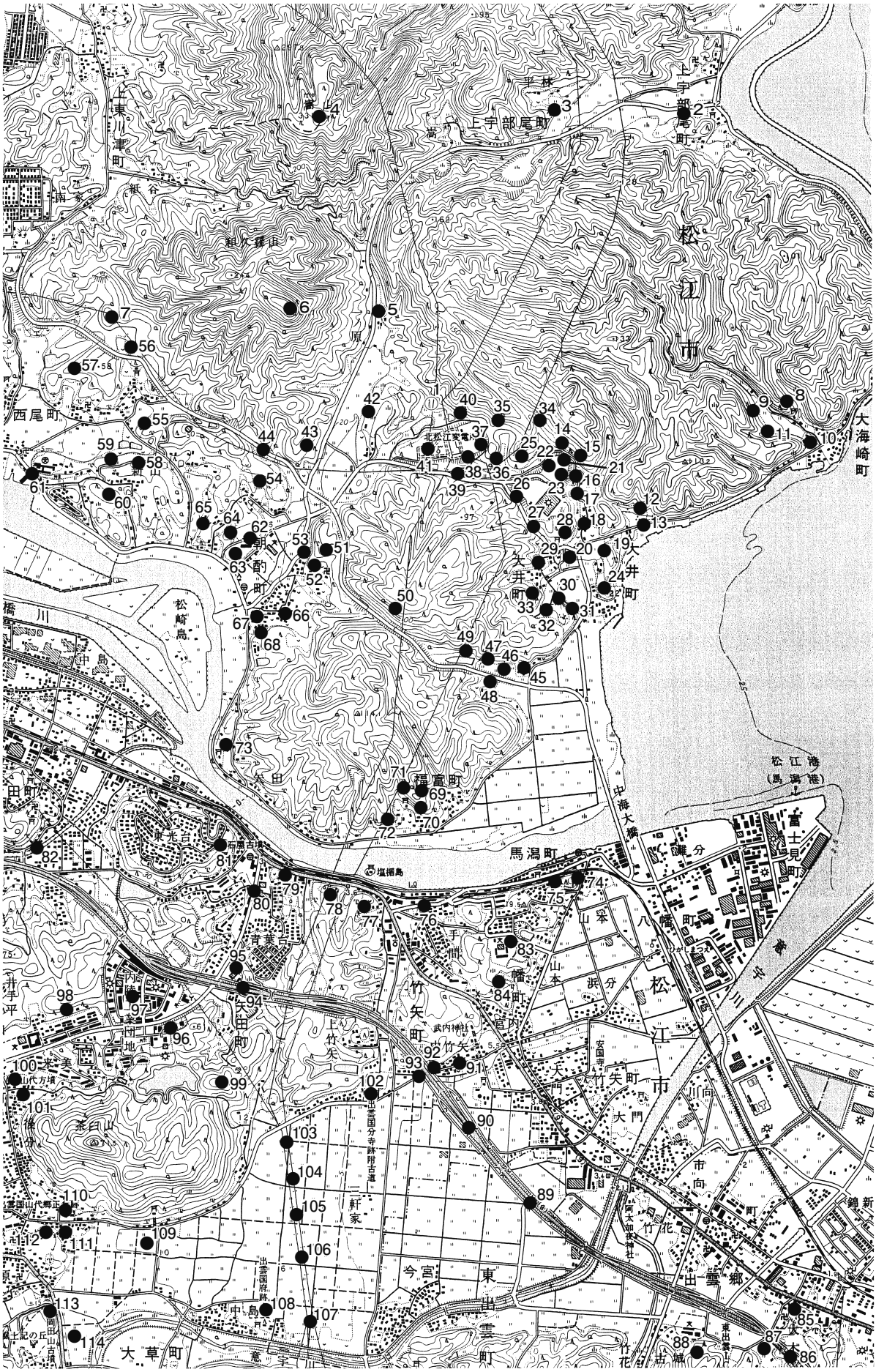
現在の松江市朝酌町、大井町、福富町、大海崎町、西尾町を中心とした地域について記載する。

縄文時代　松江市大井町の九日田（くにちだ）遺跡（20）では縄文時代後期初頭のドングリ貯蔵穴が検出されている。山津遺跡（12）では黒曜石の石核、スクレイパー、石鏃他、縄文土器と考えられる土器が出土している。朝酌町の別所遺跡（40）では玄武岩製スクレイパーが１点、イガラビ遺跡（23）では後期とみられる縄文土器が数点出土している。また西尾町の米坂遺跡（56）からは玄武岩製分銅形石器が出土している。

弥生時代　九日田遺跡からは夜臼式並行期の精製壺と中期土器及び石器が出土している。

古墳時代　大橋川北岸における大型古墳としては、西尾町に所在する古墳時代中期の廟所古墳（58）が挙げられる。一辺60ｍを超える島根県下最大の方墳である。また廟所古墳の谷を挟んだ南西の丘陵には、同時期の観音山古墳群（60）が位置する。１号墳は一辺約40ｍの方墳、２号墳は全長約38ｍの前方後円墳である。この時期に出雲東部を代表する首長墓が大橋川南岸も含めたこの地域に集中して築造されている。後期には全長62ｍの前方後円墳である魚見塚古墳（73）が朝酌町に所在する。また小規模古墳としては、西尾町の西谷古墳群（57）、米坂古墳群（７）、朝酌町の遅倉横穴墓群（44）、九日宮古墳群（43）、横口式石槨の廻原１号墳を含む廻原古墳群（54）、石棺式石室を持つ朝酌小学校校庭古墳（62）、同じく朝酌岩屋古墳（67）、福富町の阿弥陀寺古墳（70）、阿弥陀寺裏山古墳群（69）、明事山古墳（72）、福富神社境内古墳（71）、大井町の山巻古墳（30）、大井古墳群（33）、石棺式石室の向山古墳（19）、池ノ奥古墳群（21）、イガラビ古墳群（22）、別所古墳（38）などが挙げられ、亜流のものも含め石棺式石室が多く分布している。

また当地は古墳時代から古代にかけて須恵器窯の集中地域である。古墳時代の窯跡は、大井町に所在する山津窯跡（13）、寺尾窯跡（29）、廻谷向垣窯跡（32）、池ノ奥窯跡（15）、明曽（みょうそ）窯跡（34）、勝田谷窯跡（35）、ハバタケ窯跡（45）、岩汐窯跡群（49）が挙げられる。廻谷向垣窯跡では、大谷



第１図　周辺の遺跡（Ｓ＝１：15,000）

1 三大寺遺跡
2 神田古墳群
3 四反田窯跡
4 布自枳見烽跡
5 荒神谷遺跡
6 和久羅城跡
7 米坂古墳群
8 十二所神社境内遺跡
9 古屋敷遺跡
10 唐干窯跡
11 木ノ谷遺跡
12 山津遺跡
13 山津窯跡群
14 池ノ奥Ａ遺跡
15 池ノ奥窯跡
16 池ノ奥Ｃ・Ｄ遺跡
17 赤坂遺跡
18 大谷遺跡
19 向山古墳
20 九日田遺跡
21 池ノ奥古墳群
22 イガラビ古墳群
23 イガラビ遺跡
24 イズキ山古墳群
25 焼山遺跡
26 山ノ奥遺跡
27 井ノ奥遺跡
28 大井神社境内遺跡
29 寺尾窯跡
30 山巻古墳
31 山巻遺跡
32 廻谷向垣窯跡
33 大井古墳群
34 明曽窯跡
35 勝田谷遺跡
36 岩穴平遺跡
37 薦沢Ｂ遺跡
38 別所古墳
39 薦沢野山遺跡
40 別所遺跡
41 薦沢Ａ遺跡
42 鈩田遺跡
43 九日宮古墳群
44 遅倉横穴墓群
45 ババタケ窯跡
46 岩汐遺跡
47 後廻遺跡
48 岩汐南遺跡
49 岩汐窯跡群
50 岩汐峠遺跡
51 三王谷遺跡
52 荒神谷古墳群
53 朝酌南神社跡古墳
54 廻原古墳
55 鞍切遺跡
56 米坂遺跡
57 西谷古墳群
58 廟所古墳
59 山辺遺跡
60 観音山古墳
61 南尾横穴墓
62 朝酌小学校校庭古墳
63 朝酌小学校前古墳
64 新山遺跡
65 松ヶ鼻遺跡
66 大谷古墳群
67 朝酌岩屋古墳
68 天井遺跡
69 阿弥陀寺裏山古墳群
70 阿弥陀寺古墳
71 福富神社境内遺跡
72 明事山古墳
73 魚見塚古墳
74 高良神社境内古墳
75 角森遺跡
76 灘山遺跡
77 竹矢岩舟古墳
78 手間古墳
79 荒神畑古墳
80 観音山古墳
81 石屋古墳
82 石台遺跡
83 観音寺古墳群
84 迎接寺裏山古墳群
85 大木権限山墳丘墓
86 島田池遺跡
87 岸尾遺跡
88 古城山遺跡
89 夫敷遺跡
90 布田遺跡
91 出雲国分尼寺跡
92 中竹矢遺跡
93 社日古墳
94 平所遺跡
95 間内越墳丘墓
96 十王免横穴墓群
97 来美墳丘墓
98 山代郷北新造院
99 廻田古墳群
100 山代方墳
101 永久宅後古墳
102 出雲国分寺跡
103 上小紋遺跡
104 向小紋遺跡
105 四配田遺跡
106 神田遺跡
107 才台垣大屋敷遺跡
108 出雲国府跡
109 大坪遺跡
110 山代郷南新造院
111 寺ノ前遺跡
112 小無田Ⅱ遺跡
113 岡田山古墳
114 岩屋後古墳

編年Ⅰ期の須恵器が確認されている。

集落遺跡他としては、中期から後期にかけての掘立柱建物跡と玉製品、砥石が出土した西尾町の米坂遺跡、大井町に所在する竹管文が施されている円筒形の土器が出土した山巻遺跡（31）、前期古式土師器の壺、甕、中期の高坏が出土した九日田遺跡、イガラビ遺跡、大井町及び朝酌町の岩穴平遺跡（36）、多くの建物跡が検出され、また37点の土馬、４点の土鈴、銅印などが出土した朝酌町の薦沢Ａ遺跡（41）、別所遺跡などが挙げられる。山巻遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期頃の墳墓の可能性が考えられ、また朝酌町から大井町にかけての地域では、須恵質土馬、窯壁体など須恵器生産と関係する遺物の出土が確認されている。

古　　代　古墳時代から引き続き、この時期においても須恵器生産に関連する遺跡が朝酌町から大井町にかけての地域で多く確認されている。

古代の窯跡は、大井町の山津窯跡、池ノ奥窯跡、明曽窯跡、勝田谷窯跡、ハバタケ窯跡、岩汐窯跡群、大海崎町の唐干窯跡（10）が挙げられる。

集落遺跡他としては、別所遺跡、石列遺構が検出された朝酌町の荒神谷遺跡（５）、大井町のイガラビ遺跡、池ノ奥Ａ遺跡（14）、池ノ奥Ｃ、Ｄ遺跡（16）が挙げられる。

中　　世　中世において当地は朝酌郷及び長田西郷に比定されている。

別所遺跡では遺物包含層から大量の中世須恵器が出土しており、中世須恵器の生産が推定されている。また朝酌町の和久羅城跡（６）は、和久羅山山頂に櫓、土塁、桝形虎口などが構築されている。尼子氏・毛利氏の争乱時には軍事上重要な位置を占めていたと考えられ、周辺にはその支城も確認されている。大井町の岩汐峠遺跡（50）では16世紀と考えられる経塚が検出されている。山津遺跡では、亀山系須恵器が出土している。

参考文献

加藤義成　1997　『修訂出雲国風土記参究』今井書店

朝酌郷土史編集委員会　2001　『朝酌町誌』

『島根県の地名　日本歴史地名大系33』　1995　平凡社

出雲考古学研究会　1987　『古代の出雲を考える６　石棺式石室の研究』

松江市教育委員会　1981　『岩穴平遺跡　稲葉城跡』

松江市教育委員会　1988　『薦沢Ａ遺跡・薦沢Ｂ遺跡・別所遺跡』

松江市教育委員会　1990　『釜田遺跡･朝酌荒神遺跡･イガラビ遺跡･イガラビ古墳群･池ノ奥古墳群･池ノ奥Ｃ、Ｄ遺跡、池ノ奥Ａ遺跡、池ノ奥窯跡』

松江市教育委員会　1999　『西尾地区農林漁業用揮発油税財源整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・遅倉横穴墓群・米坂古墳群ほか』

松江市教育委員会　2000　『九日田遺跡発掘調査報告書』

松江市教育委員会　2003　『山津窯跡発掘調査報告書　－２・３号窯跡－』

松江市教育委員会　2006　『大井窯跡群　山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書』

島根県古代文化センター　2004　『出雲国風土記の研究Ⅱ　島根郡朝酌郷調査報告書』

島根県古代文化センター　2000　『松江市東部における古墳の調査』

島根県教育委員会　1998　『島根県中近世城館跡分布調査報告書〈第２集〉　出雲・隠岐の城館跡』

第3章　調 査 の 概 要

三大寺遺跡は、標高41ｍほどの低丘陵上から斜面に位置しており、古墳１基･掘立柱建物跡２棟･古墓13基のほか、土坑・ピットなどからなる。

丘陵頂部に築かれた古墳は径10m・高さ0.5mほどの高まりが認められたが、既に削平を受けており、盛土や埋葬施設は失われていた。周辺では古墳時代中期の須恵器高坏片と鉄鏃が採取されており、これらが古墳に伴う遺物と考えられる。

掘立柱建物跡は丘陵北側斜面に位置し、２段に造成された平坦面に１棟ずつが営まれている。

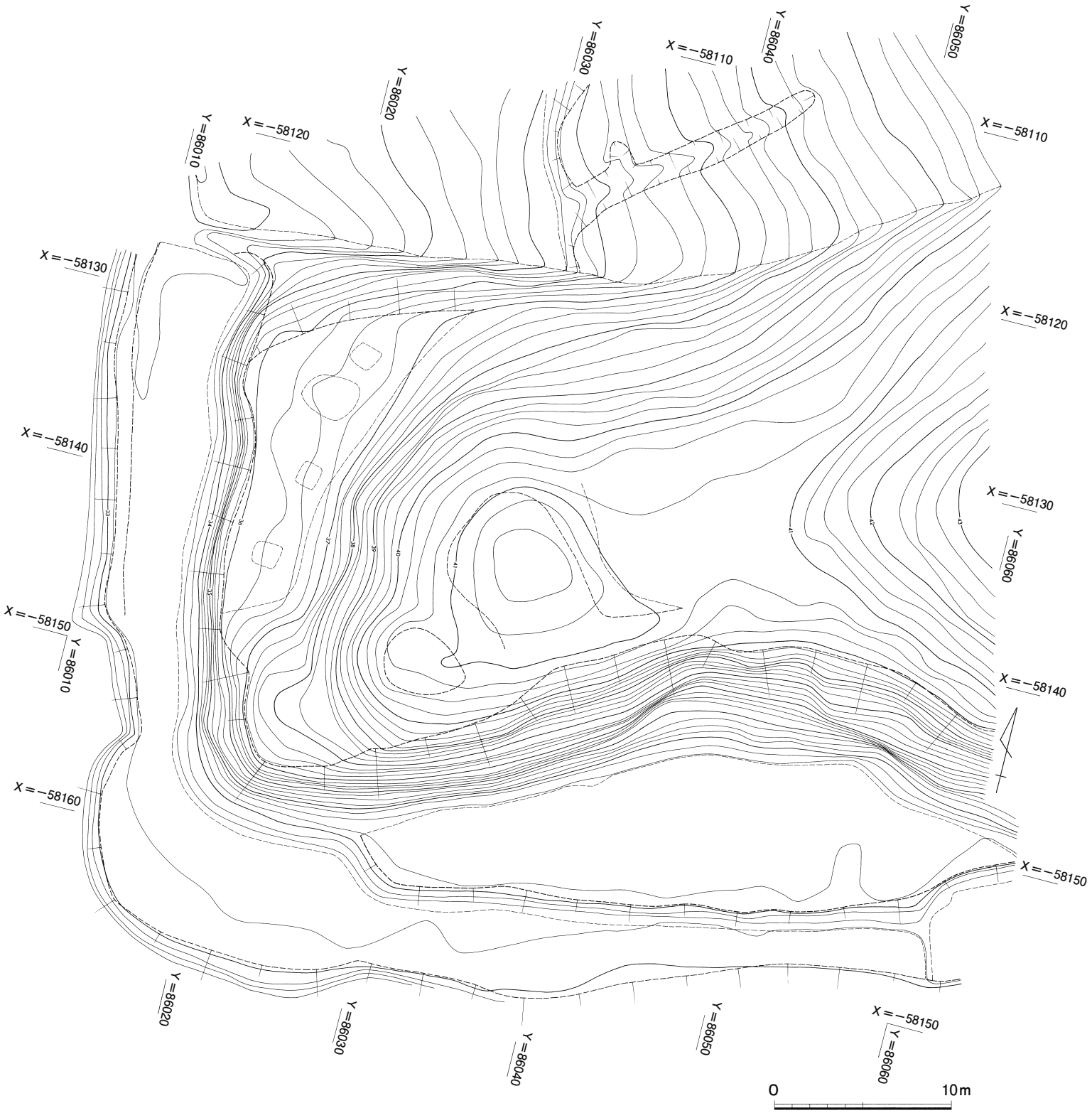
１号建物跡は柱の配列を明確にできなかったが、東西８ｍ・南北4.5mほどの平坦面に造られた掘立柱建物跡と見られる。平坦面の壁際には排水溝、床面にはピットのほか、隅丸方形の土坑１基、地面が赤く硬化した炉跡３ヶ所が検出されている。遺物には、土師器甕・甑、須恵器坏・高坏・皿・甕・横瓶、鉄製摘鎌などがあり、特に銅製分銅を忠実に模倣した陶製分銅が出土した点が注目される。２号建物跡は東西８ｍ・南北３ｍほどの平坦面を造成し、桁行４間ほどの掘立柱建物が営まれる。床面にはやはり地面が赤く硬化した炉跡が１ヶ所あり、土師器甕・須恵器坏・甕などが出土している。

古墓は丘陵西側斜面に造成された南北27m・東西７ｍほどの平坦面に営まれている。古墓には石積みの基壇をもち、五輪塔が立てられていたと見られるもの（１・２・３・４号墓)、基壇の上に盛土が行われたもの（11号墓)、墓坑の上に標石を置いたもの（５・６・７・10号墓)、墓坑のみもつもの（８・９・12・13号墓)、基壇上に五輪塔が立てられていたと見られるが内部に埋葬の痕跡がない供養墓（４号墓）がある。埋葬方法には、火葬と土葬があり、火葬墓は１・２・３・11・12・13号墓、土葬墓は５・６・７・８・９・10号墓である。

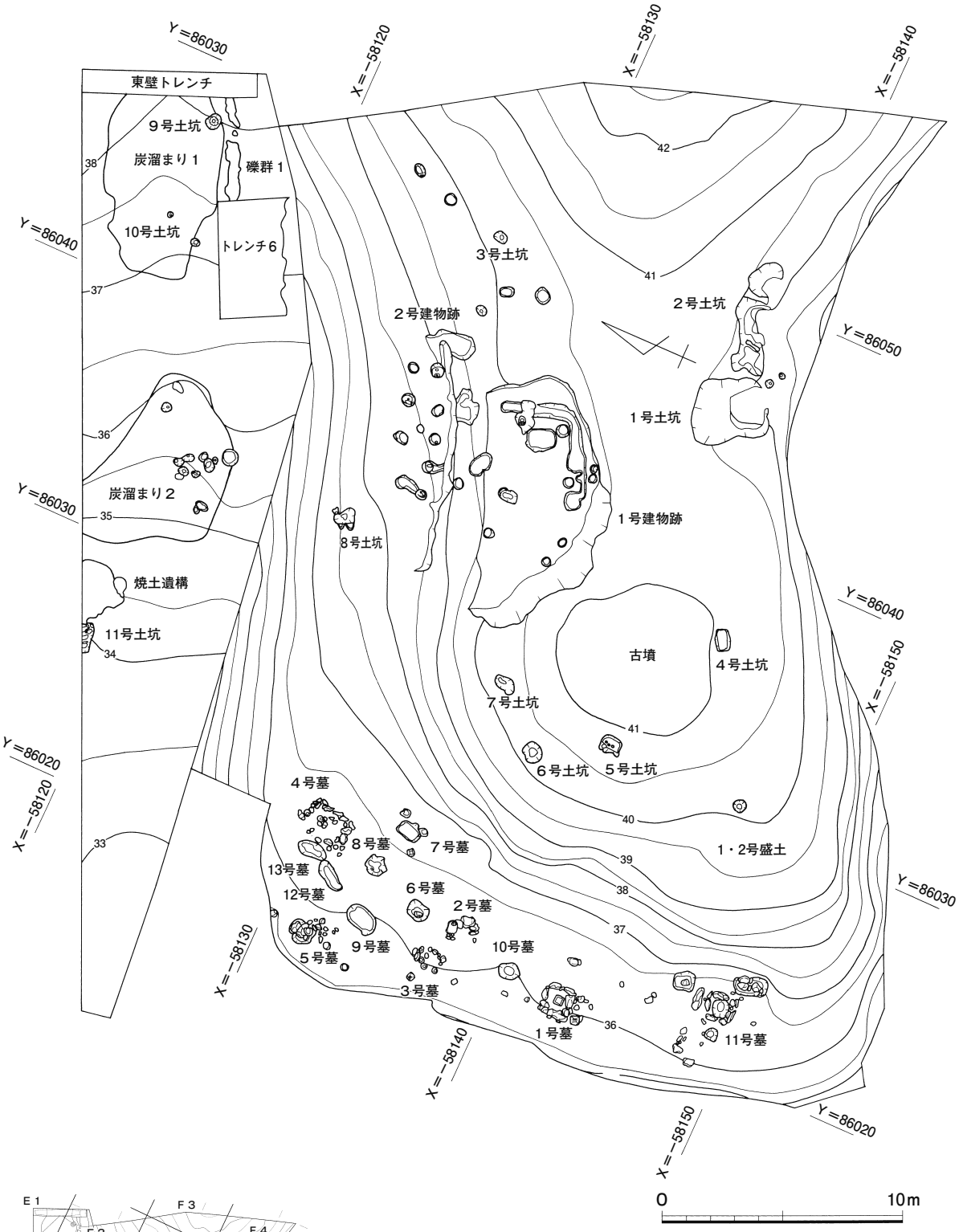
このうち、１号墓は方形基壇の上に五輪塔の地輪が遺存していた。基壇の内部には火葬骨の混じる黒色土が入っており、開元通寶と北宋銭20数枚が副葬されている。３号墓は五輪塔を転用した基壇をもち、内部より火葬骨と開元通寶・永楽通寶が出土した。11号墓も石囲い基壇をもち、基壇は北西隅に五輪塔地輪が置かれていた。内部からは火葬骨のほか銅銭・鉄釘が出土している。11号墓の周辺にはこれに付随する埋葬施設と見られる土坑３基があり、これらを含め基壇の上部には長さ９ｍ・幅６ｍの範囲に高さ1.7mほどの盛土がなされていた。

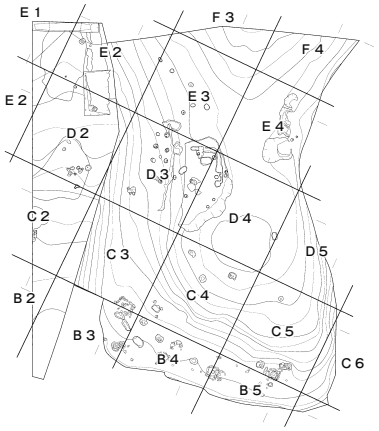
５号墓と７号墓は内部に大形の石が落ち込んだ状態で確認されており、これらは標石として置かれた集石が陥没したものと見られる。土葬墓では遺物は確認されていない。

平成20年度に調査を実施した調査Ⅱ区は、前年度調査区（調査Ⅰ区）の北の谷部分であり、標高33～38ｍの比較的緩やかで平坦な斜面に位置している。炭溜まり２ヶ所、柱列３棟、焼土遺構１基、ほか土坑･ピットからなる。炭溜まり１では古墳時代後期及び奈良時代の須恵器を中心に、土師器、須恵質土馬、炉壁材、黄灰色の礫片などが炭片と伴に出土した。炭溜まり２に関しても、須恵器及び土師器と伴に炭片が多く出土した。またこれら遺構が検出された遺構面の下層において古墳時代後期の遺物包含層を確認したが、今回の調査では鉄塔が敷設される部分（トレンチ６）のみ地山まで掘削した。



第２図　三大寺遺跡調査前地形測量図（Ｓ＝１／300）





グリッド配置図

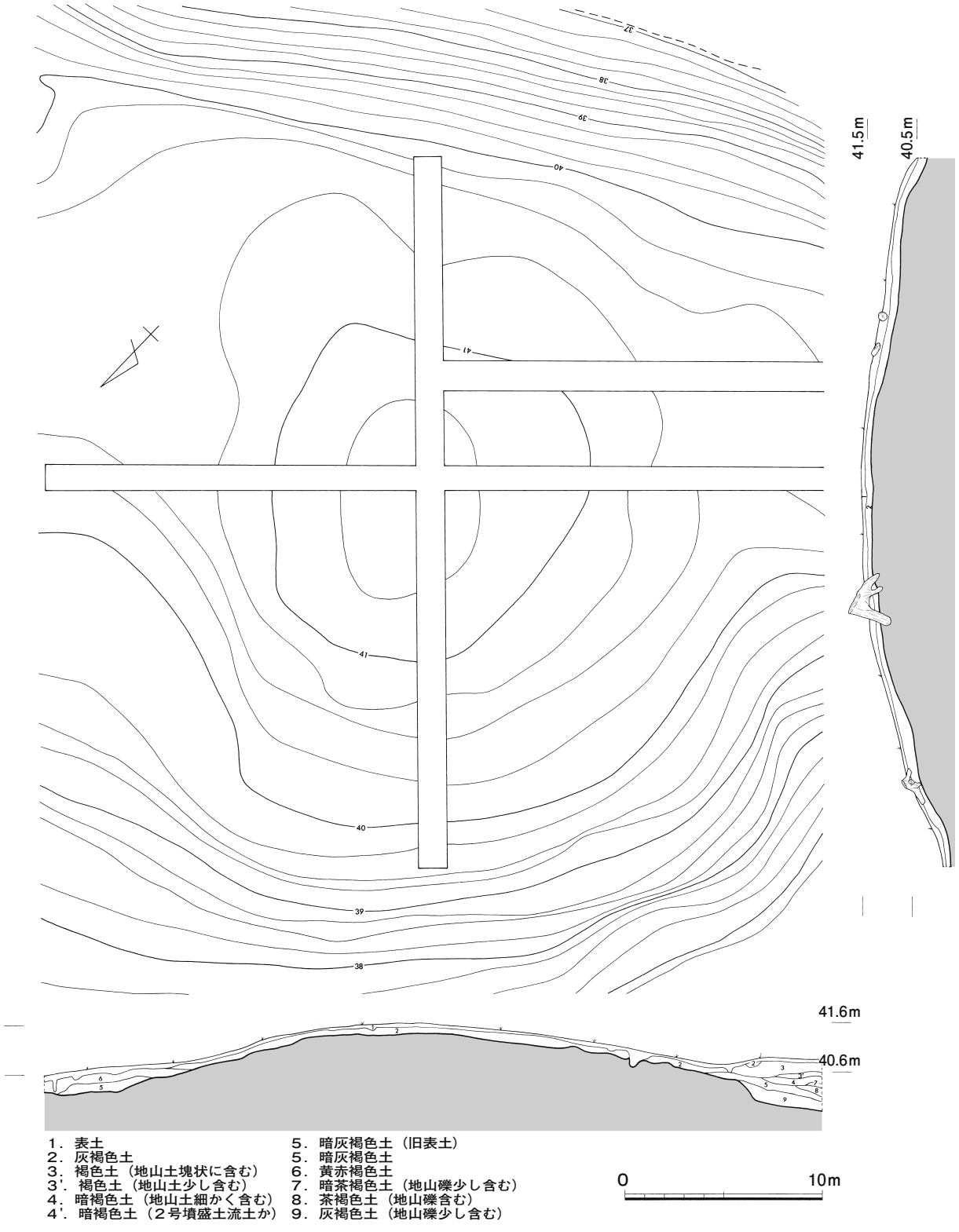
第３図　三大寺遺跡調査終了後地形測量図（Ｓ＝１／250）

第4章　Ⅰ区の調査

第1節　古　墳

（1）　墳　丘

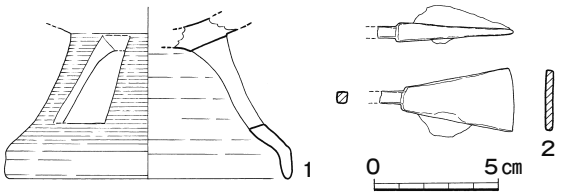
調査前には、標高41.5mの丘陵頂部を中心に１辺10m・高さ0.5m程度の低い方墳状の高まりが認められた。発掘前の地形測量では、この墳丘状の高まりから南西側にさらに２つの盛土遺構が並



第４図　古墳実測図（S＝１／300）

び、古墳群であることが推定されたが、後述するように南西側の盛土遺構は11号古墓に伴う盛土であることが明らかになっている。

調査は、丘陵頂部の墳丘を中心に土層観察用の畦を設定して、慎重に掘り下げを行った。その結果、表土下20㎝程で地山に達したが、盛土や埋葬施設を確認することはできなかった。しかし、墳丘周囲の調査では、古墳時代中期後半の須恵器高坏や鉄鏃が検出されていることから、この地点に古墳が存在した可能性は否定できない。墳丘の東側は奈良時代の遺構によって削平を受けている他、南西側の古墓に伴う盛土遺構も丘陵頂部の土を用いたと考えられ、こうした改変により古墳の盛土・埋葬施設が失われたものと考えられる。



第５図　古墳関係遺物実測図（Ｓ＝１／３）

（２）　遺　物

第５図１は須恵器高坏の脚部である。３方向に透孔が配され、直立する丸味を帯びた端部をもつもので、外面にはカキメ調整が施される。

２は圭頭鏃である。茎部を欠損するが、鋒部は長さ4.5㎝・先端幅2.5㎝・厚さ0.7㎝である。

第２節　建物跡

（１）　１号建物跡

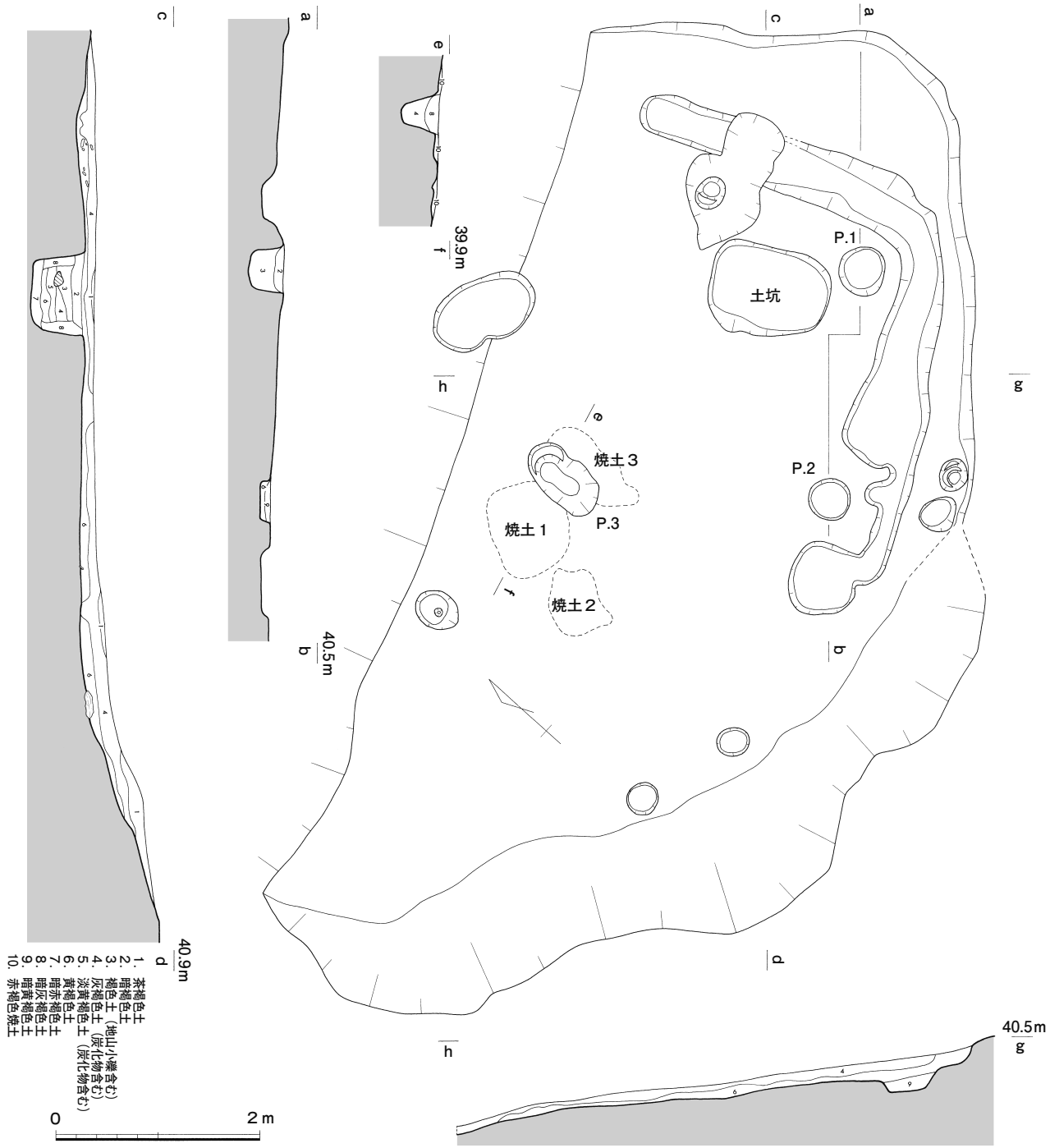
丘陵北側斜面に位置するもので、下段の２号建物跡との比高差は１ｍ余りである。

斜面をＬ字形に加工した東西８ｍ・南北4.5ｍほどの平坦面に造られた掘立柱建物跡と見られるが、柱の配列を明確にできなかった。平坦面の壁際にはＬ字形にめぐる排水溝があり、幅25～70㎝・深さ15㎝である。床面で検出されたピットのうち、柱穴に当たると見られるものはP.1・P.2がある。P.1は径45～50㎝・深さ35㎝、P.2は径40㎝・深さ10㎝で、P.1－P.2間の距離は2.2ｍである。P.3は長楕円形を呈するもので、周囲に厚さ４㎝ほどの焼土面が３ヶ所にあり、炉に関わる施設とも思われる。大きさは長径85㎝・短径45㎝・深さ35㎝で、内部には上層より暗灰褐色土（８層）・炭化物を含む灰褐色土（４層）が入っていた。

平坦面の東寄り床面で検出された土坑は、隅丸方形を呈するもので、長さ120㎝・幅85㎝・深さ50㎝である。横断土層を見ると、底面には暗赤褐色土（７層）が見られるが、その上には壁に沿って暗灰褐色土（８層）が立ち上がっており、土坑内に木枠のようなものが入っていた可能性が考えられる。内部からは須恵器皿（第９図24）と鉄製摘鎌（同27）が出土している。

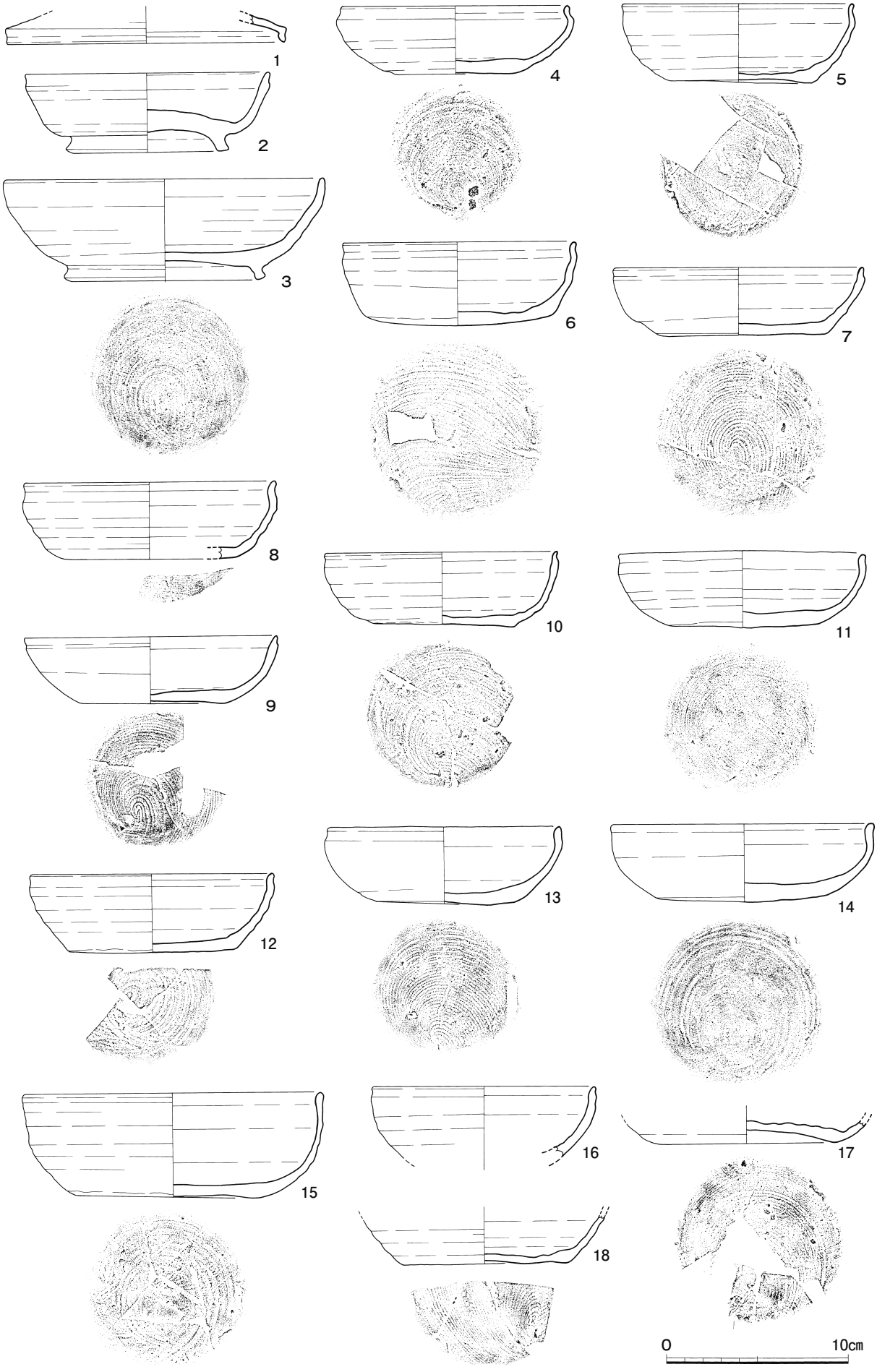
遺物は、排水溝付近の床面を中心に、土師器甕・甑、須恵器坏・高坏・甕・横瓶などが出土した。第８図１～18、第９図19～25・26・28・33は須恵器である。１は坏蓋片で、口縁端部が垂直に屈曲する。２・３は高台をもつ坏身である。２の底部外面は回転ナデ調整され、切り離し痕を残さない。３は丸味のある体部をもつ口径がやや大きい坏身で、底部に回転糸切り痕を留めている。４～22は無高台の坏身である。口縁部は４・５のように屈曲が大きいものがあるが、総じて緩く括れるものが多い。底部は切り離し痕を調整せずそのまま残しており、６は静止糸切りの可能性があるが、他はすべて回転糸切りである。

第９図23は須恵器高坏である。脚部径が6.0㎝と大きく、１ヶ所に線状の切り込みがある。24は皿である。無高台で体部は丸味を帯びるが、器高は2.0㎝と低く、底部には回転ヘラケズリが施される。25は短頸壺の蓋である。頂部には静止糸切り痕があり、周囲には回転ヘラケズリが入る。26は陶製分銅で、径3.3㎝・高さ2.6㎝・重さ27.5ｇである。表面には襞状の凹凸が付けられ、下端は低い台状になっており、中央には孔が貫通する。胎土は密、焼成は良好で、青灰色を呈する。28は屈曲する短い口縁をもつ甕で、胴部は外面に平行タタキ、内面には同心円状の当て具痕が残る。33は横瓶で、胴部は外面に平行タタキの後カキメ、内面には同心円状の当て具痕がある。

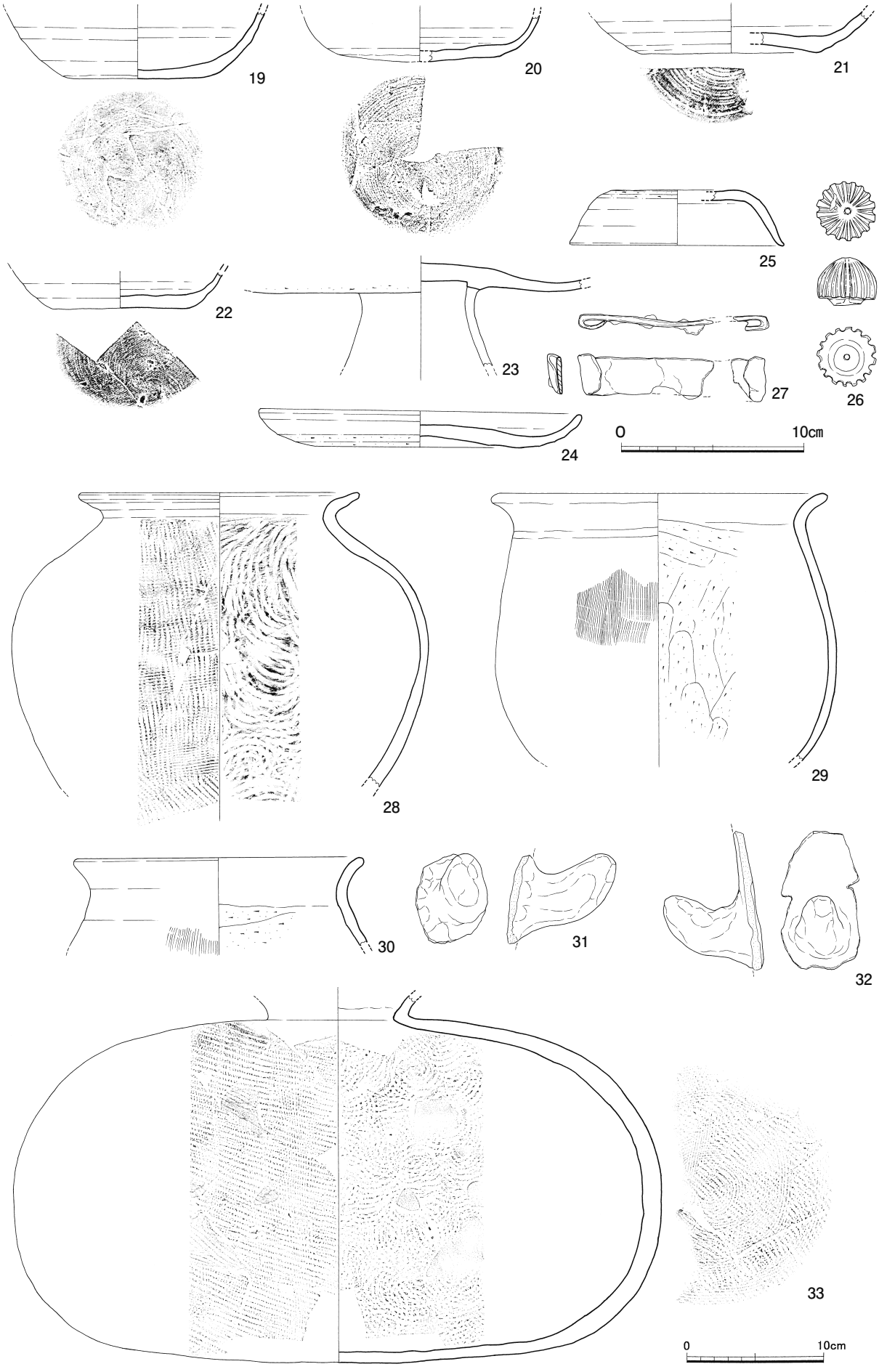


第６図　１号建物跡遺構実測図（Ｓ＝１／60）

第７図　１号建物跡遺物出土状況実測図（S＝1／60）



第８図　１号建物跡出土遺物実測図１（Ｓ＝１／３）



第９図　１号建物跡出土遺物実測図２（Ｓ＝１／３・１／６）

第９図29～32は土師器である。29・30は甕で、ともに外反する口縁をもっている。胴部外面はハケメ、内面はケズリで、外面に煤が付着している。31･32は甑の把手と見られる。外面は指押さえ、内面にはケズリが入る。

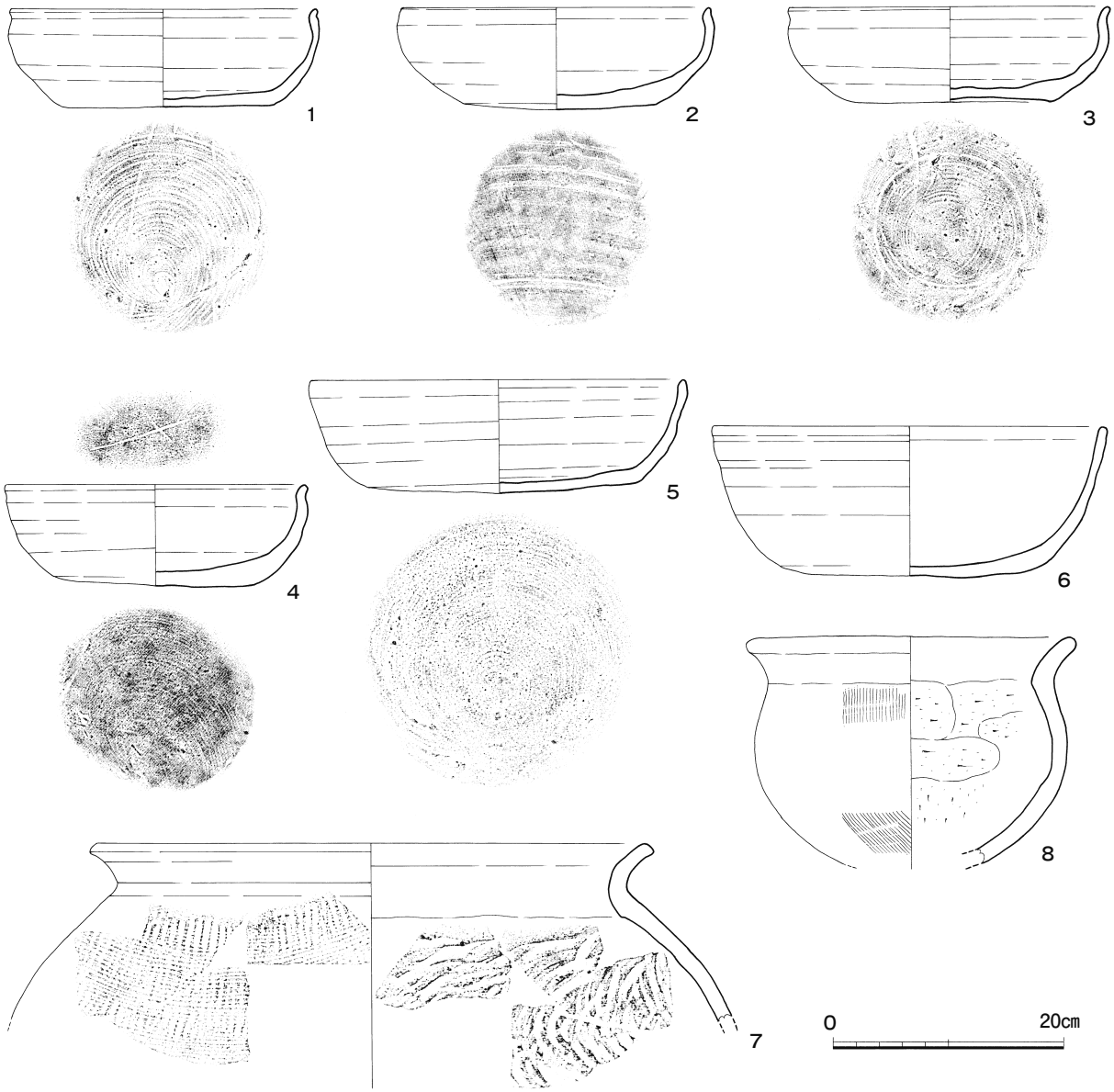
第９図27は鉄製摘鎌である。一部を欠損するが、両端の折り返し部が残っている。刃部の幅は２㎝・厚さは0.3㎝である。

（２）　２号建物跡

丘陵北側斜面に中程に位置するものである。

斜面をＬ字形に加工した東西８ｍ･南北３ｍほどの平坦面を造成し、掘立柱建物が営まれている。柱穴列は２列あり、P.1～ P.5とP.6～ P.8が見られる。両者の柱間は微妙に異なるところがあるが、1.2～1.3m間隔でほぼ平行に並んでおり、平坦面の広さを考慮すると、これが梁間となるような１間×４間で、長さ5.3m・幅1.3ｍの狭小な建物跡も考えられる。

ピットの大きさは、P.1が径45㎝・深さ13㎝、P.2が径45㎝・深さ27㎝、P.3が径45㎝・深さ25㎝、P.4が径35㎝・深さ35㎝、P.5が径40㎝・深さ30㎝、P.6が径40㎝・深さ10㎝、P.7が径52㎝・深さ50



第10図　２号建物跡出土遺物実測図（Ｓ＝１／３・１／６）

第11図　２号建物跡遺構実測図（S＝１／60）

㎝、P.8が径55㎝・深さ30㎝である。ピット間の距離は、P.1－P.2間が1.5m、P.2－P.3間が1.3m、P.3－P.4間が1.2m、P.4－P.5間1.2m、P.1－P.6間1.2m、P.6－P.7間が1.3m、P.7－P.8間が1.5m、P.3－P.8間が1.3mである。ピットのうち、P.2・P.4・P.5・P.7で柱痕跡が確認されている。また、P.2－P.3のやや北寄りでは、床面が赤く焼けた焼土が見られた。

遺物は建物跡の東半部を中心に検出されており、須恵器坏・甕、土師器甕などがある。第10図１～７は須恵器である。１～４は無高台の坏身で、いずれも口縁部が緩く括れ、体部が丸味を帯びている。底部は１・３・４が回転糸切り、２が静止糸切りで、いずれも未調整である。4の内面には「×」印のヘラ記号がある。５・６も坏身であるが、口径が１～４に比べて大きく、口縁が括れないものである。５の底部は回転糸切り後、未調整、６は不明である。７は短い口縁部が外反する甕で、胴部外面は平行タタキののち、カキメ、内面には同心円状の当て具痕が残る。

８は土師器甕で、口縁が外反し、外面はハケメ、内面はヘラケズリである。

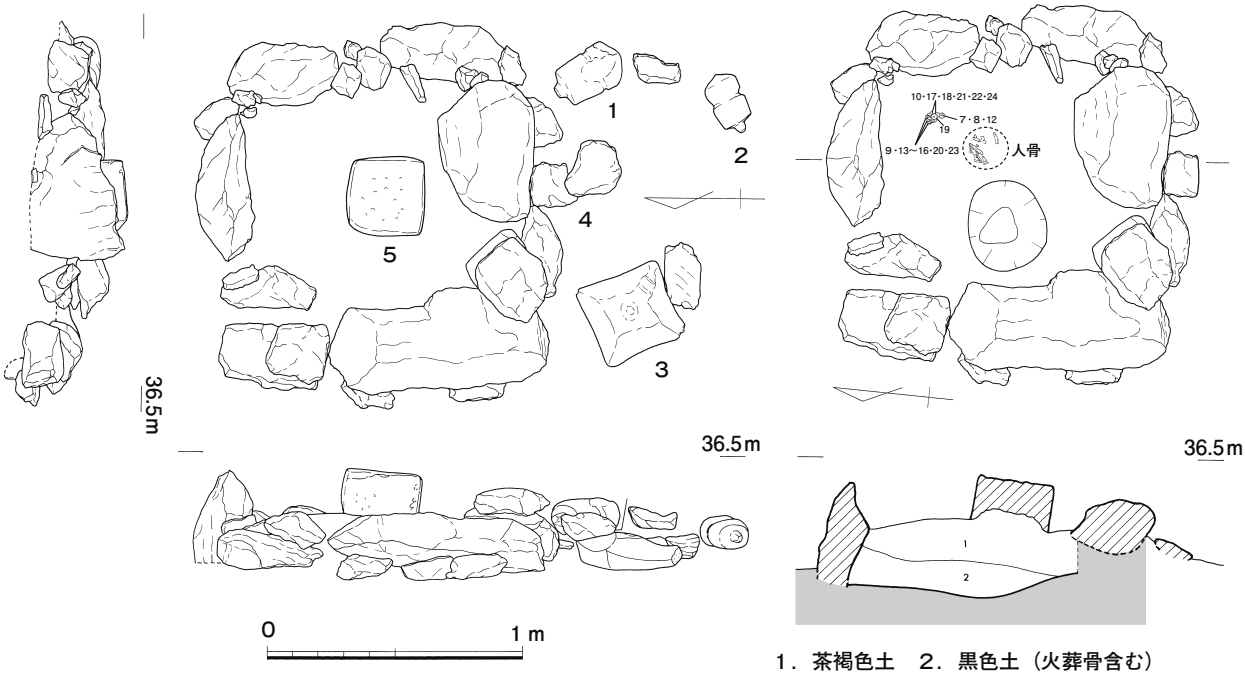
第３節　古墓群

（1）　１号墓

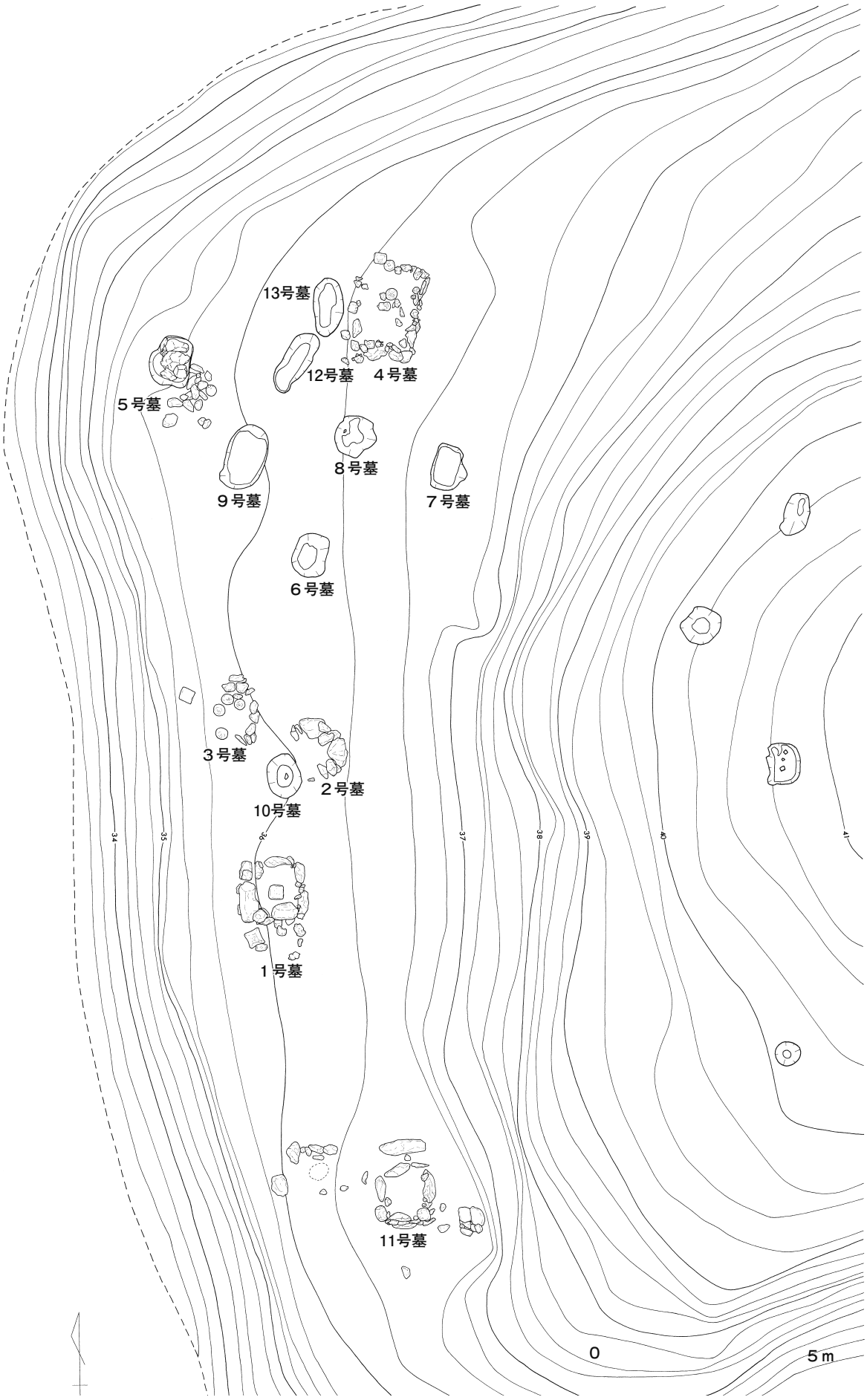
平坦面の南寄りに位置するもので、隣接する２号墓は北1.5m、11号墓は南東５ｍである。

方形基壇をもつ火葬墓で、基壇は南北1.3m・東西1.4m・高さ0.25mである。北辺には立石が用いられるが、その他の辺は石材を１～２段積む程度である。基壇の中央部には、五輪塔の地輪が原位置を保った状態で残っており、１号墓に伴うかどうかは不明であるが、基壇の南側で五輪塔の空風輪２点、火輪１点、水輪片１点が検出されている。基壇の内部は、上層より茶褐色土（１層）・黒色土（２層）が入り、底面の西寄りでは径30㎝ほどの浅い掘り込みが確認されている。基壇内部の北東寄りでは銅銭26枚と、その周辺を中心に火葬骨も出土した。

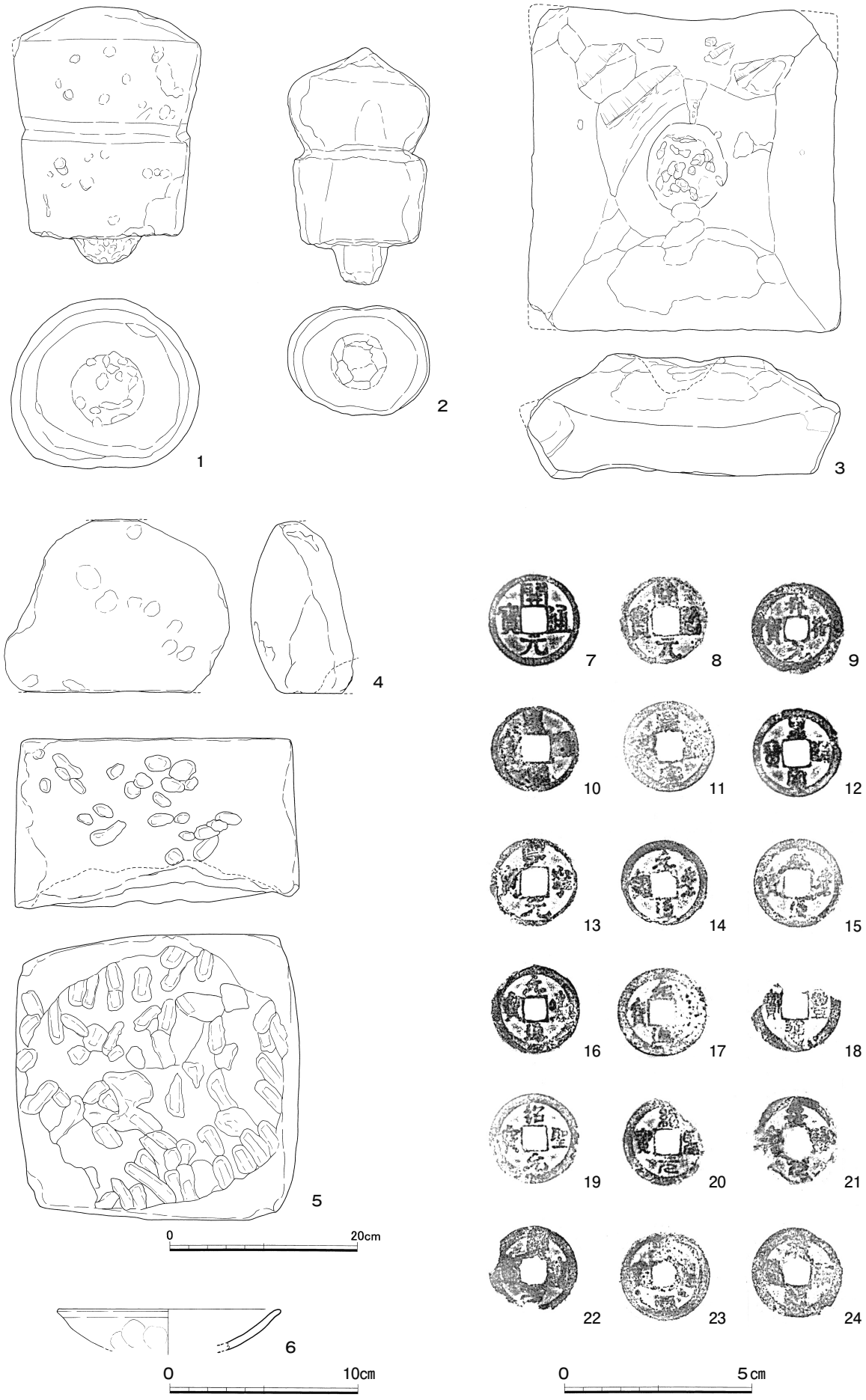
第14図１と２は空風輪である。１は空輪頂部が丸味を帯び、空風輪の括れ部は溝を廻らせたもので、高さ27.0㎝・空輪径20㎝・風輪径18㎝である。下端の枘は丸みを帯び短く、径7.5㎝・高さ2.5



第12図　１号墓遺構実測図（Ｓ＝１／30）



第13図　古墓群遺構配置図（S＝1／125）



第14図　１号墓出土遺物実測図（S＝１／６・１／３・２／３）

㎝である。２は頂部が宝珠形を呈し、括れ部の明確なもので、高さ25.0㎝・空輪径15.0㎝・風輪径14.0㎝である。下端の枘は細く、径6.0㎝・高さ4.0㎝である。３は火輪である。一辺32～34㎝の方形で、高さは12㎝と低いのが特徴であり、頂部に径８㎝・深さ3.5㎝の枘穴が設けられる。空風輪１と組み合う可能性がある。４は水輪の破片で、復原径30㎝・高さ18.5㎝である。上下面に窪みが見られるが、下面は刳り込みが深い。５は地輪で、一辺26～30㎝の方形を呈し、高さは17～18㎝である。下面には４㎝ほどの刳り込みがあり、加工痕が顕著に残る。

６は土師質土器皿である。体部は丸みを帯び、外面は指押さえで、型作りと見られる。

７～24は銅銭である。７・８は開元通寶、９は祥符元寶、10～12は皇宋通寶、13は熙寧元寶、14～18は元豊通寶、19・20は紹聖元寶、21は景祐元寶、22～24は不明である。

（２）　２号墓

平坦面のほぼ中央部に位置するもので、３号墓の東0.8m、10号墓の東側に隣接する。

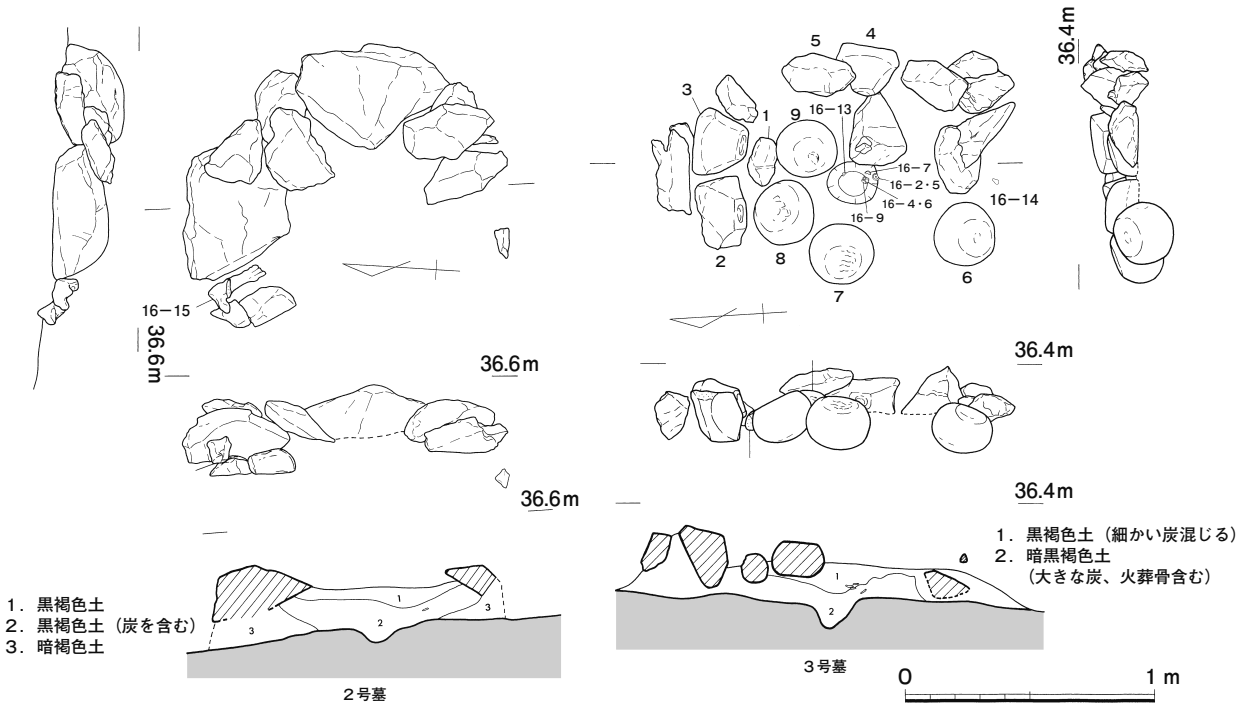
本来、方形基壇をもつものであったと見られるが、西及び南辺の石材は失われており、基壇は現状で北辺1.0m・東辺0.9m・高さ0.2～0.3mである。各辺は石材を１段または２段に積んでおり、北辺には石臼片も含まれていた。基壇の内部には上層より黒褐色土（１層)･炭を含む黒褐色土（２層）が入っており、底面には浅い掘り込みがある。２層の中からは骨片は確認できなかったが、炭が含まれることや、鉄釘が出土したことから、本来は火葬骨を納めていたものと考えられる。

第16図11は鉄釘で、頭部を欠くが、現状で長さ4.6㎝・幅0.4㎝である。15は石臼片である。上臼に当たるものと見られ、上縁と窪み、下面には放射状に擂目が入る。窪みに見られる孔は径４㎝程度で、石臼周縁に対し偏った位置にあることから、穀物の供給孔に当たる可能性がある。

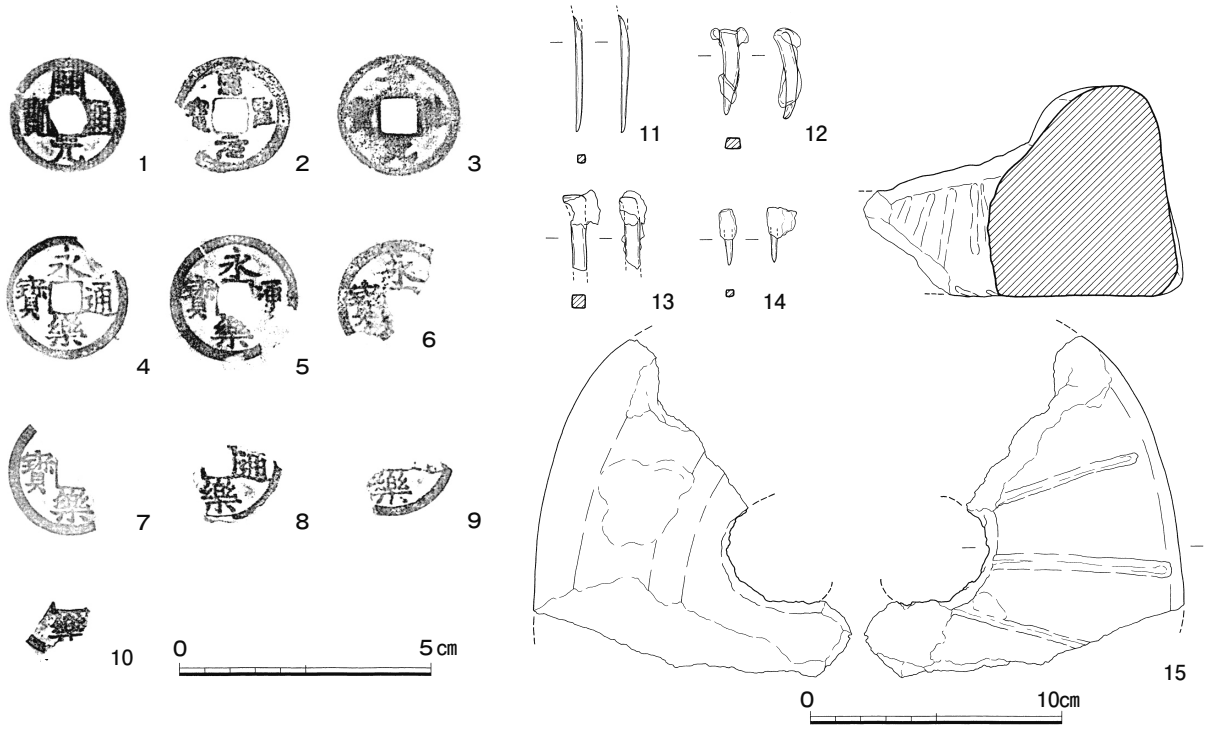
（３）　３号墓

平坦面のほぼ中央部に位置するもので、１号墓の北2.5m、６号墓の南東2.5mにある。

長方形基壇をもつ火葬墓で、基壇は南北1.3m・東西1.0m前後で、高さは0.25mである。北辺と



第15図　２号墓・３号墓遺構実測図（S＝１／30）



第16図　２・３・６号墓出土遺物実測図（Ｓ＝２／３・１／３）

東辺には五輪塔火輪４点が頂部を内側に向けて並べられ、内側には空風輪１点と水輪４点が置かれていた。基壇の内部には、上層より炭が混じる黒褐色土（１層）・炭を含む暗黒褐色土（２層）が入り、２層からは火葬骨と銅銭10枚・鉄釘２本が出土している。

第16図１～10は銅銭である。１は開元通寶、２は天聖元寶、３は景祐元寶、４～10は永楽通寶である。13・14は鉄釘片で、13は長さ3.0㎝・幅0.6㎝、14は長さ2.3㎝・幅0.3㎝である。

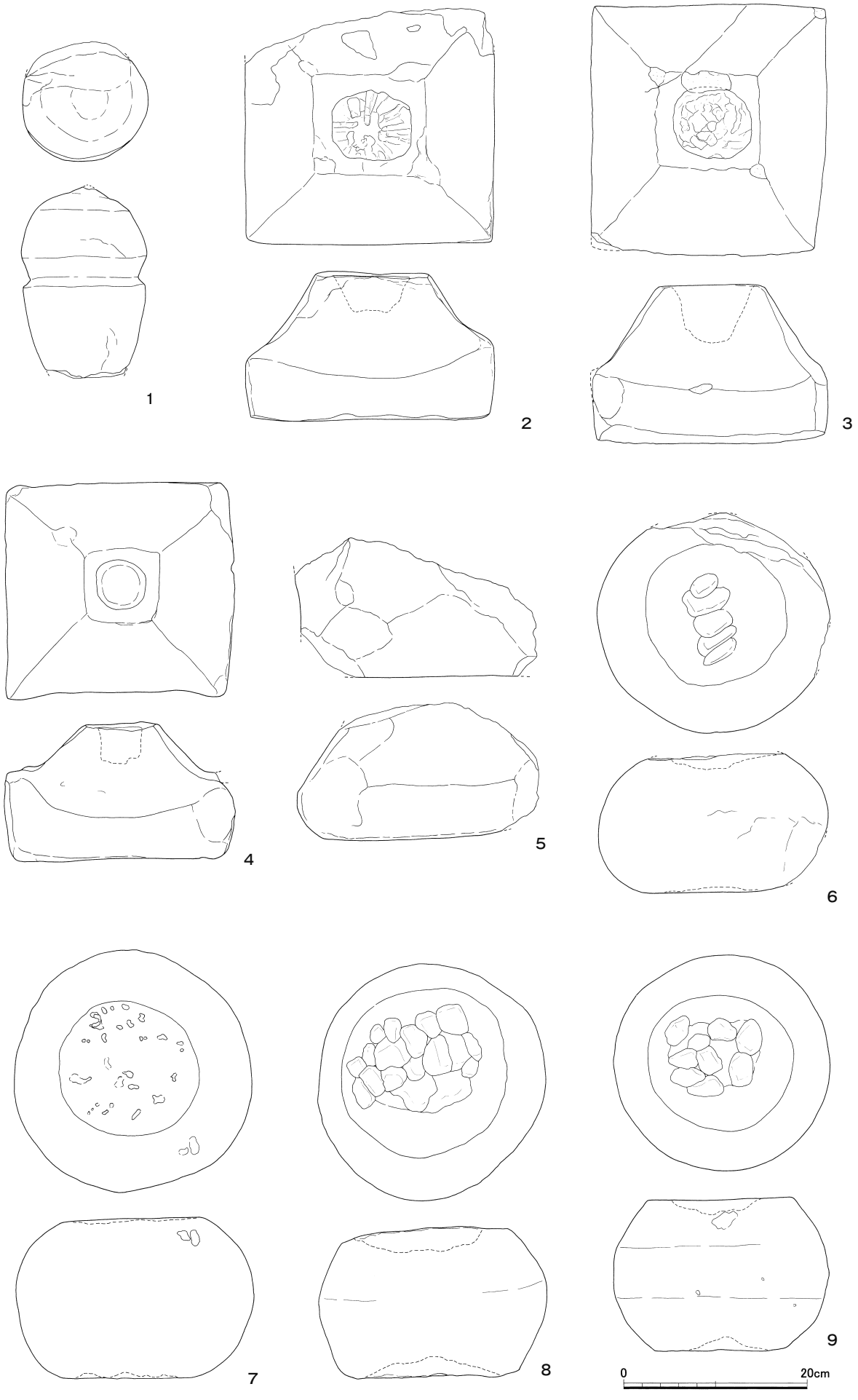
第17図１は空風輪で、下端を欠くが空輪に対し風輪が大きい。径13.5㎝・高さ20.5㎝である。２～５は火輪である。２は一辺27㎝の方形で、高さは16.0㎝、頂部に径7.5～8.5㎝・深さ4.0㎝の枘穴がある。３は一辺24.5～27.0㎝の方形で、高さは17.5㎝、頂部に径8.0～8.5㎝・深さ6.2㎝の枘穴がある。４は一辺22.5～24.0㎝の方形で、高さは15.0㎝で、頂部に径5.3㎝・深さ4.0㎝の枘穴がある。５は隅部片である。

６～９は水輪である。６は径25.0㎝・高さ15.0㎝で、上下面に浅い窪みが見られる。７は径26.0㎝・高さ17.5㎝で、上下面に浅い窪みがある。８は径24.5～25.5㎝・高さ16.0㎝で、上下面に２㎝前後の窪みがある。９は径23.5㎝・高さ16.5㎝で、上下面に1.5㎝前後の窪みがある。

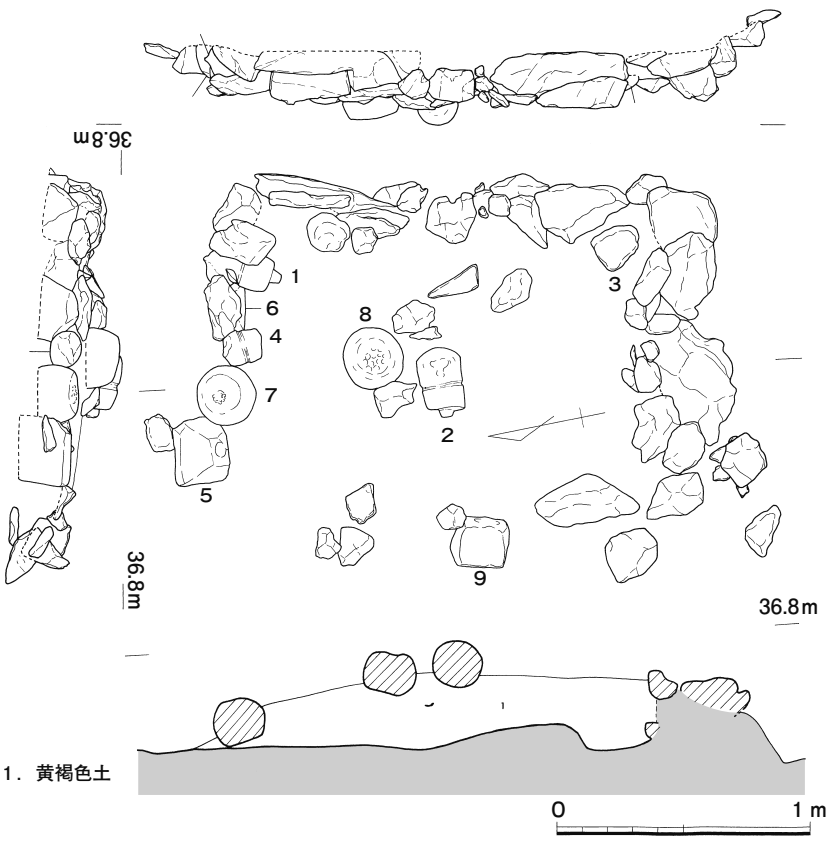
（４）　４号墓

平坦面の北端部に位置するもので、12・13号墓の東側に隣接する。

長方形基壇をもつもので、基壇は南北2.0m・西辺の遺存状況は良くないが東西1.5m前後、高さは0.25～0.3mである。基壇の石積みは北辺には五輪塔空風輪２点・火輪２点・水輪１点、西辺には地輪１点が用いられ、東・南辺は割石が１～２段積みされている。基壇の内部は、黄褐色土（１層）のみで、その上面で空風輪と水輪が検出されているが、埋葬の痕跡は確認されなかった。隣接する12・13号墓で火葬骨が確認されていることから、多少位置はずれるがこれに伴う基壇である可能性と、埋葬を伴わない供養塔である可能性が考えられる。



第17図　３号墓出土五輪塔実測図（Ｓ＝１／６）



第18図　４号墓遺構実測図（Ｓ＝１／30）

第19図１～４は空風輪である。１は空輪が宝珠形を呈するもので、空風輪の括れ部が明確で、高さ30.5㎝・空輪径16.5㎝・風輪径15.5㎝である。下端の枘は細く、径6.0㎝・高さ4.2㎝である。２は空輪頂部が丸味を帯び、括れ部に溝を廻らせたもので、高さ26.0㎝・空輪径18.0㎝・風輪径17.0㎝である。下端の枘は短く、径6.5㎝・高さ3.0㎝である。３も空輪頂部が丸味を帯び、括れ部に溝を廻らせたものであるが、下端は欠損する。現状で高さ20.0㎝・空輪径15.0㎝である。４は空輪下端の破片で、現状で高さ17.5㎝・風輪径13.0㎝である。下端の枘は径6.5㎝・高さ3.5㎝である。

５・６は火輪である。５は一辺26.0㎝の方形で、高さは14.0㎝、頂部に径6.0㎝・深さ4.0㎝の枘穴が設けられる。６は各辺がやや丸味を帯びるが一辺26.5㎝の方形で、高さは17.5㎝、頂部に径5.0㎝・深さ3.5㎝の枘穴がある。

７・８は水輪である。７は径23.5㎝・高さ15.0㎝で、上下面に深さ1.5～2.0㎝の窪みがある。８は径23.5㎝・高さ15.0㎝で、上下面に3㎝前後の窪みがある。

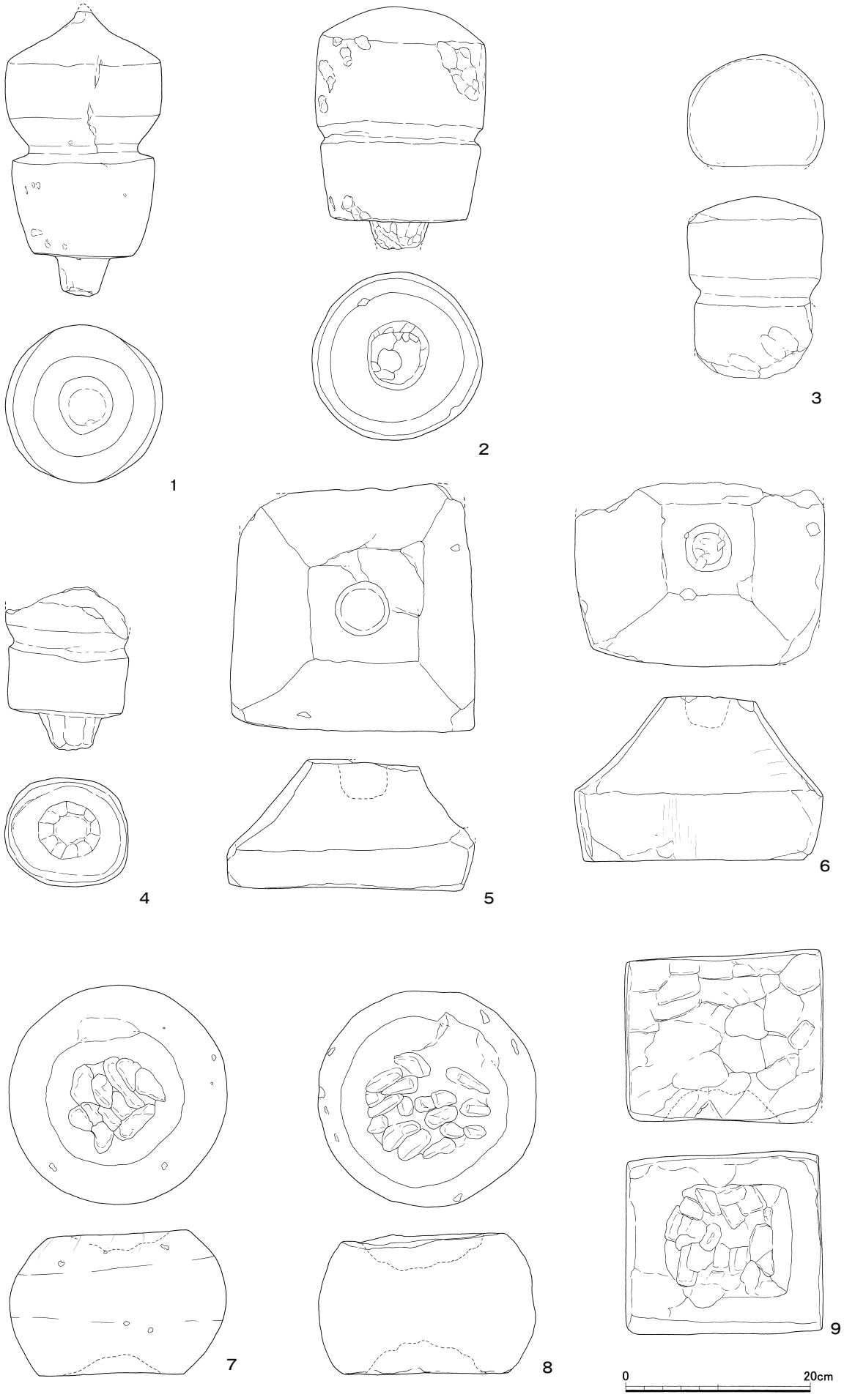
９は地輪である。一辺21.5㎝・高さ18.0㎝で、各面に顕著な加工痕が残り、下面には深さ3.0㎝の刳り込みが見られる。

（５）　５号墓

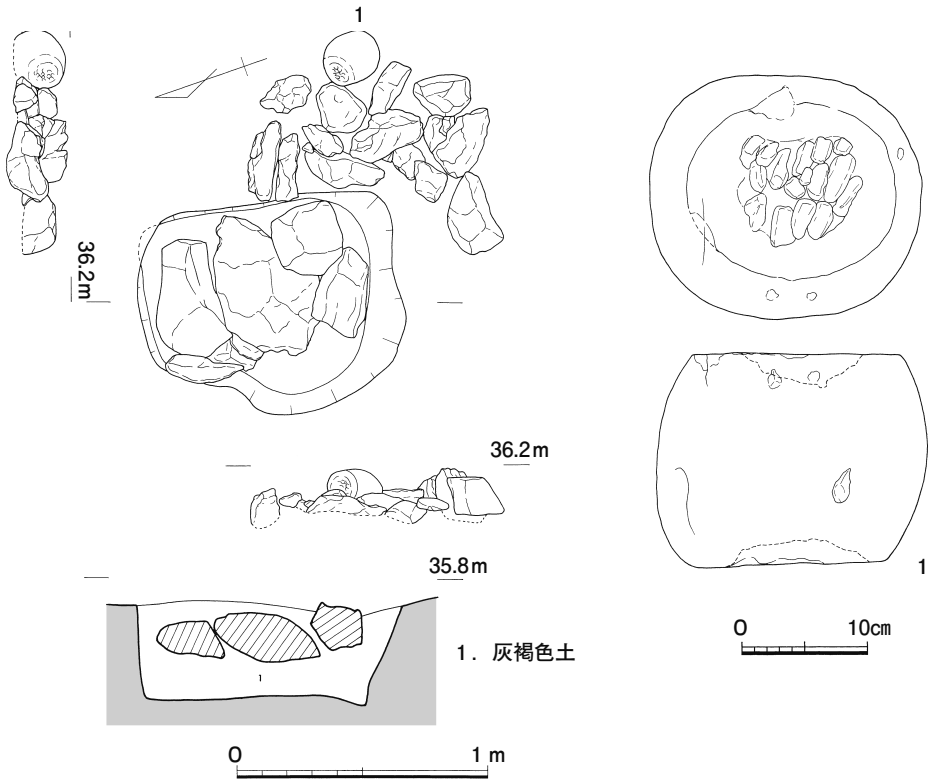
平坦面の北端部にあり、４号墓の西3.5m、９号墓の北西1.5mに位置する。

墓坑の南東に隣接する位置に集石、墓坑の内部にも石が落ち込んでおり、土葬墓と考えられる。墓坑東南の集石は南北95㎝・東西60㎝の範囲に石が集められており、その中には五輪塔水輪が１点含まれていた。墓坑は長さ1.0m・幅0.85m・深さ0.4mで、埋土である灰褐色土（１層）の中程に大形の石材が陥没したような状態で入っていた。その状況から見て、標石として墓坑上に置かれた石が陥没した後、改めて集石が行われたものと思われる。

第20図１は集石に含まれていた五輪塔水輪である。径19.5～21.5㎝・高さ17.0㎝で、上下面に深さ2.0～2.5㎝の窪みがある。



第19図　４号墓出土五輪塔実測図（Ｓ＝１／６）



第20図　５号墓遺構・遺物実測図（Ｓ＝１／30・１／６）

（６）　６号墓

平坦面の北半部にあり、３号墓の北4.0m、９号墓の南西1.5mに位置する。

墓坑の上面に標石が置かれた土葬墓と考えられる。墓坑は長さ0.9m・幅0.65m・深さ0.3mで、埋土は上層より地山礫を含む暗褐色土（１層）・褐色土（２層）の順に堆積する。標石は30㎝大で、１層に入っていた。墓坑内からは鉄釘１点が出土している。

第16図12は鉄釘である。やや曲がるが完形で、長さ3.5㎝・幅0.6㎝・厚さ0.5㎝である。

（７）　７号墓

平坦面の北半部にあり、４号墓の南東2.0m、８号墓の東1.5mに位置する。

墓坑の上面に標石が置かれた土葬墓と見られる。墓坑は長さ0.95m・幅0.55m・深さ0.3mで、埋土は灰褐色砂質土（１層）のみである。墓坑内には大形の石が落ち込んだ状態で入っており、これは本来墓坑の上に置かれていた標石と思われる。出土遺物はなかった。

（８）　８号墓

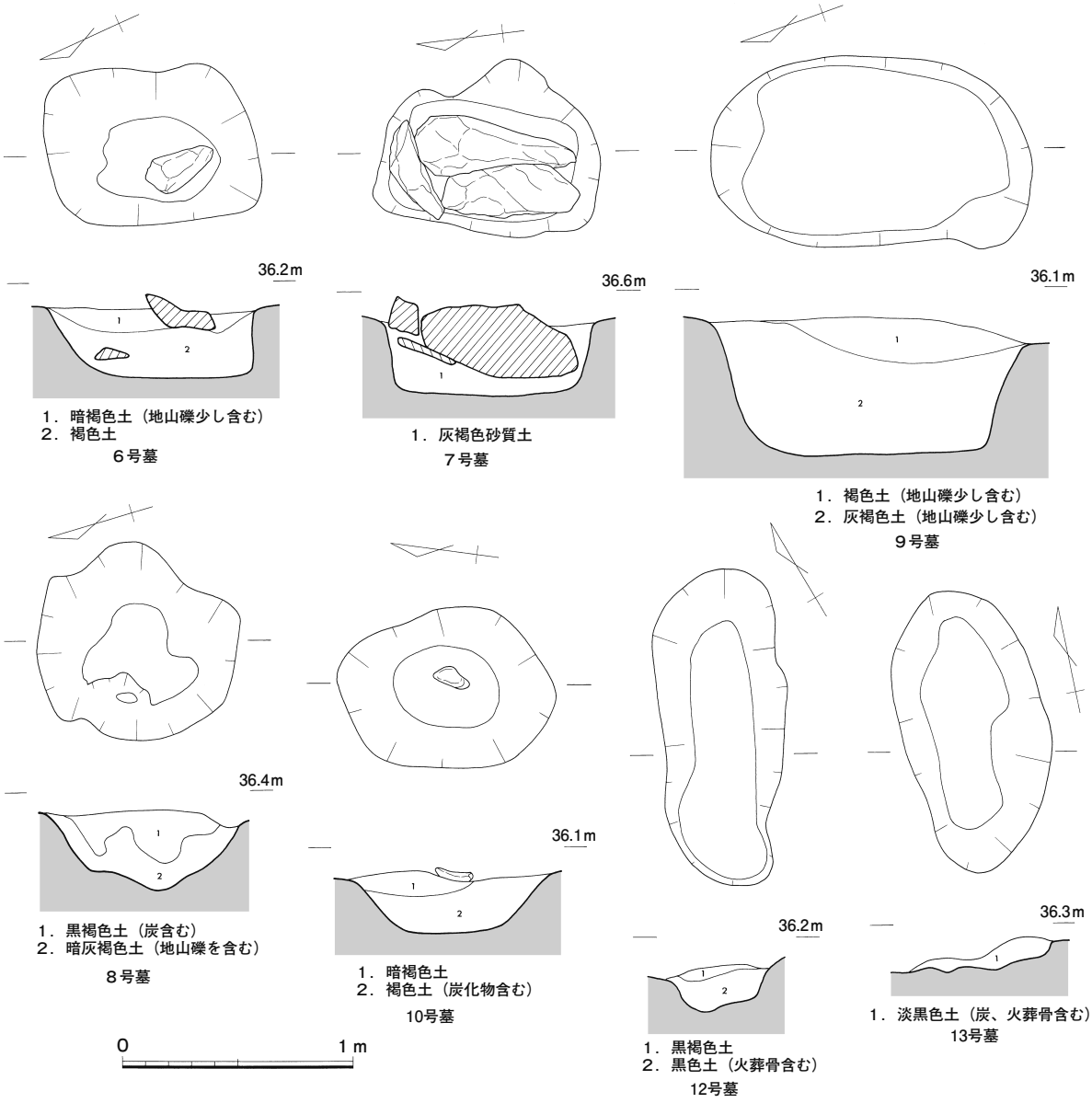
平坦面の北半部にあり、４号墓の南1.2m、６号墓の北2.0mに位置する。

不整形な円形をした小形の土坑で、径0.85m・深さ0.35mである。埋土は上層より炭を含む黒褐色土（１層）・地山礫を含む暗灰褐色土（２層）の順に堆積する。火葬骨は確認されなかったが、埋土中に炭がかなり含まれていたことから、火葬墓の可能性が考えられる。出土遺物は見られなかった。

（９）　９号墓

平坦面の北半部にあり、５号墓の南東1.5m、６号墓の北西1.5mに位置する。

平面が楕円形をした土葬墓で、長径1.4m・短径0.82m・深さ0.6mである。埋土は上層より地山礫を少し含む褐色土（１層）・地山礫を少し含む灰褐色土（２層）の順に堆積する。遺物は検出されていない。



第21図　6～10・12・13号墓遺構実測図（S＝1／30）

(10)　10号墓

平坦面の中央部にあり、２号墓の西に隣接し、１号墓の北1.2mに位置する。

平面が楕円形をした土葬墓で、長径0.95m・短径0.7m・深さ0.25mである。埋土は上層より暗褐色土（１層）・炭化物を含む暗褐色土（２層）の順に堆積する。１層の上には標石と見られる15㎝大の石があるが、内部から遺物は検出されていない。

(11)　11号墓

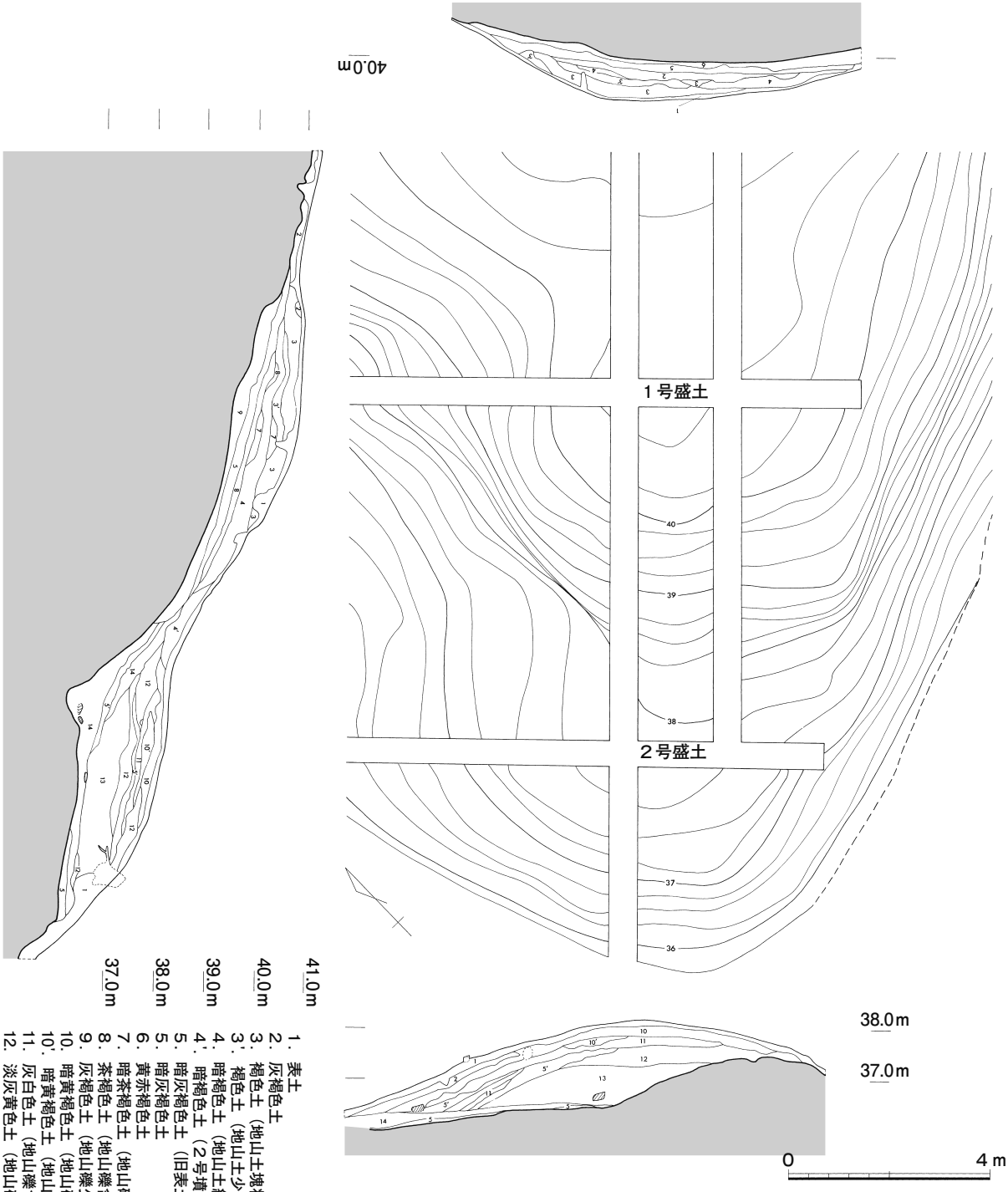
古墓群の中では最も南にあるもので、丘陵斜面から平坦面にかけて盛土遺構の下で検出された。

盛土遺構は丘陵頂部側から２ヶ所が認められ、順に１号盛土・２号盛土とした。１号盛土は、南北7.5m・東西7.0m・高さは厚いところで1.0mある。旧表土である暗灰褐色土（５層）の上に灰褐色土（２層）・褐色土（３層）・暗褐色土（４層）・暗茶褐色土（７層）・茶褐色土（８層）が互層状に盛土されているが、旧表土面や盛土中では遺構は確認できなかった。

２号盛土は１号盛土との前後関係は不明であるが、斜面をＬ字形に加工した平坦面の上に盛土されている。その直下に11号墓が営まれており、２号盛土は11号墓に伴う盛土と考えられる。盛土は

南北９ｍ・東西６ｍ・高さは厚いところで1.7mある。盛土の上半部は暗灰褐色土（５´層）・暗黄褐色土（10層）・灰白色土（11層）・淡灰黄色土（12層）が互層状に見られるが、下半部は灰黄色土（13層）が厚く盛られており、11号墓はその下層の明灰褐色土（14層）に覆われていた。

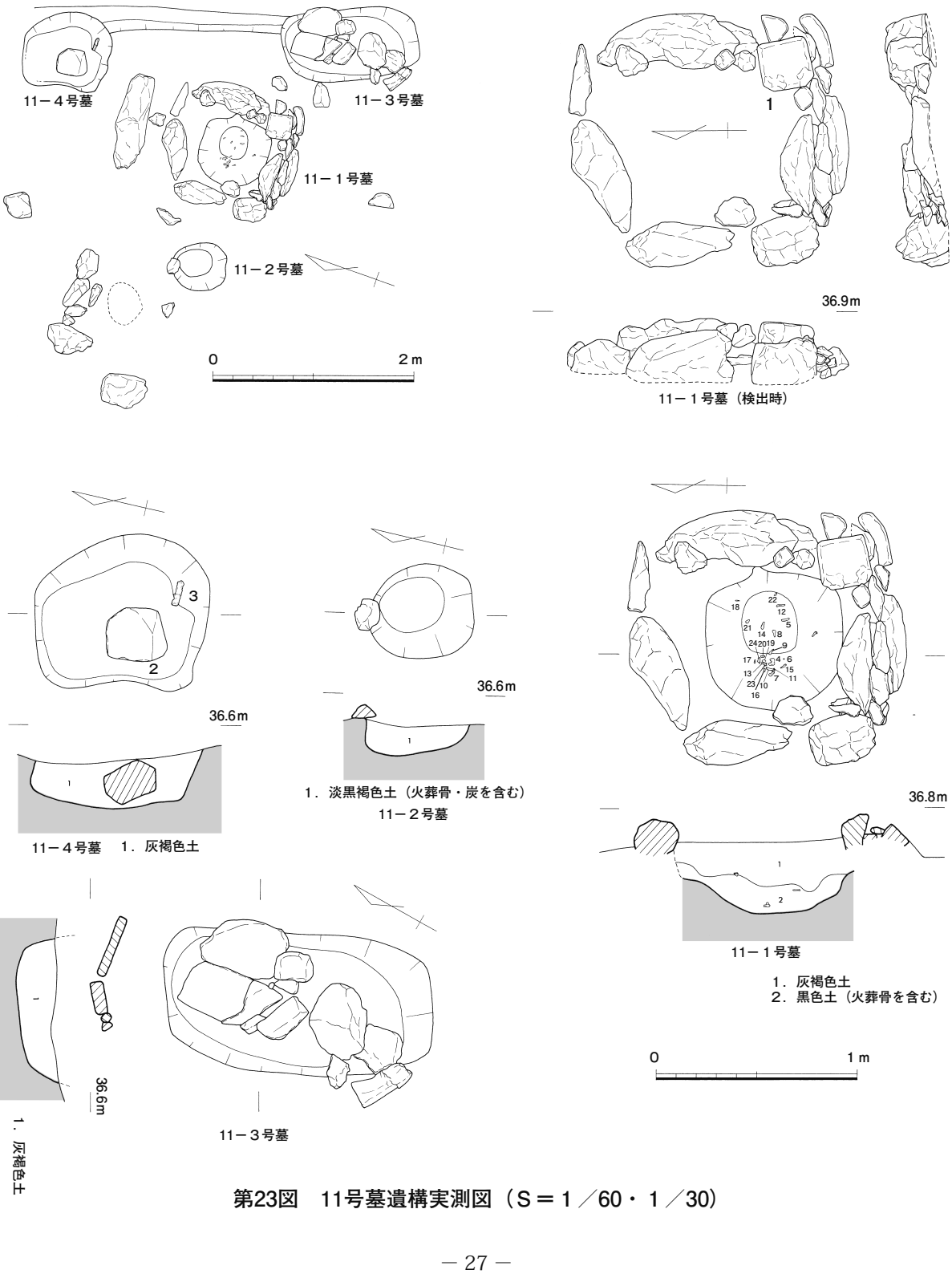
２号盛土の下面で検出された11号墓は、11－１号墓～11－４号墓の計４基の古墓よりなる。11－１号墓は方形の基壇をもつ火葬墓で、基壇は南北1.4m・東西1.25mで、高さは0.3mである。基壇は１段の列石よりなるが、南東隅には五輪塔地輪が置かれていた。基壇の内部には、灰褐色土（1



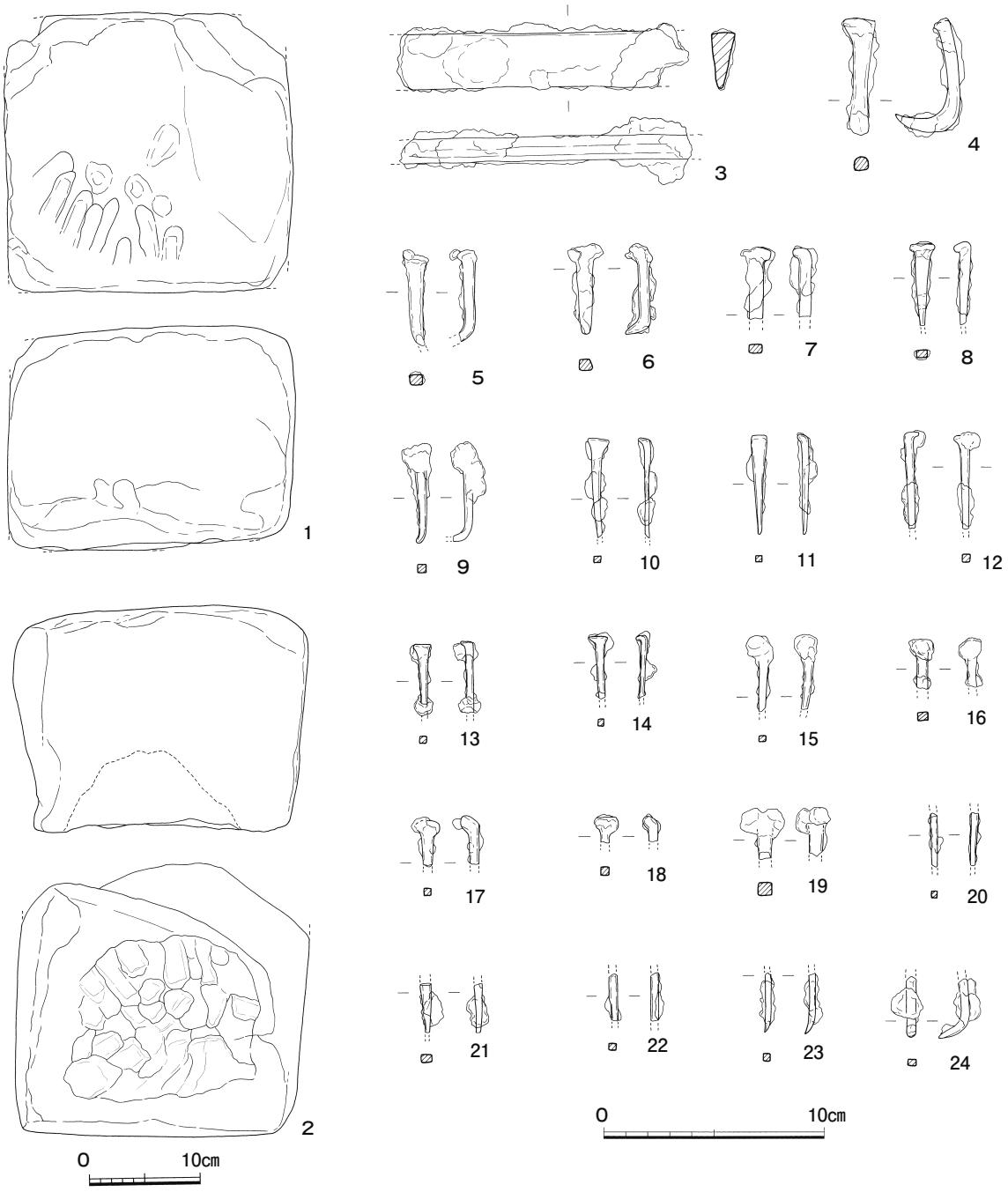
第22図　１号盛土・２号盛土遺構実測図（Ｓ＝１／125）

層）が入っており、底面に一辺65㎝・深さ20㎝ほどの土坑が掘り込まれている。土坑の埋土は黒色土（２層）で、内部からは火葬骨･鉄釘･銅銭片が出土している。11－２号墓は、11－１号墓の西0.5ｍのところに営まれた火葬墓である。楕円形を呈する墓坑は、長径50㎝・短径45㎝・深さ15㎝である。埋土は淡黒褐色土（１層）で、炭と火葬骨が検出されている。

11－３号墓と11－４号墓は平坦面の山側に営まれており、浅い溝で繋がっている。11－１号墓との距離は11－３号墓が東0.5m、11－４号墓が北1.0ｍである。11－３号墓は平面が長方形をした土



第23図　11号墓遺構実測図（S＝1／60・1／30）



第24図　11号墓出土遺物実測図（S＝1／6・1／3）

葬墓で、長さ1.32m・幅0.7m・検出面からの深さは0.2mである。墓坑の上部には標石として石が置かれており、埋土は灰褐色土（1層）である。遺物は検出されていない。11－4号墓は平面が不整な方形をした土葬墓で、長さ0.85m・幅0.7m・検出面からの深さは0.25mである。墓坑の埋土は灰褐色土（1層）で、内部より五輪塔地輪と鉄刀片が出土している。

第24図1・2は五輪塔地輪である。1は一辺25.0㎝・高さ20.0㎝で、上面に加工痕が残る。2も一辺25.0㎝・高さ20.0㎝であるが、下面には深さ6.5㎝の刳り込みが見られる。

3は鉄刀の刃部片である。長さは現状で13.0㎝・幅2.3㎝・厚さは1.0㎝である。

4～24は鉄釘である。曲がりや欠損のあるものが多いが、4のように長さ6.5㎝・幅0.8㎝と大きいものと、11のように長さ4.5㎝・幅0.6㎝と小さいものが見られる。

(12)　12号墓

平坦面の北端部にあり、４号墓の西、13号墓の南に隣接する。

平面は不整な長楕円形をした火葬墓で、長径1.35m・短径0.5m・深さ0.2mである。埋土は上層より黒褐色土（１層）・黒色土（２層）の順に堆積しており、２層から火葬骨が出土している。

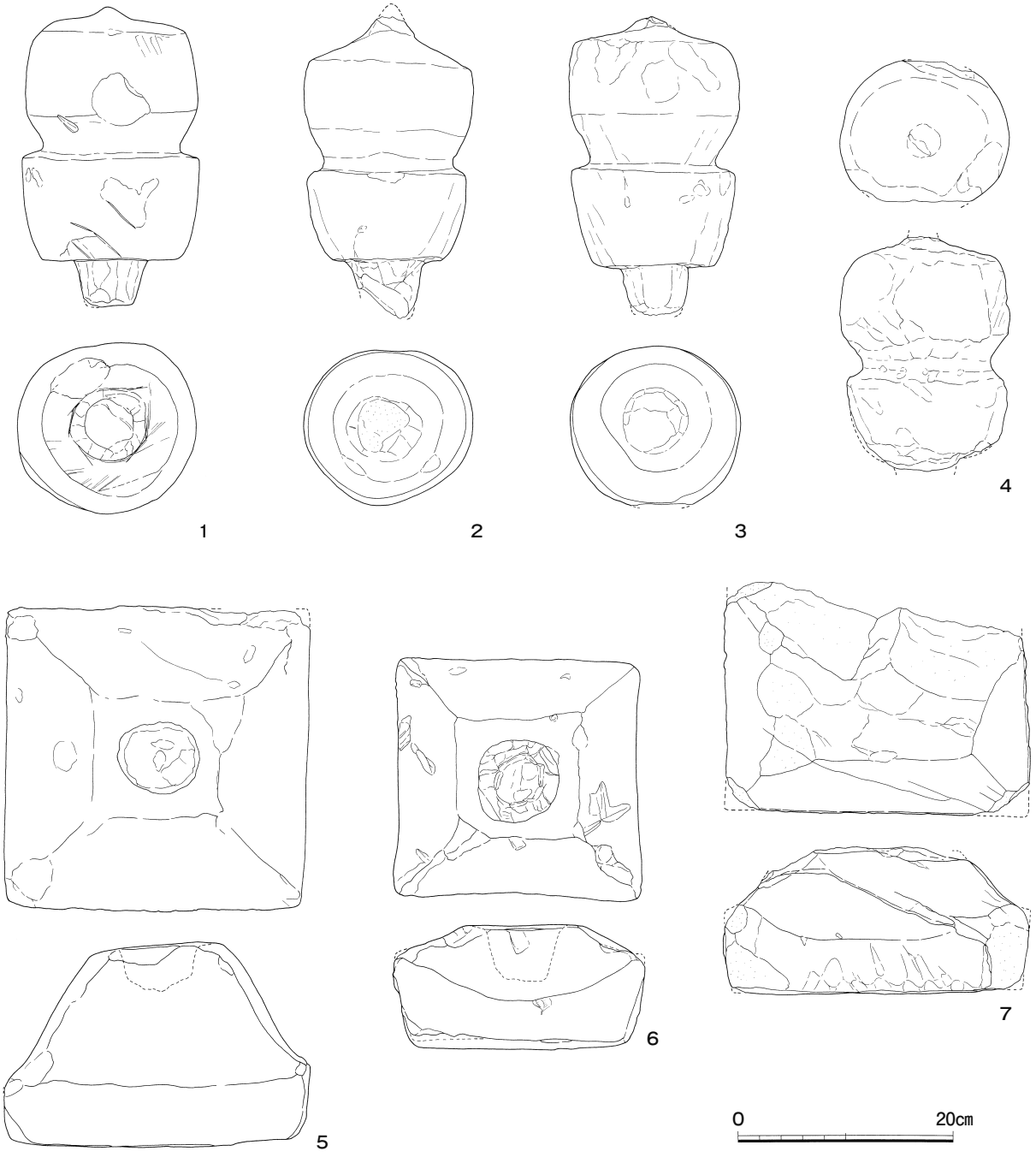
(13)　13号墓

平坦面の北端部にあり、４号墓の西、12号墓の北に隣接する。

平面は不整な長楕円形をした火葬墓で、長径1.2m・短径0.6m・深さ0.1mである。埋土は淡黒色土（１層）のみで、火葬骨が出土している。

(14)　遺構に伴わない五輪塔

第25図１～４は空風輪である。１は空輪が宝珠形を呈するもので、高さ23.0㎝・空輪径16.0㎝・

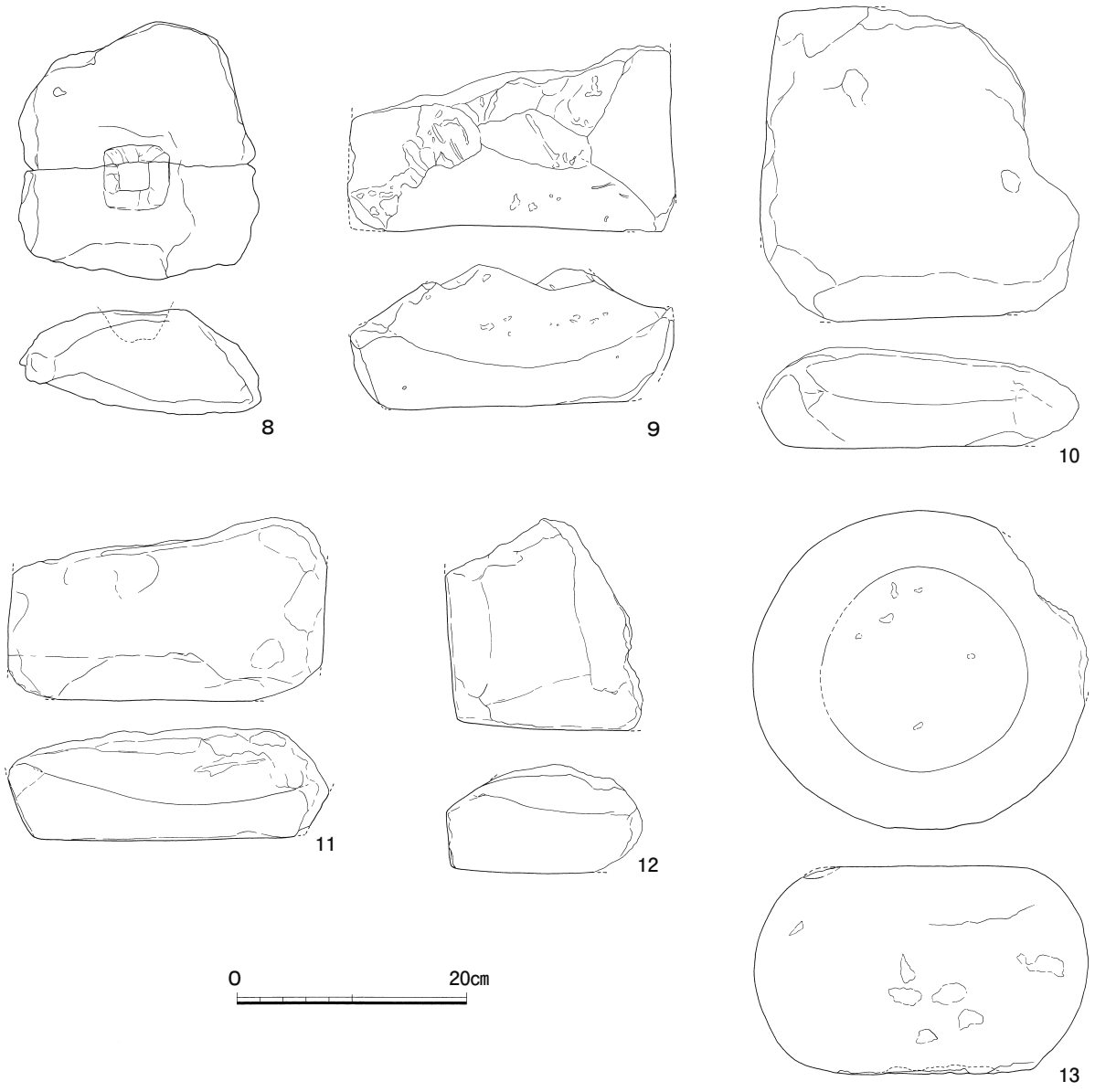


第25図　遺構に伴わない五輪塔実測図１（Ｓ＝１／６）

風輪径16.5㎝である。下端の枘は径7.0㎝・高さ4.5㎝である。２も空輪が宝珠形を呈するが端部のも突起が大きい。高さは現状で27.5㎝・空輪径16.5㎝・風輪径15.0㎝である。下端の枘は径7.0㎝・高さ5.5㎝である。３は空輪が宝珠形を呈するもので、高さ27.5㎝・空輪径15.5㎝・風輪径15.0㎝である。下端の枘は径6.0㎝・高さ4.5㎝である。４は両端を欠損するが、現状で高さ21.5㎝・空輪径15.5㎝・風輪径15.0㎝である。

５～12は火輪である。５は一辺28.0㎝の方形で、高さ18.5㎝、頂部に径6.5～7.5㎝・深さ4.5㎝の枘穴が設けられる。６は一辺22.0～23.0㎝の方形で、高さは11.5㎝、頂部に径7.5㎝・深さ5.0㎝の枘穴がある。５に比較して高さが低く、四隅のかえりが大きい。７は一辺28.0㎝の方形で、高さは現状で13.5㎝である。８は頂部の破片で、一辺5.5㎝･深さ3.0㎝の方形をした枘穴が設けられる。９は一辺28.0㎝で、四隅のかえりが大きい。10は一辺27.0㎝・現状で高さ8.5㎝である。11は一辺27.5㎝・現状で高さ9.5㎝である。12は隅部の破片で、高さは現状で9.5㎝である。

13は水輪である。径29.0㎝・高さ18.0㎝で、下面に僅かに窪みが見られる。



第26図　遺構に伴わない五輪塔実測図２（Ｓ＝１／６）

第４節　土　坑

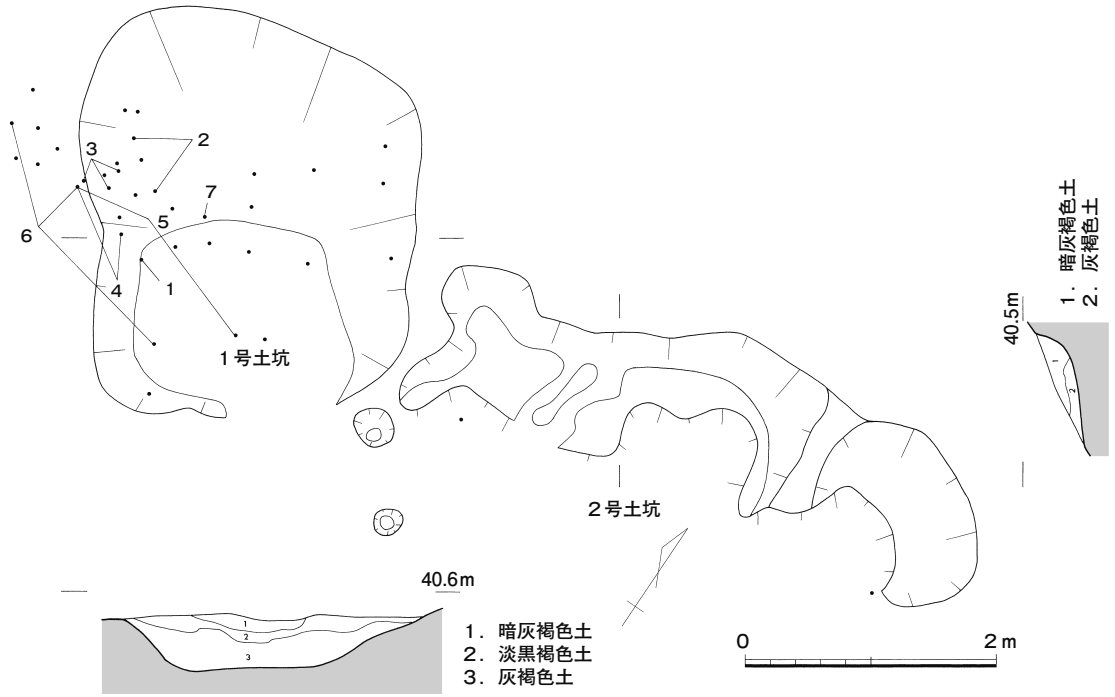
（1）　１・２号土坑

丘陵鞍部南側に位置する土坑で、西側の大形土坑を１号、東側の不整形な落込みを２号とした。

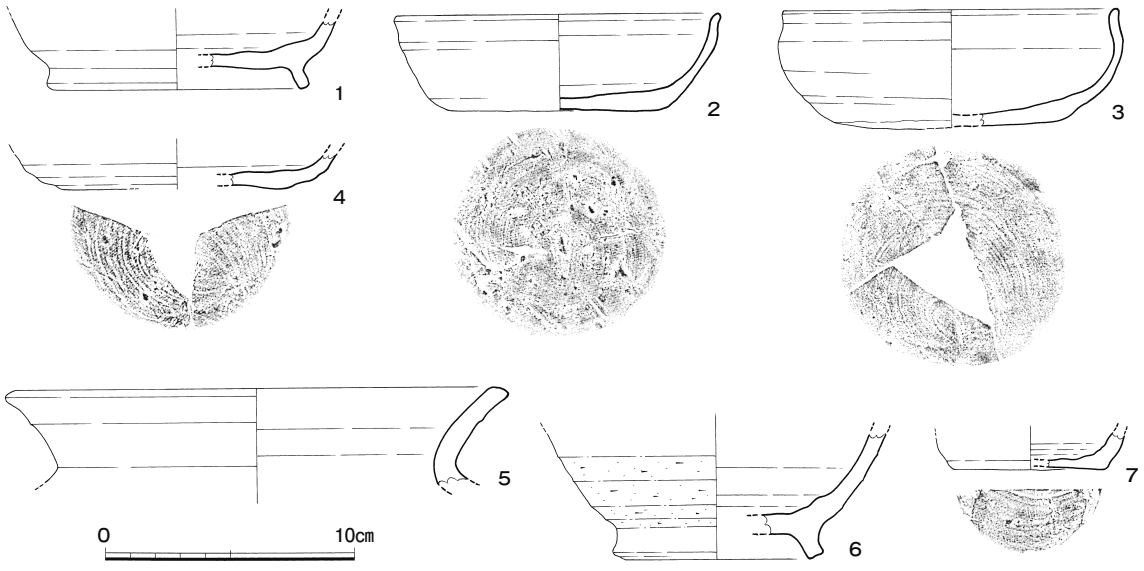
１号土坑は長さ3.2m・幅2.7m・深さ0.45mほどのものである。埋土は上層より暗灰褐色土（１層）・淡黒褐色土（２層）・灰褐色土（３層）が堆積し、上面を中心に須恵器坏・甕・壺などが出土した。

第28図１は高台付坏で、底面に切り離し痕は残さない。２～４は無高台の坏身で、２・３は口縁が緩く括れており、底面は回転糸切りである。５は口縁が外反する甕で、自然釉がかかる。６は高台付きの壺底部で、外面には回転ヘラケズリが施される。７は小形壺の底部で、回転糸切り痕が残る。

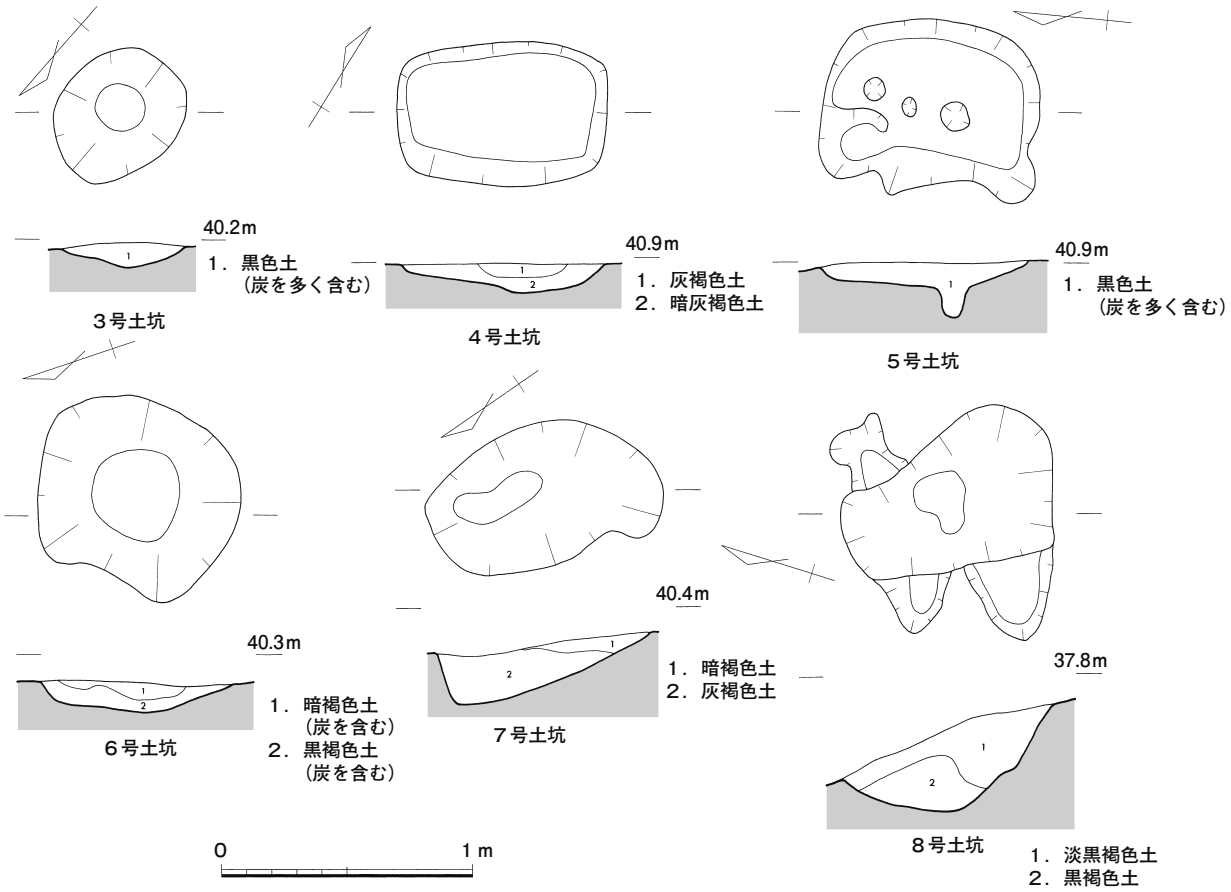
２号土坑は、長さ4.3m・幅1.3mの範囲に掘られた不整形な落込みである。中央部では深さ0.3



第27図　１号土坑・２号土坑遺構実測図（S＝１／60）



第28図　１号土坑出土遺物実測図（S＝１／３）



第29図　３～８号土坑遺構実測図（Ｓ＝１／30）

mほどで、上層より暗灰褐色土（１層）・灰褐色土（２層）が堆積する。

（２）　３号土坑

丘陵鞍部北側に位置する土坑である。円形をした浅い皿状を呈し、径45～50㎝・深さ10㎝である。埋土は炭を多く含んだ黒色土である。

（３）　４号土坑

丘陵頂部南側に位置する土坑である。長方形状を呈し、長さ83㎝・幅58㎝・深さ12㎝である。埋土は上層より灰褐色土（１層）・暗灰褐色土（２層）が入る。

（４）　５号土坑

丘陵頂部西側に位置する土坑である。不整な長方形状を呈し、長さ85㎝・幅65㎝・深さ10㎝である。底面には深さ11㎝ほどの小ピットがあり、埋土は炭を含む黒色土である。

（５）　６号土坑

丘陵頂部西側に位置する土坑である。不整な円形を呈し、径80㎝・深さ12㎝である。埋土は炭を含み、上層より暗褐色土（１層）・黒褐色土（２層）の順に堆積する。

（６）　７号土坑

丘陵頂部北側に位置する土坑である。不整な楕円形を呈し、長径95㎝・短径56㎝・深さ18㎝である。埋土は上層より暗褐色土（１層）・灰褐色土（２層）の順に堆積する。

（７）　８号土坑

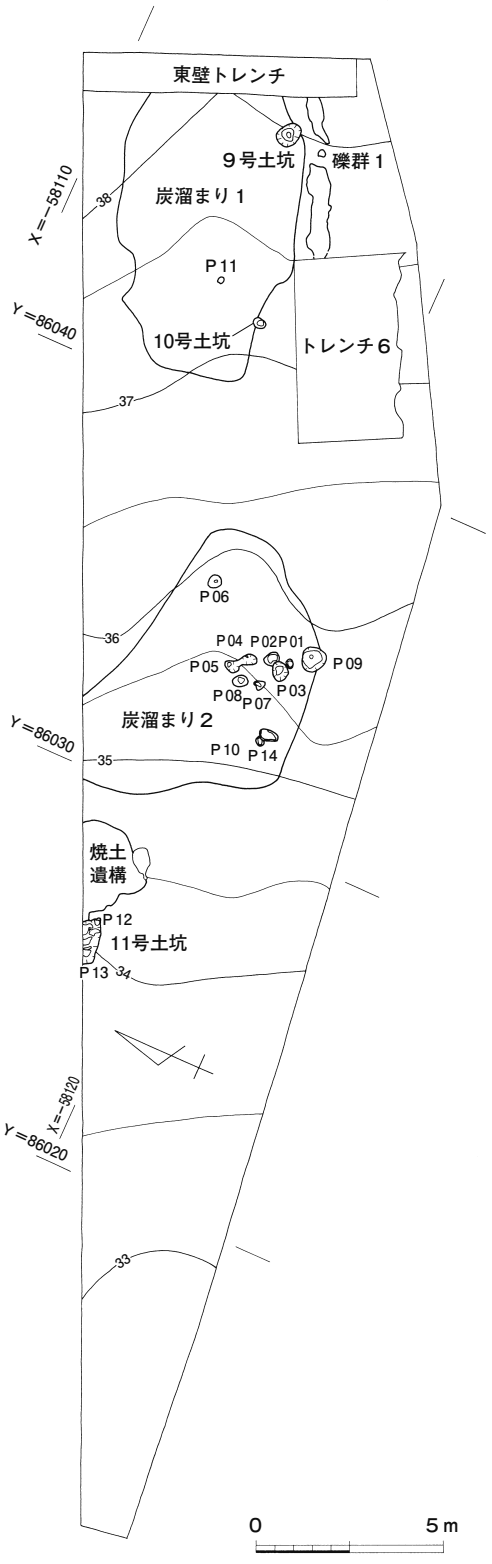
丘陵北側斜面に位置する土坑である。不整なもので、長径85㎝・短径60㎝・深さ38㎝である。埋土は上層より淡黒褐色土（１層）・黒褐色土（２層）の順に堆積する。

第5章　Ⅱ区の調査

（1）　炭溜まり１

Ⅱ区の東端に位置し、南北５ｍ、東西８ｍ以上の平面楕円形を呈する。中央部の深さは40㎝であり、炭片を多く含む黒灰色土が堆積し、中央部から端部にかけて緩やかに立ち上がっている。この黒灰色土には後述する遺物の他に、黄灰色の礫片を多く含んでいた。また９号土坑、10号土坑が炭溜まりの南端付近で検出されている。

第35図１は輪状つまみを持つ蓋で、端部は垂直に垂下している。２も輪状つまみを持つ蓋であるが、端部は内面下方に垂下している。３は端部に受け部を持つ坏の底部で、外面に「キ」字状のヘラ記号、内面に一文字状の痕跡（ヘラ記号？）が施されている。４は高台が付く坏で、底部は静止糸切りと考えられる。５はやや小ぶりの坏で、口縁部の立ち上がりはやや直線的である。６、７は坏の底部であり、底部の切り離しについては、６は静止糸切り、７は回転糸切りと考えられる。８は高坏の筒部で、透かし孔が施されているが、上半は線刻のみである。また坏部との接合部分に「×」状の痕跡があり、坏底部外面にヘラ記号が施されていた可能性がある。９、10は小型の壺である。底部切り離しは、９はヘラ切り、10は自然釉のため不明である。底部の形状は、９が中心付近がやや外側に張り出す状況になっているのに対し、10はきれいな平坦面になっている。また10は器壁が薄く一定しており、焼成が良く、固く締まった感がある。10の口縁端部内部には焼成時に他の個体の一部と考えられる胎土が溶着している。11、12は甑と考えられる。11は口縁端部で、外面に格子状、内面に同心円状の工具痕がある。12は底端部と考えられる。ともに灰白色の色調を呈しており、やや軟質である。13は須恵質土馬の頭部から頸部にかけての部分である。目及び鼻孔は細い竹管状の工具で、口はヘラもしくは棒状の工具で表現されていると考えられる。土馬の右半身部分は風化しているが耳にあたる部分はややふくらんでおり、欠損している左耳部分は不明であるが、本来は両耳が表現されていた可能性も考えられる。14は長頸瓶であり、胴部下方にはタタ



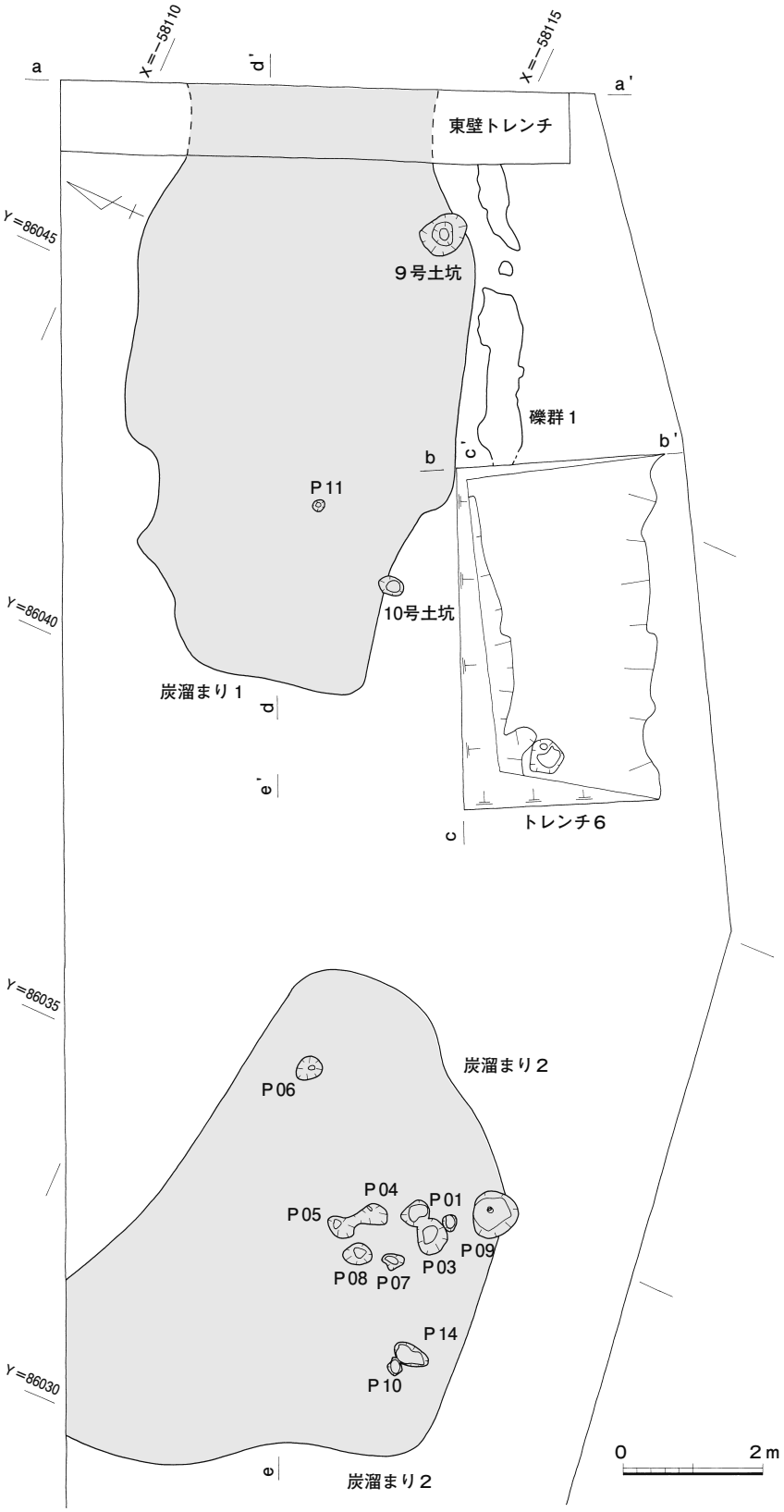
第30図　調査Ⅱ区遺構配置図（Ｓ＝１／200）

キによる工具痕が残っている。また底部内面には高台部分を接合したときの指頭圧痕が残っている。15～17は鉢と考えられる。15、16は口縁端部付近、17は胴部と考えられる。17の内面の一部には工具痕と考えられる痕跡が残っている。18は器種不明の高台部分である。色調は灰白色で、やや軟質である。この他にも須恵器・甕類の破片、土師器の坏または皿の破片、甕片、移動式竈の一部と思われる破片などが出土している。土師器の坏または皿の破片には、赤彩土師器が含まれていた。

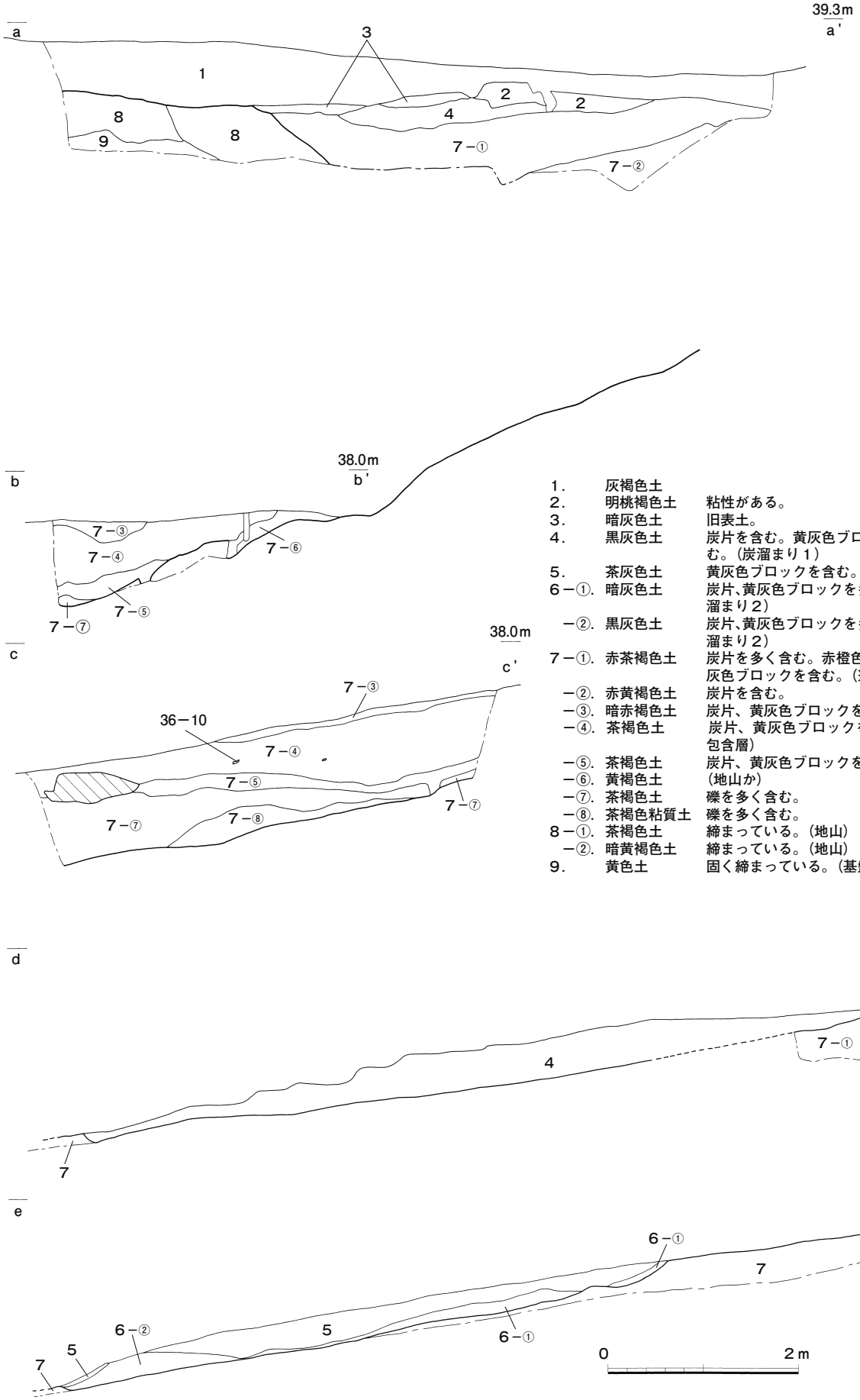
（2） 炭溜まり２

炭溜まり１の西４ｍに位置し、南北６ｍ以上、東西７ｍ、平面形は楕円を歪めたような形状をとる。深さは30㎝であり、中央部から端部にかけて緩やかに立ち上がっている。埋土は３層に分かれており、炭溜まり１同様炭片、黄灰色礫片を多く含んでいる。上層は茶褐色土（第32図５層）で、柱列１～３は７層上面で検出された。５層と７層間の一部には暗灰色土（第６－①層）、黒灰色土（第６－②層）が堆積している。第６－①層は柱列１～３の埋土であり、第５層は後世の撹乱部分と考えられる。また第６－②層については柱列１～３に伴う造成土の可能性が考えられる。

遺物は須恵器（36－１～５）、土師器（36－６）が出土している。１、２は坏である。３は小型の

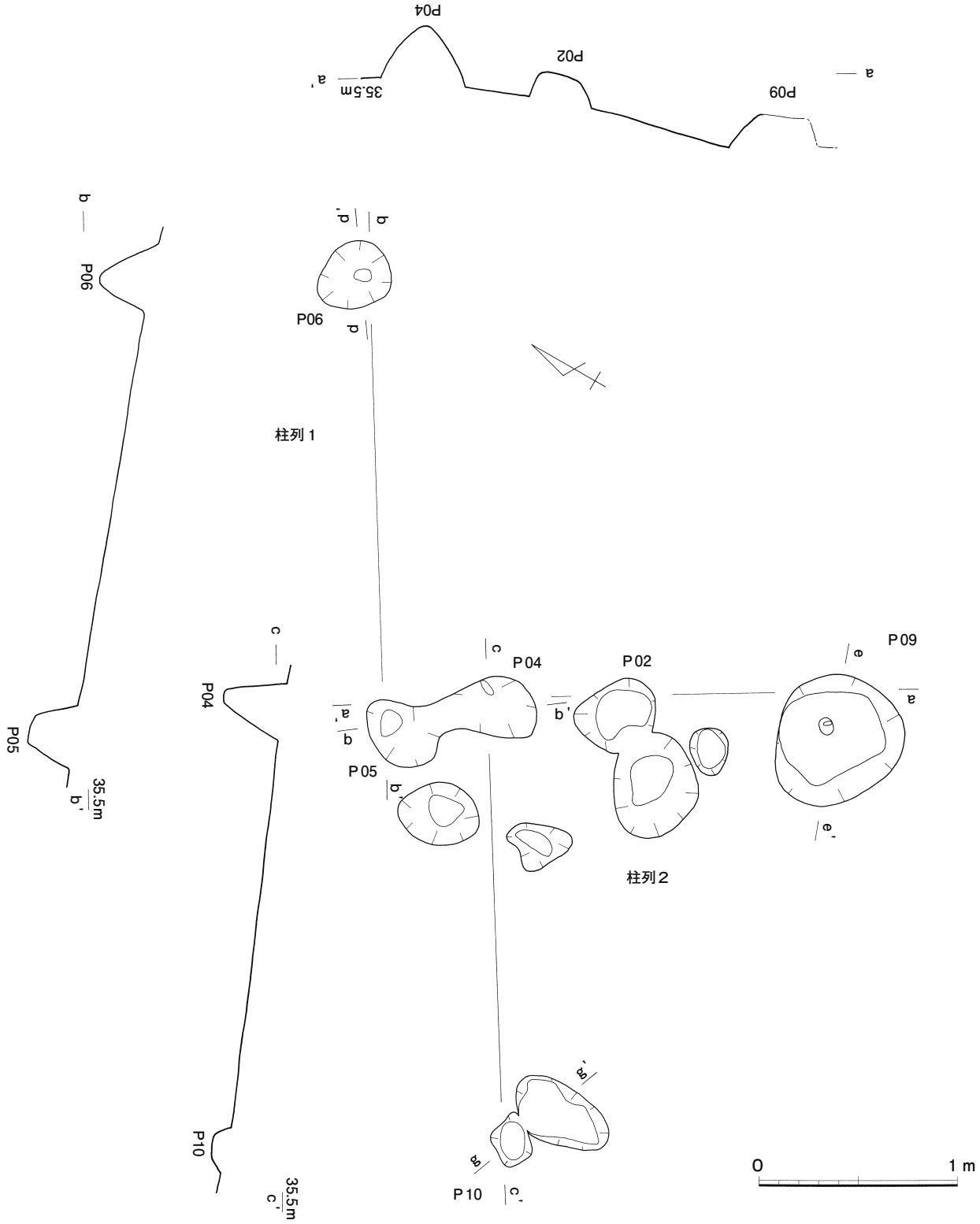


第31図　炭溜まり１・炭溜まり２平面図（Ｓ＝１／100）

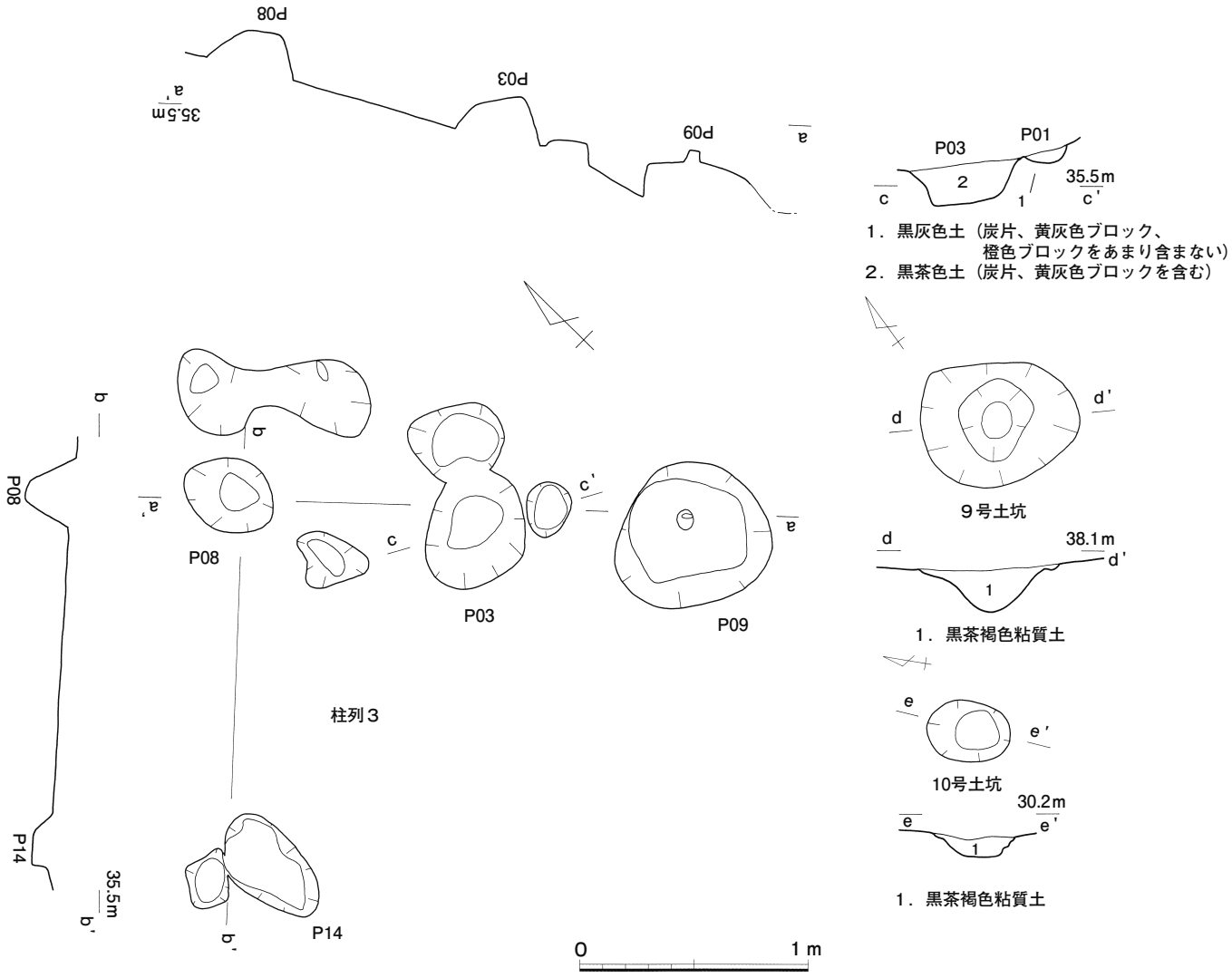


1.	灰褐色土	
2.	明桃褐色土	粘性がある。
3.	暗灰色土	旧表土。
4.	黒灰色土	炭片を含む。黄灰色ブロックを多く含む。（炭溜まり１）
5.	茶灰色土	黄灰色ブロックを含む。
6－①.	暗灰色土	炭片､黄灰色ブロックを多く含む。（炭溜まり２）
－②.	黒灰色土	炭片､黄灰色ブロックを多く含む。（炭溜まり２）
7－①.	赤茶褐色土	炭片を多く含む。赤橙色ブロック、黄灰色ブロックを含む。（遺物包含層）
－②.	赤黄褐色土	炭片を含む。
－③.	暗赤褐色土	炭片、黄灰色ブロックを含む。
－④.	茶褐色土	炭片、黄灰色ブロックを含む。（遺物包含層）
－⑤.	茶褐色土	炭片、黄灰色ブロックを含む。
－⑥.	黄褐色土	（地山か）
－⑦.	茶褐色土	礫を多く含む。
－⑧.	茶褐色粘質土	礫を多く含む。
8－①.	茶褐色土	締まっている。（地山）
－②.	暗黄褐色土	締まっている。（地山）
9.	黄色土	固く締まっている。（基盤層）

第32図　トレンチ・炭溜まり１・炭溜まり２土層図（Ｓ＝１／60）



第33図　柱列１・柱列２実測図（Ｓ＝１／30）



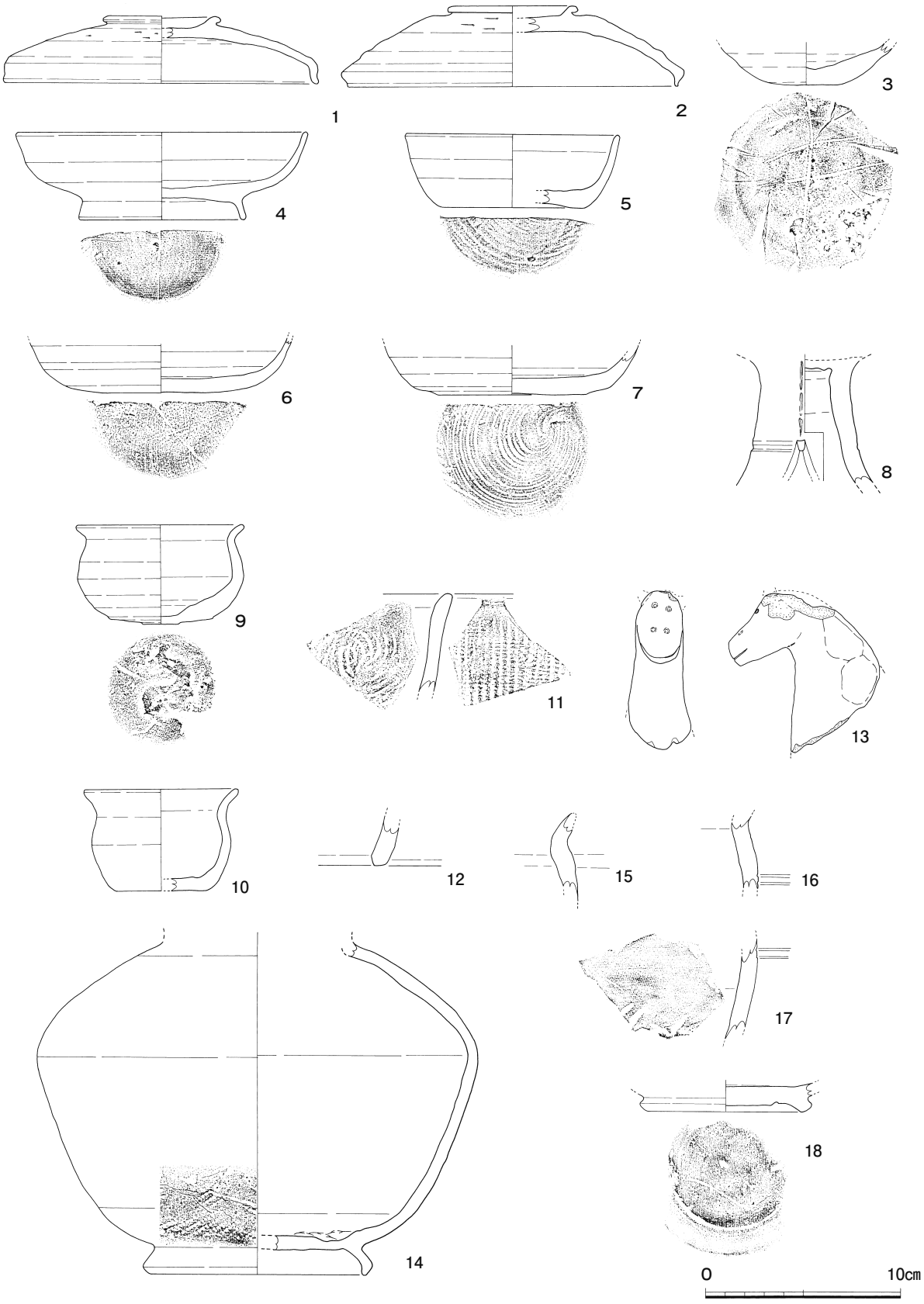
第34図　柱列３実測図（Ｓ＝１／30）

壺もしくは灯明皿で、底部は回転糸切り、また底部の内外面の一部に黒色部分が確認される。４は風化が激しく器種不明である。５も器種不明であるが甑の胴部の可能性が考えられる。外面にはタタキによる工具痕が残るが、内面は風化のため工具痕の確認はできない。６は土製支脚である。またこの他にも、須恵器の甕片、土師器の坏または皿の破片、甕片などが出土している。坏もしくは皿には高台が付き、赤彩が施されているものも含まれている。

（３）　柱列１・柱列２

炭溜まり２部分で検出された。炭溜まり部分の埋土（第６－①層）が、柱列構築以前から存在していたか、柱列にともなったものかは不明である。柱列１のP05－P06間は2.2m、柱列２のP04－P10間は2.2m、P04－P02－P09間はそれぞれ0.7m、1.0mである。ピットの埋土は黒灰色土で炭片、黄灰色礫片を含んでいる。

P02から須恵器片、土師器片、Ｐ04から底部糸切り痕のある須恵器片、土師器片、P09から須恵器の甕片、P10から糸切り痕のある須恵器・坏の底部が出土している。

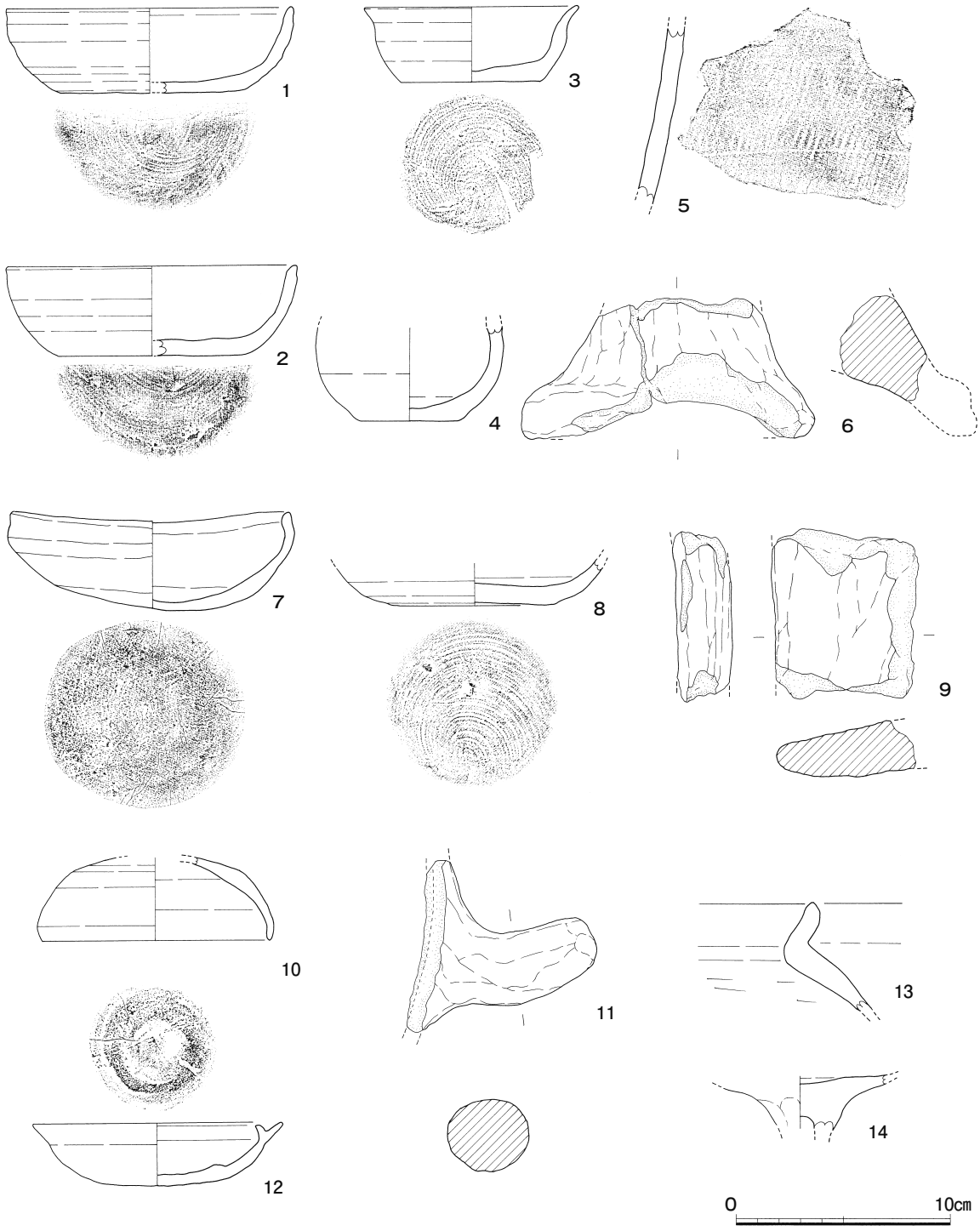


第35図　炭溜まり１出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

（４）　柱列３

柱列２とほぼ同じ位置で検出された。Ｐ08－Ｐ14間は、1.6m、Ｐ08－Ｐ03－Ｐ09間はそれぞれ1.0m、0.9mである。ピットの埋土は黒茶色土で、炭片、黄灰色礫片を含む。Ｐ09の土層の観察より、柱列３の後に柱列２が建てられている。

Ｐ14から須恵器（36－８）、土製品（36－９）などが出土している。８は坏の底部で切り離しは



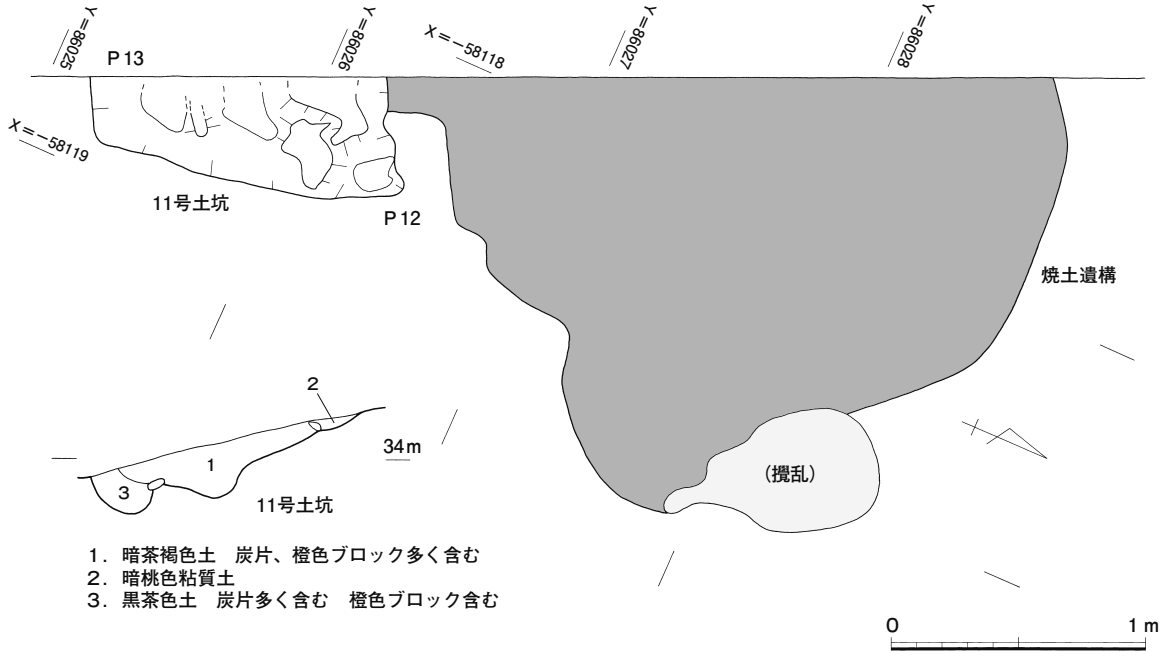
第36図　柱列１～３及びトレンチ出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

回転糸切りである。９は移動式竈の一部と考えられる。その他土師器の坏もしくは皿の破片が出土している。またＰ03から糸切りの須恵器・坏の底部、土師器片が出土している。

（５）　トレンチ６・東壁トレンチ

トレンチ６は鉄塔脚敷設部分に、東壁トレンチは調査Ⅱ区東端に設定した。

トレンチ６では調査Ⅰ区から続く斜面の延長上に地山面が続いており、谷の中央付近に位置するほど第７層が厚く堆積している。第７層から須恵器（36－10）及び土師器（36－11）が出土している。10は須恵器の蓋で、11は土師器・甑の把手部分である。



第37図　焼土遺構・11号土坑実測図（S＝1／30）

東壁トレンチの北端では、表土下60㎝で地山を確認したが、中央部から南端にかけては、炭溜まり１埋土である第４層の下に古墳時代後期の遺物包含層（第７層）が50㎝以上堆積しており、地山を確認するには至らなかった。この第７層は炭片を僅かに含み、また礫片を多く含んでいる。この第７層からは須恵器（36－12)、土師器（36－13、14）が出土している。13は坏であり、内面に「×」のヘラ記号が施されている。13は甕の口縁部、14は高坏の坏底部である。

第７層は炭片、黄灰色礫片を含む古墳時代後期の遺物包含層である。整地など人為的な堆積でなく、比較的短期間の自然堆積と考えられる。山崩れなどの自然災害が起こった可能性が考えられる。

（6）　９号土坑・10号土坑

９号土坑は調査区東端付近に位置し、長軸70㎝、短軸60㎝の平面楕円形を呈し、深さは20㎝である。埋土は炭片、黄灰色礫片を含む黒灰色土であり、遺物は出土していない。また炭溜まり１の上層から掘り込まれている。

10号土坑は調査区東より、９号土坑の西５ｍに位置し、長軸40㎝、短軸20㎝の平面楕円形を呈し、深さは10㎝である。埋土は９号土坑同様炭片、黄灰色礫片を含む黒灰色土であり、遺物は出土していない。また９号土坑同様、炭溜まり１の上層から掘り込まれていると考えられる。

（7）　礫群１

調査区東端の炭溜まり１の南に位置する。地山もしくは第７層上面の、長さ４ｍ以上、幅50㎝の範囲に拳大の礫が地山もしくは第７層上面に食い込むような状況で検出された。道の可能性が考えられるが、時期等は不明である。

（8）　焼土遺構・11号土坑

調査区北端の中央部に位置し、北半分は調査区外に広がっている。焼土遺構検出状況は、地山もしくは７層上面の直径2.5ｍの平面範囲が、赤褐色に変色した状態であった。比熱を受けたためと

考えられる。焼土遺構の西隣､斜面の下方に11号土坑が位置する。埋土は全体的に炭片を多く含み、前後関係は不明であるがＰ12及びＰ13が重複していると考えられる。焼土遺構及び11号土坑部分は近世以降の炭窯だった可能性が考えられる。

第６章　遺構に伴わない遺物

第38～41図は遺構に伴わない遺物である。

１～54は須恵器である。１は蓋、２、３は坏である。２は底部から口縁部へ立ち上がる部分に屈曲点がある。４～７は輪状つまみを持つ蓋である。４は口縁端部が垂直に垂下し、５はやや内側に垂下している。

８～34は坏である。口縁端部は緩く括れるものが多いが、あまり括れず内湾するもの（８、９、16、24、25)、緩く直線的に外傾するもの（19、23）など様々である。底部切り離しが確認できる坏の大半が回転糸切りと考えられるが、16、22、25、34は静止糸切りと考えられる。19は焼成前に高台を付けようとした可能性がある。23は他の坏に比べ底部から口縁部にかけての立ち上がりがやや直線的であり、口縁端部はやや外反する。24、25は他の坏に比べ法量が大きくなっている。また25に関しては、底部がやや丸みを帯び、口径に比べ器高が大きく、底部から口縁部にかけて大きく内湾している。26、27は焼成時、もしくは焼成前に大きく変形し、歪んだと考えられる。34は底部外周から体部下半にヘラケズリ調整が施されている。35、36は高台が付く坏である。37は蓋の破片と考えられるが、内面に炉壁材と思われる物質が溶着している。

38、39は小型の壺である。40は坩と考えられる。41、42は灯明皿であり、41の外面は自然釉の付着が甚だしい。43～46は高台が付く長頸壺である。43は自然釉の付着が甚だしい。47は鉄鉢形土器である。48、49は壺の底部であり、底部に糸切り痕が残る。50は器種不明の把手部分である。内面に当て具痕が確認できる。51は壺であり、外面に平行状のタタキ痕、内面に同心円状の当て具痕が残る。また焼成時に付着したと考えられる粘土が口縁部内面に付着している。52､53は横瓶である。53は外面に直径8.7㎝の焼き台の痕跡があり、焼き台部分以外に自然釉が付着している。54は鉢の口縁部である。外面に格子状のタタキ痕、内面に同心円状の当て具痕が残っている。

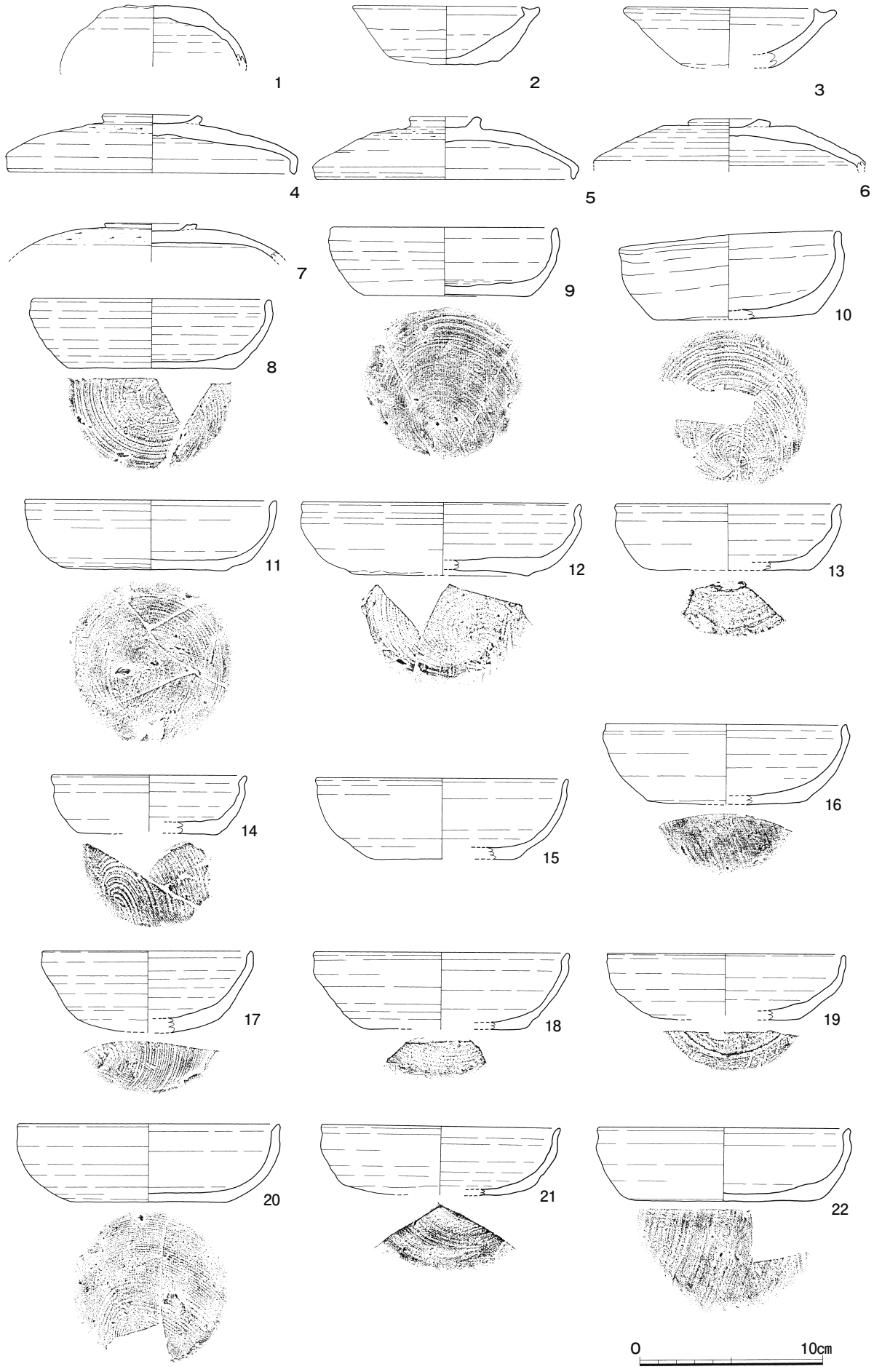
55～57は土師器である。55は坏で底部はヘラ切りである。56は手捏土器である。外面に黒斑部分、内面に指頭圧痕が確認できる。57は甕の口縁部である。

58は瓦質土器の甕・底部である。外面に格子状のタタキ痕がある。

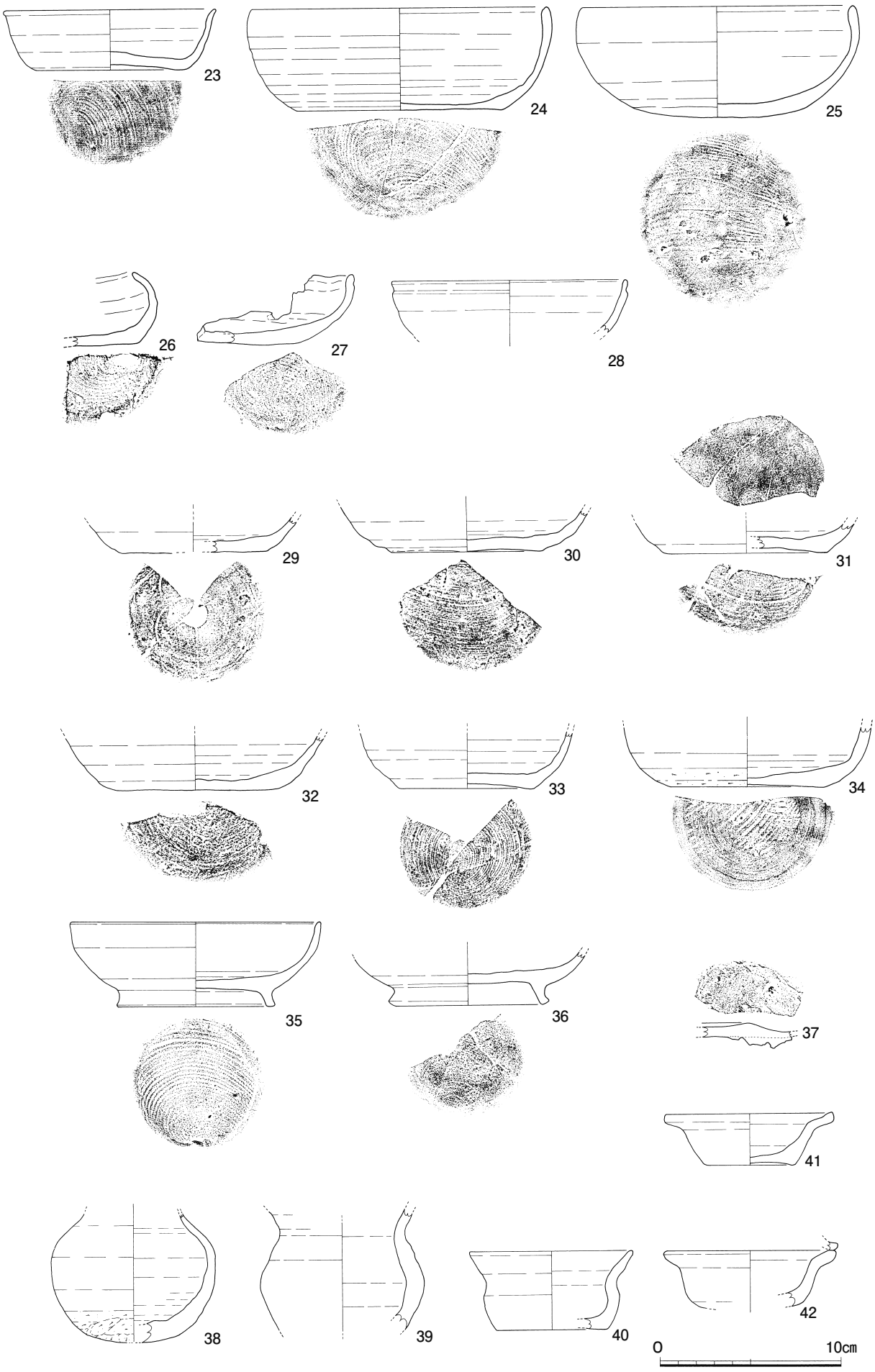
59～61は土製支脚である。59、60は底部内面を削り取っているが、61は平坦である。

62、63は輸入陶磁である。62は龍泉窯系青磁である。外面に篦状工具のよる蓮弁文、内面には篦状工具による文様が施されている。上田Ｂ類と思われる。63は粗製の青花と考えられる。内面にシダ文様が施され、底部は削りだし高台で、高台内面及び畳付けは基本的には無釉であるが一部に釉薬が流れ込んでいる。

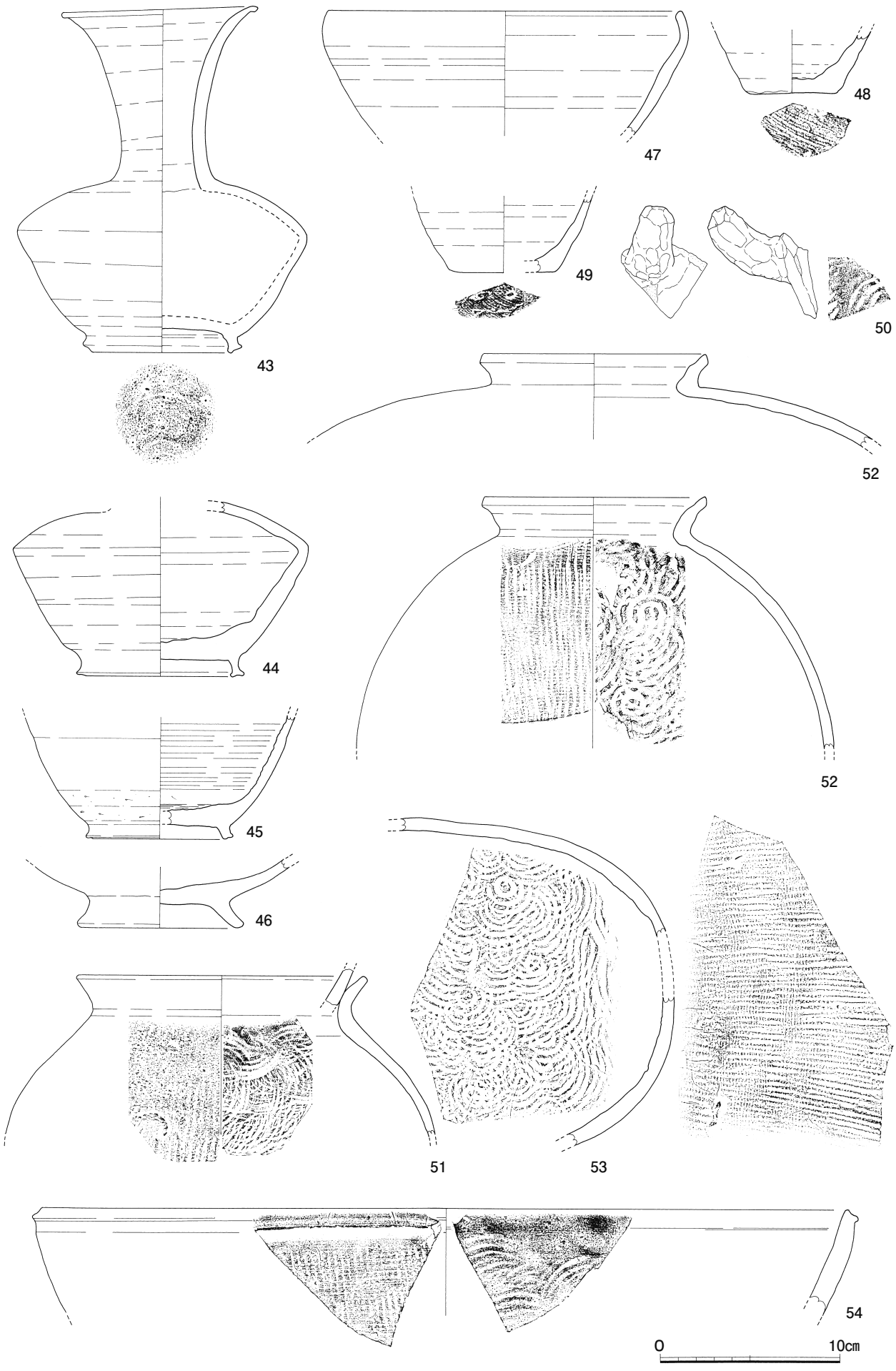
64は砂岩製の石材であり、石塔部材の一部の可能性が考えられる。



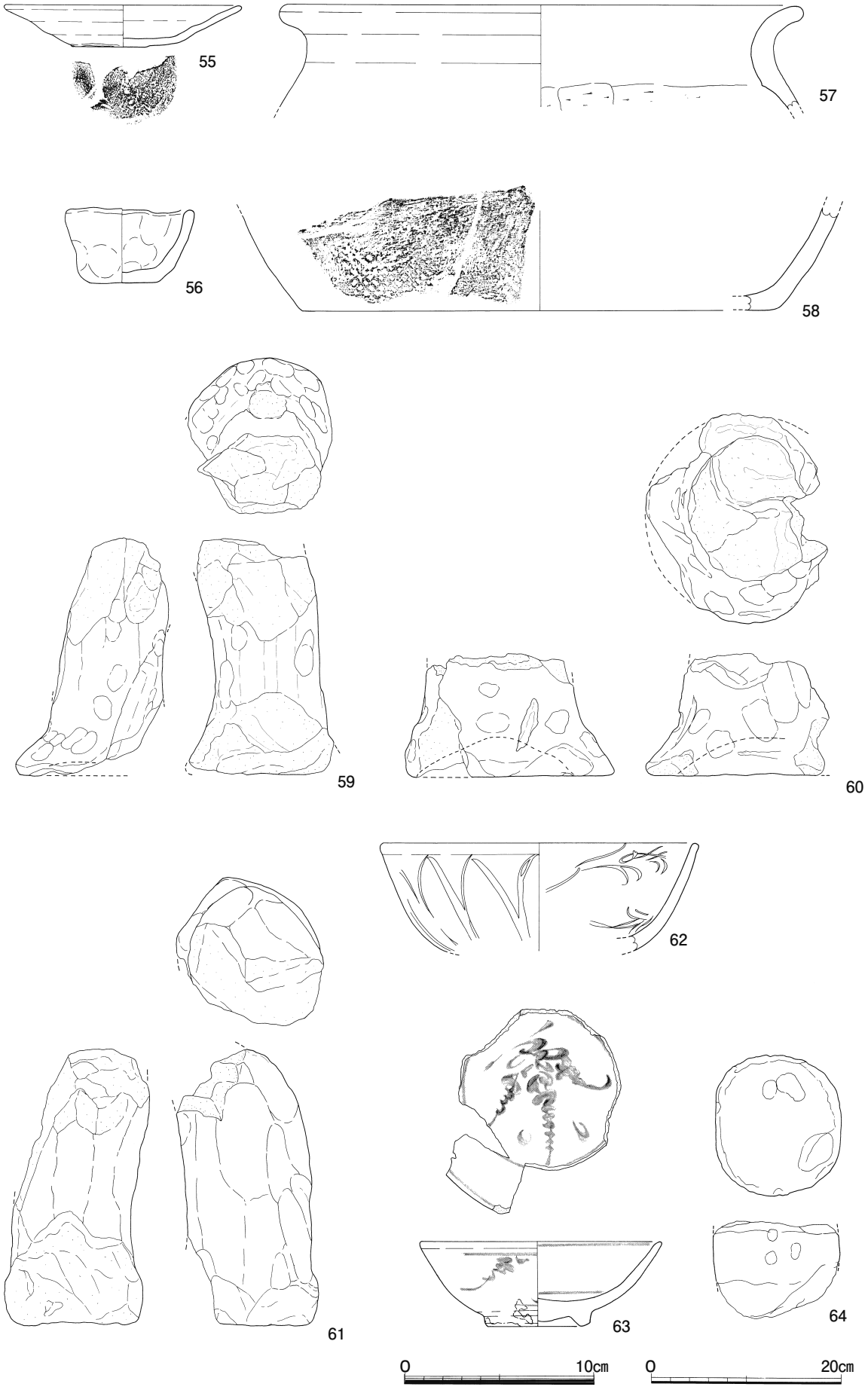
第38図　遺構に伴わない遺物実測図１（Ｓ＝１／３）



第39図　遺構に伴わない遺物実測図２（Ｓ＝１／３）



第40図　遺構に伴わない遺物実測図３（Ｓ＝１／３）



第41図　遺構に伴わない遺物実測図４（Ｓ＝１／３・１／６）

三大寺遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	調整・手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
5－1	1号土坑	須恵器	高坏	—	—	外面：回転ナデ・ハケメ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：青灰色 内面：灰白色	
8－1	1号建物跡	須恵器	坏	(13.0)	—	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	青灰色	
8－2	1号建物跡	須恵器	坏	(13.4)	4.4	外面：回転ナデ・回転ヘラ切りか 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外面：灰色 内面：灰白色	内面底部に重ね焼きの痕跡 内面と高台内面に自然釉
8－3	1号建物跡	須恵器	坏	(17.4)	5.6	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデか	2㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色	
8－4	1号建物跡	須恵器	坏	(12.4)	3.7	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色	
8－5	1号建物跡	須恵器	坏	12.5	4.4	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜大の長石含む	良好	青灰色	
8－6	1号建物跡	須恵器	坏	12.6	4.6	外面：回転ナデ・静止糸切りか 内面：回転ナデ・ナデ	細かい砂粒含む	良好	外面：青灰色～暗青灰色 内面：暗青灰色	外面に重ね焼きの痕跡
8－7	1号建物跡	須恵器	坏	13.6	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜大以下の砂粒を少量含む	良好	外面：暗灰色～灰白色 内面：灰白色	外面に重ね焼きの痕跡
8－8	1号建物跡	須恵器	坏	(13.8)	4.2	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	2㎜大以下の白色粒を少量含む	良好	青灰色	
8－9	1号建物跡	須恵器	坏	13.8	3.7	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	1㎜大以下の砂粒含む	やや不良	外面：紫褐色～淡橙色 内面：明橙色	
8－10	1号建物跡	須恵器	坏	12.7	4.2	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	4㎜大までの石粒含む	良好	青灰色	
8－11	1号建物跡	須恵器	坏	13.3	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：暗灰色 内面：灰色	全体的に焼き歪んでいる 内面に焼きぶくれあり
8－12	1号建物跡	須恵器	坏	(13.2)	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	やや不良	外面：明褐色～紫灰色 内面：明褐色	
8－13	1号建物跡	須恵器	坏	12.7	4.4	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	5㎜大以下の砂粒を少量含む	良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	重ね焼きの痕跡
8－14	1号建物跡	須恵器	坏	14.1	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切りのち一部ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜大以下の砂粒を少量含む	やや不良	淡橙色～灰白色	重ね焼きの痕跡
8－15	1号建物跡	須恵器	坏	(16.2)	5.8	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	0.5㎜大以下の砂粒を含む	良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
8－16	1号建物跡	須恵器	坏	12.1	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	やや不良	外面：紫灰色～明橙色 内面：灰色～紫灰色	
8－17	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：灰褐色 内面：青灰色	
8－18	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデか	2㎜大までの砂粒を少量含む	良好	青灰色	
9－19	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色	
9－20	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	5㎜大以下の砂粒を少量含む	良好	灰色	
9－21	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗青灰色 内面：淡紫灰色	
9－22	1号建物跡	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	4㎜大の礫含む	良好	青灰色	
9－23	1号建物跡	須恵器	高坏	－	－	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ 内面：回転ナデ・回転糸切りのちナデか	密	良好	灰白色	
9－24	1号建物跡	須恵器	皿	17.4	2.0	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ミガキか	2㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色～紫灰色	重ね焼きの痕跡 底部中央は淡青灰色
9－25	1号建物跡	須恵器	蓋	(12.0)	3.0	外面：回転ナデ・静止糸切りのち回転ヘラケズリか 内面：回転ナデ	1㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：灰白色～暗灰色 内面：灰白色	
9－26	1号建物跡	須恵器	分銅	－	2.6	－	0.5㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色	
9－28	1号建物跡	須恵器	甕	(20.0)	—	外面：平行タタキ 内面：同心円当て具痕	密	良好	暗青灰色	外面肩部内面口縁に灰かぶり 胎土中空気膨れる
9－29	1号建物跡	土師器	甕	24.4	—	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：浅黄橙色～赤褐色 内面：浅黄橙色	外面に煤付着 内面に黒色の付着物あり
9－30	1号建物跡	土師器	甕	20.8	—	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	4㎜大の石英他含む	良好	淡褐色	外面に煤付着
9－31	1号建物跡	土師器	甑	—	—	外面：指押えか 内面：ケズリ	1㎜大以下の砂粒含む	良好	にぶい橙色	
9－32	1号建物跡	土師器	甑	—	—	外面：指押え 内面：ケズリ	2㎜大以下の砂粒含む	良好	にぶい橙色	
9－33	1号建物跡	須恵器	横瓶	—	—	外面：回転ナデ・平行タタキのちカキメ 内面：回転ナデ・同心円当て具痕	1㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：暗灰色～灰白色 内面：灰白色	別個体の破片が溶着する
10－1	2号建物跡	須恵器	坏	13.1	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	灰白色	
10－2	2号建物跡	須恵器	坏	13.2	4.4	外面：回転ナデ・静止糸切り 内面：回転ナデのちナデか	3㎜大以下の砂粒含む	良好	灰白色	
10－3	2号建物跡	須恵器	坏	13.7	4.1	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	4㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：紫灰色～淡橙色 内面：紫灰色	
10－4	2号建物跡	須恵器	坏	12.9	4.5	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜大以下の砂粒含む	良好	灰色	内面にヘラ記号「×」あり 内外面に重ね焼きの痕跡
10－5	2号建物跡	須恵器	坏	16.0	4.9	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデか	5㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：淡灰色～淡紫灰色 内面：灰色	
10－6	2号建物跡	須恵器	坏	(17.0)	6.5	外面：回転ナデ 内面：不明	4㎜大以下の砂粒含む	不良	外面：明褐色～灰褐色 内面：明褐色～淡黄褐色	
10－7	2号建物跡	須恵器	甕	(23.6)	—	外面：回転ナデ・平行タタキのちカキメ 内面：回転ナデ・同心円当て具痕	1.5㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：暗灰色～灰褐色 内面：暗青灰色	
10－8	2号建物跡	土師器	甕	(14.2)	—	外面：横ナデ・ハケメ 内面：横ナデ・ケズリ	1㎜大以下の砂粒を多く含む	良好	外面：淡黄橙色～淡褐色 内面：淡橙褐色～褐色	外面に煤付着

三大寺遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	調整・手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
14－6	1号墓	土師器	坏	(11.8)	—	外面：指圧痕 内面：ミガキか	密	良好	淡黄橙色	内面に煤付着
28－1	1号土坑	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗青灰色 内面：青灰色	外面に灰かぶり
28－2	1号土坑	須恵器	坏	(13.0)	3.9	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	3㎜大以下の砂粒含む	良好	外面：灰色～暗灰色 内面：暗灰色	口縁にやや焼き歪み
28－3	1号土坑	須恵器	坏	13.3	4.8	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	密	やや不良	灰色	口縁にやや焼き歪み
28－4	1号土坑	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ・ナデ	4㎜大の礫含む	良好	青灰色	
28－5	1号土坑	須恵器	甕	(20.1)	—	外面：回転ナデか 内面：回転ナデか	密	良好	灰白色	内外面に自然釉がかかる
28－6	1号土坑	須恵器	壺	—	—	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	0.5㎜大以下の砂粒を少量含む	良好	外面：灰白色～暗灰色 内面：灰白色	
28－7	1号土坑	須恵器	壺	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切り 内面：回転ナデ	密	良好	外面：淡灰色 内面：暗灰色～淡灰色	
35－1	炭溜まり1	須恵器	蓋	16.0	3.4	外面：ナデ・回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜以下の砂粒含む	良好	灰黄色	輪状つまみ
35－2	炭溜まり1	須恵器	蓋	17.0	4.1	外面：回転ヘラケズリ・回転ナデ 内面：回転ナデ	密　2㎜以下の砂粒をまれに含む	良好	灰黄色	輪状つまみ
35－3	炭溜まり1	須恵器	坏	—	—	外面：ナデ・回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒ごくわずかに含む	良好	灰黄色	ヘラ記号 外面被灰
35－4	炭溜まり1	須恵器	高台付坏	14.8	4.4	外面：回転ナデ・静止糸切？ 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜以下の砂粒含む	良好	外面：淡黄色 内面：灰白色	
35－5	炭溜まり1	須恵器	坏	10.8	3.7	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	外面：暗青灰色 内面：灰色	39-23と同一個体
35－6	炭溜まり1	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・ナデ・静止糸切 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜以下の白砂含む	良好	灰色	第4層
35－7	炭溜まり1	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	にぶい赤褐色	
35－8	炭溜まり1	須恵器	高坏	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	灰色	上段は線刻、下段は透かし穴　接合部にヘラ記号?
35－9	炭溜まり1	須恵器	小型壺	8.4	5.1	外面：回転ナデ・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	1㎜以下の砂粒含む	良好	外面：黄灰色 内面：褐灰色	第4層 内外面に自然釉
35－10	炭溜まり1	須恵器?	小型壺?	5.2	5.2	外面：回転ナデ・糸切？ 内面：回転ナデ	密	良好	黒褐色	口縁と底部の外面に被灰　口縁部内面溶着
35－11	炭溜まり1	須恵器	甑	—	—	外面：回転ナデ・格子タタキ 内面：回転ナデ・同心円タタキ	0.5㎜以下の粒子多く含む	良好	淡黄色	
35－12	炭溜まり1	須恵器	甑	—	—	外面：ナデ？ 内面：ケズリ	1㎜以下の砂粒多く含む	やや不良	外面：灰白色 内面：灰黄色	
35－13	炭溜まり1	須恵質	土馬	—	—	指ナデによる調整　刺突により目鼻を表現　ヘラ書きで口を表現	1㎜以下の砂粒含む	良好	淡黄色	頭部・頸部のみ　耳欠落
35－14	炭溜まり1	須恵器	長頸瓶	—	—	外面：回転ナデ・格子タタキ 内面：回転ナデ・指ナデ？・ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	灰色	内面タタキ底ナデ消しか？
35－15	炭溜まり1	須恵器	鉢	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜以下の白砂少量含む	良好	灰色	
35－16	炭溜まり1	須恵器	鉢	—	—	外面：回転ナデ　沈線2条 内面：回転ナデ　タタキ	1㎜以下の白砂含む	やや不良	外面：にぶい黄色 内面：黄灰色	黒褐色土層 35-16と同一個体か？
35－17	炭溜まり1	須恵器	鉢	—	—	外面：回転ナデ　沈線2条 内面：回転ナデ　タタキ	1㎜以下の白砂含む	やや不良	外面：にぶい黄色 内面：黄灰色	黒褐色土層 35-15と同一個体か？
35－18	炭溜まり1	須恵器	—	—	—	外面：回転ナデ・ナデ 内面：ナデ	1㎜以下の白砂含む	やや不良	外面：浅黄色 内面：灰オリーブ色	
36－1	炭溜まり2	須恵器	坏	13.3	4.0	外面：回転ナデ・回転糸切のちナデ 内面：回転ナデ・ナデ	2㎜以下の砂粒含む	良好	灰色	
36－2	炭溜まり2	須恵器	坏	13.4	4.2	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	密　2㎜以下の白砂含む	良好	にぶい褐色	
36－3	炭溜まり2	須恵器	小型壺?	10.0	3.5	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	密　2㎜以下の白砂多く含む	良好	灰色～黒色	内部一部黒色
36－4	炭溜まり2	須恵器	小型壺?	—	—	外面：風化のため調整不明 内面：風化のため調整不明	2㎜以下の砂粒含む	不良	灰黄色	
36－5	炭溜まり2	須恵器	甑?	—	—	外面：回転ナデのち格子タタキ 内面：タタキ？風化が著しい	2㎜以下の砂粒多く含む	やや不良	灰白色	
36－6	炭溜まり2	土師器	土製支脚	—	—	外面：ケズリ 内面：ケズリ	2㎜以下の砂粒多く含む	良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	
36－7	—	須恵器	坏	12.8	6.1	外面：回転ナデ・静止糸切のちナデ 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	灰色	底部内面に掻き傷あり 変形している
36－8	P14	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	灰褐色	
36－9	P14	土師器	竈?	—	—	外面：ケズリのちナデ 内面：ケズリのちナデ	1㎜以下の砂粒多く含む	良好	にぶい黄褐色	
36－10	6トレンチ	須恵器	蓋	10.6	—	外面：回転ナデ・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	1㎜以下の白砂含む	良好	灰色	第7-④層
36－11	6トレンチ	土師器	甑?	—	—	外面：ナデ 内面：ケズリ	1㎜以下の砂粒多く含む	良好	黄橙色	第7-④層　把手部のみ 外面の一部に煤付着
36－12	東壁トレンチ	須恵器	坏	11.6	3.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・回転ヘラ切り	密　1㎜以下の白砂含む	良好	外面：にぶい黄灰色 内面：黄灰色	第7層 内面に「×」のヘラ記号
36－13	東壁トレンチ	土師器	甕	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ・ケズリ	1㎜以下の砂粒多く含む	良好	外面：黄橙色 内面：浅黄橙色	第7層
36－14	東壁トレンチ	土師器	高坏	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜以下の砂粒含む	良好	橙色	第7層
38－1	D3	須恵器	蓋	—	—	外面：回転ナデ・ヘラ起し痕 内面：回転ナデのちナデ	密	良好	外面：灰白色 内面：青灰色	

三大寺遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	調整・手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
38－2	Ｅ１	須恵器	坏	10.0	3.2	外面：回転ナデ・回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	１㎜以下の砂粒含む	良好	外面：淡灰褐～にぶい黄橙色 内面：灰色	外面に自然釉
38－3	１号建物 Ｄ３	須恵器	坏	9.4	—	外面：回転ナデ・回転ヘラ切り？ 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜以下の砂粒含む	良好	外面：灰褐～暗灰色 内面：灰白色	
38－4	Ｃ３	須恵器	蓋	15.6	3.2	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	５㎜以下の砂粒含む	良好	外面：淡紫灰色 内面：明褐色	
38－5	Ｃ３	須恵器	蓋	14.4	3.4	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜以下の砂粒含む	良好	青灰色	
38－6	Ｃ３	須恵器	蓋	—	2.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰色	天井部は平坦面を形成
38－7	Ｄ２	須恵器	蓋	—	—	外面：回転ヘラケズリ･回転ナデ･回転糸切？ 内面：回転ナデ・ナデ	３㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰白色	
38－8	Ｄ３	須恵器	坏	12.8	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外面：淡赤褐～紫灰色 内面：淡赤褐色	
38－9	Ｃ３	須恵器	坏	12.2	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰色	
38－10	Ｄ３	須恵器	坏	12.0	4.5	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ？	２㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰白色	
38－11	Ｄ３	須恵器	坏	13.7	3.8	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	1.5㎜以下の砂粒少量含む	良好	外面：灰～淡褐色 内面：淡褐色	
38－12	Ｄ３　Ｅ４	須恵器	坏	15.2	4.0	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・回転ナデのちナデ	密	良好	青灰色	口縁部に焼きひずみ
38－13	４号墓 埋土中	須恵器	坏	12.4	3.6	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデのちナデ	細かく１㎜以下の砂粒多く含む	良好	外面：青灰色 内面：暗青灰色	
38－14	Ｃ３	須恵器	坏	10.7	3.1	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	２㎜大までの砂粒少量含む	良好	外面：灰褐色 内面：淡紫灰色	
38－15	Ｃ２	須恵器	坏	13.8	4.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	４㎜大までの黒色・白色粒子を少量含む	不良	灰白色	
38－16	Ｃ４	須恵器	坏	13.1	4.4	外面：回転ナデ・静止糸切 内面：回転ナデ・ナデ	３㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰白色	胎土に直径約３㎜の窯壁体のような物質含む
38－17	Ｃ３	須恵器	坏	11.2	4.4	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	1.5㎜以下の砂粒含む	良好	淡青灰色	
38－18	Ｃ３	須恵器	坏	14.2	4.2	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	細かく５㎜程度の黒色砂粒含む	良好	青灰色	
38－19	Ｃ３	須恵器	坏	13.0	3.7	外面：回転ナデ・切り離しのち回転ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	２㎜大までの砂粒少量含む	良好	外面：紫灰色 内面：暗青灰色	
38－20	Ｃ３	須恵器	坏	14.2	4.3	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	２㎜以下の砂粒少量含む	良好	灰褐色～淡黄褐色	
38－21	Ｅ４	須恵器	坏	17.4	3.7	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	細かく１㎜大までの白砂含む	良好	暗青灰色	
38－22	Ｄ２　Ｄ３	須恵器	坏	13.7	4.0	外面：回転ナデ・静止糸切 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	外面：灰～青灰色 内面：青灰色	重ね焼きの痕跡
39－23	Ｅ１	須恵器	坏	11.6	3.3	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒少量含む	良好	外面：暗灰色～灰色 内面：灰色	35-5と同一個体
39－24	Ｃ３	須恵器	坏	16.2	5.6	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	密	やや不良	外面：淡紫褐～灰色 内面：青灰～淡紫褐色	
39－25	Ｃ２　Ｄ２	須恵器	坏	15.0	6.1	外面：回転ナデ･静止糸切のちナデ？ 内面：回転ナデ・ナデ	２㎜以下の砂粒少量含む	良好	外面：灰～灰褐色 内面：紫灰～灰色	
39－26	Ｂ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	細かい	良好	暗青灰色	窯変しているため変形
39－27	４号土坑 Ｅ４	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜以下の砂粒含む	良好	外面：青灰～灰褐色 内面：青灰色	
39－28	Ｃ２	須恵器	坏	13.0	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	１㎜大までの黒色・白色粒子含む	良好	青灰色	
39－29	１号建物 Ｄ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ・ナデ	７㎜大の礫含む	良好	暗青灰色	底部外面に工具による条痕あり
39－30	Ｄ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜大の砂粒含む	良好	淡青灰色	
39－31	Ｅ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	密	良好	暗青灰色	内面に「×」のヘラ記号
39－32	Ｂ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	暗青灰色	
39－33	Ｃ３	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	７㎜大の礫含む	良好	暗青灰色	
39－34	Ｅ１	須恵器	坏	—	—	外面：回転ナデ･回転ヘラケズリ･静止糸切? 内面：回転ナデ・ナデ	１㎜大の砂粒含む	良好	灰色	
39－35	Ｃ２	須恵器	高台付坏	13.7	4.7	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・回転ナデのちナデ	２㎜以下の白砂多く含む	良好	外面：褐灰色 内面：灰色	
39－36	Ｄ２	須恵器	高台付坏	—	—	外面：回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ・ナデ	1.5㎜以下の砂粒含む	良好	外面：灰色 内面：灰白色	
39－37	—	須恵器	蓋	—	—	外面：回転ナデ・糸切 内面：ナデ	５㎜以下の砂粒含む	良好	灰色	外面に窯壁付着 窯道具として使用か
39－38	Ｆ４	須恵器	壺	—	—	外面：回転ナデ･回転ヘラケズリ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗灰～灰色 内面：浅黄橙色	肩部・内部底面に自然釉
39－39	Ｅ４	須恵器	壺	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗青灰色 内面：青灰色	
39－40	Ｅ４	須恵器	坩？	9.0	4.4	外面：回転ナデ・回転糸切？ 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗灰～灰色 内面：灰色	
39－41	Ｅ４	須恵器	灯明皿	9.2	2.9	外面：自然釉のため調整不明 内面：回転ナデ	密	良好	外面：淡灰褐色～オリーブ色 内面：灰白色	外面に自然釉
39－42	Ｅ３	須恵器	灯明皿	9.6	—	外面：自然釉のため調整不明 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗オリーブ～黒色 内面：青灰色	外面に自然釉 口縁部に重ね焼き付着

三大寺遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	調整・手法の特徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
40－43	Ｃ３	須恵器	高台付長頸壺	10.8	19.2	外面：回転ナデ･回転糸切のちナデ？ 内面：回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒含む	良好	外面：暗紫灰～黄褐色 内面：灰～黄褐色	肩部を中心に激しく自然釉　ほぼ完形
40－44	Ｃ３	須恵器	高台付壺	—	—	外面：回転ナデ･回転ヘラケズリのちナデ? 内面：回転ナデ	0.5㎜以下の砂粒含む	良好	外面：灰褐色 内面：灰色	肩部外面､胴部内面に自然釉薬かかる 頸部との接合部､高台焼け歪む
40－45	Ｅ３	須恵器	高台付壺	—	—	外面：回転ナデ･回転ヘラケズリ･回転糸切 内面：回転ナデ	密	良好	灰色	内面にろくろを使用した成形痕
40－46	Ｂ３	須恵器	壺？	—	—	外面：回転ナデ・ナデ 内面：回転ナデ・ナデ	密	良好	灰色	内面は使用により磨滅
40－47	Ｄ３	須恵器	鉄鉢形土器	19.8	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデのちナデ	5㎜以下の砂粒含む	良好	外面：暗灰～淡青灰色 内面：暗灰～灰白色	口縁に焼き歪み 外面に重ね焼きの痕跡
40－48	Ｅ３	須恵器	壺？	—	—	外面：ヘラケズリのち回転ナデ・静止糸切 内面：回転ナデ	密	良好	外面：暗青灰色 内面：青灰～緑灰色	内面に自然釉
40－49	Ｄ２	須恵器	壺？	—	—	外面：ヘラケズリのち回転ナデ・回転糸切 内面：回転ナデ	４㎜大までの砂粒含む	良好	外面：青灰色 内面：暗灰色	内面に黒い自然釉
40－50	Ｄ３	須恵器	把手	—	—	外面：指押さえ・ナデ 内面：同心円タタキ	密	良好	外面：灰色 内面：暗灰色	
40－51	Ｂ３　Ｃ３	須恵器	壺	16.2	—	外面：回転ナデ・平行タタキ 内面：回転ナデ・同心円タタキ	密	良好	外面：暗灰色～灰色 内面：灰色	外面から内面口縁部にかけて自然釉 口縁部に別個体が溶着している
40－52	Ｂ５	須恵器	横瓶	12.4	—	外面：回転ナデ・格子タタキ 内面：回転ナデ・同心円タタキ	細かい	良好	青灰色	外面に灰かぶり
40－53	Ｃ３	須恵器	横瓶	—	—	外面：平行タタキのちカキ目 内面：同心円タタキ	密	良好	外面：灰褐～淡黄褐色 内面：灰白色	直径8.7㎝の焼台の痕跡 焼台部分以外に自然釉
40－54	Ｅ１	須恵器	鉢	44.8	—	外面：回転ナデのちタタ・カキ目 内面：回転ナデのちタタキ	１㎜以下の砂粒含む	良好	暗青灰色	
41－55	Ｂ５	土師器	坏	12.3	2.2	外面：ヨコナデ・底部ヘラ切 内面：ヨコナデ	密	良好	淡褐色	底部内面指圧痕状にやや凹む
41－56	Ｃ３	土師器	手捏土器	6.4	3.9	外面：指押さえ 内面：指押さえ	密　１㎜大の礫含む	良好	灰褐色	外面一部に黒斑指圧痕
41－57	Ｃ３	土師器	甕	27.2	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ・ケズリ	４㎜大の礫含む	良好	淡褐色	
41－58	Ｅ２	瓦質土器	甕	—	—	外面：格子タタキ 内面：ハケメ？風化のため調整不明	密　２㎜大の白砂含む	不良	外面：淡黒褐色 内面：灰白色	
41－59	Ｃ３	土師器	土製支脚	—	—	ナデ・指押さえ	１㎜以下の砂粒多く含む	良好	浅黄橙色～淡褐色	
41－60	4トレンチ	土師器	土製支脚	—	—	ケズリのちナデ？	２㎜以下の砂粒多く含む	良好	浅黄橙色～橙色	
41－61	Ｃ３	土師器	土製支脚	—	—	ケズリのちナデ？　指押さえ	２㎜以下の砂粒多く含む	良好	橙褐色	残存する底は水平
41－62	Ｄ３　Ｄ４	中国青磁	碗	16.4	—	外面：施釉　陰刻文様（蓮弁） 内面：施釉　陰刻文様（草花文か）	密	良好	黄緑色	龍泉窯系(上田Ｂ類か)
41－63	Ｅ４	中国青花	碗	12.3	—	外面：施釉・回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：施釉　シダ文様	密	良好	釉：青白色 地：淡褐色	青花か陶胎染付　高台裏面一部に施釉　鈴木G群?

三大寺遺跡Ⅰ区出土鉄器観察表

挿図番号	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備　考
5－2	Ｄ３	鉄鏃	5.4	2.5	0.7	圭頭鏃　茎部欠損
9－27	1号建物跡	摘鎌	－	2.0	0.3	両端折り曲げ部残存　一部欠損
16－11	2号墓	鉄釘	4.6	0.3	0.3	頭部欠損
16－12	6号墓	鉄釘	3.5	0.6	0.5	完形　全体的にやや曲る
16－13	3号墓	鉄釘	3.0	0.6	0.5	鉄釘片
16－14	3号墓	鉄釘	2.3	0.3	0.2	鉄釘片
24－3	11号墓	鉄刀	13.0	2.3	1.0	刀部片
24－4	11号墓	鉄釘	6.5	0.8	0.6	全体的に『J』の字状に曲る
24－5	11号墓	鉄釘	4.1	0.6	0.5	端部欠損し、やや曲る
24－6	11号墓	鉄釘	4.1	0.7	0.6	完形　端部曲る
24－7	11号墓	鉄釘	3.1	0.6	0.4	端部欠損
24－8	11号墓	鉄釘	3.8	0.5	0.4	端部欠損
24－9	11号墓	鉄釘	4.3	0.4	0.4	端部欠損し、曲る
24－10	11号墓	鉄釘	4.4	0.3	0.3	端部欠損
24－11	11号墓	鉄釘	4.5	0.3	0.3	完形
24－12	11号墓	鉄釘	4.3	0.4	0.4	端部欠損
24－13	11号墓	鉄釘	2.8	0.3	0.3	端部欠損
24－14	11号墓	鉄釘	2.8	0.3	0.4	端部欠損
24－15	11号墓	鉄釘	3.4	0.3	0.3	端部欠損
24－16	11号墓	鉄釘	2.1	0.5	0.4	端部欠損
24－17	11号墓	鉄釘	2.1	0.3	0.4	端部欠損
24－18	11号墓	鉄釘	1.1	0.4	0.4	端部欠損
24－19	11号墓	鉄釘	2.1	0.6	0.6	端部欠損
24－20	11号墓	鉄釘	2.5	0.3	0.4	両端部欠損
24－21	11号墓	鉄釘	2.3	0.5	0.4	両端部欠損
24－22	11号墓	鉄釘	2.1	0.4	0.3	両端部欠損
24－23	11号墓	鉄釘	2.8	0.3	0.4	両端部欠損し、やや曲る
24－24	11号墓	鉄釘	3.4	0.4	0.3	頭部欠損し、曲る

三大寺遺跡Ⅰ区出土銅銭一覧表

挿図番号	出土地点	名称	初鋳年代	備考
14 － 7・8	1号墓	開元通寶	唐　621年	
14 － 9	1号墓	祥符元寶	北宋　1009年	
14 － 10～12	1号墓	皇宋通寶	北宋　1038年	
14 － 13	1号墓	熙寧元寶	北宋　1068年	
14 － 14～18	1号墓	元豊通寶	北宋　1078年	
14 － 19・20	1号墓	紹聖元寶	北宋　1094年	
14 － 21	1号墓	景祐元寶	北宋　1034年	
14 － 22～24	1号墓	－	－	
16 － 1	3号墓	開元通寶	唐　621年	
16 － 2	3号墓	天聖元寶	北宋　1023年	
16 － 3	3号墓	景祐元寶	北宋　1034年	
16 － 4～10	3号墓	永楽通寶	明　1408年	

三大寺遺跡Ⅰ区出土五輪塔観察表

挿図番号	出土地点	部 位	高さ(㎝)	空輪径(㎝)	風輪径(㎝)	枘径(㎝)	枘高(㎝)	最大辺(㎝)	枘穴径(㎝)	枘穴深(㎝)	最大径(㎝)	石 材	備　考
14－1	B 5	空風輪	27.0	20.0	18.0	7.5	2.5	—	—	—	—	砂岩（来待石）	枘部に刃先幅１㎝の溝状工具痕　枘部以外の加工痕は不明瞭　空風輪の括れ部が溝状
14－2	B 5	空風輪	25.0	15.0	14.0	6.0	4.0	—	—	—	—	安山岩Ａ	全体的に表面風化　宝珠形の空輪
14－3	B 5	火輪	12.0	—	—	—	—	34.0	8.0	3.5	—	砂岩（来待石）	風化が著しい　加工痕は不明瞭　底面に刃先幅1.5㎝の加工痕　空風輪14－1と組み合う可能性
14－4	B 5	水輪	18.5	—	—	—	—	—	—	—	30.0	砂岩（来待石）	水輪の破片　上下面に窪み　下面の刳り込み深い
14－5	1号墓	地輪	18.0	—	—	—	—	30.0	—	—	—	砂岩（来待石）	刃先幅0.9㎝のノミ痕が顕著に残る　下面に4.0㎝前後の刳り込み
17－1	3号墓	空風輪	20.5	—	13.5	—	—	—	—	—	—	安山岩Ａ	空輪に対して風輪が大きい
17－2	3号墓	火輪	16.0	—	—	—	—	27.0	8.5	4.0	—	安山岩Ａ	
17－3	3号墓	火輪	17.5	—	—	—	—	27.0	8.5	6.2	—	砂岩（来待石）	比較的、破損や剥離が少ない
17－4	3号墓	火輪	15.0	—	—	—	—	24.0	5.3	4.0	—	安山岩Ａ	加工痕は不明瞭
17－5	3号墓	火輪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩Ａ	隅部片
17－6	3号墓	水輪	15.0	—	—	—	—	—	—	—	25.0	砂岩（来待石）	上下面に浅い窪み
17－7	3号墓	水輪	17.5	—	—	—	—	—	—	—	26.0	安山岩Ａ	上下面に浅い窪み
17－8	3号墓	水輪	16.0	—	—	—	—	—	—	—	25.5	砂岩（来待石）	刃先幅1.1㎝のノミ痕　上下面に2.0㎝前後の窪み
17－9	3号墓	水輪	16.5	—	—	—	—	—	—	—	23.5	砂岩（来待石）	刃先幅1.1㎝のノミ痕　上下面に1.5㎝前後の窪み
19－1	4号墓	空風輪	30.5	16.5	15.5	6.0	4.2	—	—	—	—	安山岩Ａ	宝珠形の空輪　空風輪の括れ部が明確
19－2	4号墓	空風輪	26.0	18.0	17.0	6.5	3.0	—	—	—	—	砂岩（来待石）	工具痕は不明瞭　空風輪の括れ部が溝状
19－3	4号墓	空風輪	20.0	15.0	—	—	—	—	—	—	—	砂岩（来待石）	下端部欠損　空風輪の括れ部が溝状
19－4	4号墓	空風輪	17.5	—	13.0	6.5	3.5	—	—	—	—	砂岩（来待石）	空輪下端の破片
19－5	4号墓	火輪	14.0	—	—	—	—	26.0	6.0	4.0	—	安山岩Ａ	加工痕は不明瞭
19－6	4号墓	火輪	17.5	—	—	—	—	26.5	5.0	3.5	—	安山岩Ｂ	ノミ痕あり　下面はあまり加工しない　各片が丸みを帯びる
19－7	4号墓	水輪	15.0	—	—	—	—	—	—	—	23.5	砂岩（来待石）	刃先幅1.1㎝のノミ痕　上下面に1.5～2.0㎝前後の窪み
19－8	4号墓	水輪	15.0	—	—	—	—	—	—	—	23.5	砂岩（来待石）	刃先幅1.1㎝のノミ痕　下面に深さ3.0㎝の刳り込み
19－9	4号墓	地輪	18.0	—	—	—	—	21.5	—	—	—	砂岩（来待石）	上面に刃先幅1.4㎝、下面に2.5㎝の顕著なノミ痕
20－1	5号墓	水輪	17.0	—	—	—	—	—	—	—	21.5	砂岩（来待石）	刃先幅2.0㎝のノミ痕　上下面に2～2.5㎝の窪み
24－1	11号墓	地輪	20.0	—	—	—	—	25.0	—	—	—	安山岩Ａ	上面に黒く焼けた跡　上面に加工痕
24－2	11－4号墓	地輪	20.0	—	—	—	—	25.0	—	—	—	砂岩（来待石）	刃先幅1.4㎝のノミ痕　下面に6.5㎝の刳込み
25－1	B 3	空風輪	23.0	16.0	16.5	7.0	4.5	—	—	—	—	安山岩Ｂ	宝珠形の空輪
25－2	B 3	空風輪	27.5	16.5	15.0	7.0	5.5	—	—	—	—	安山岩Ａ	宝珠形の空輪　加工痕は不明瞭　枘部に浅い凹凸
25－3	C 3	空風輪	27.5	15.5	15.0	6.0	4.5	—	—	—	—	安山岩Ａ	宝珠形の空輪　加工痕は不明瞭
25－4	B 5	空風輪	21.5	15.5	15.0	—	—	—	—	—	—	安山岩Ａ	風化が著しい　両端を欠損
25－5	B 4	火輪	18.5	—	—	—	—	28.0	7.5	4.5	—	安山岩Ａ	風化が著しい　加工痕は不明瞭
25－6	C 4	火輪	11.5	—	—	—	—	22.0	7.5	5.0	—	砂岩（来待石）	加工痕は不明瞭
25－7	B 4	火輪	13.5	—	—	—	—	28.0	—	—	—	安山岩Ａ	風化が著しい
26－8	B 4	火輪	—	—	—	—	—	—	5.5	3.0	—	砂岩（来待石）	頂部の破片　方形の枘穴
26－9	B 4	火輪	—	—	—	—	—	28.0	—	—	—	砂岩（来待石）	風化が著しい　加工痕は不明瞭
26－10	B 5	火輪	8.5	—	—	—	—	27.0	—	—	—	砂岩（来待石）	
26－11	B 4	火輪	9.5	—	—	—	—	27.5	—	—	—	砂岩（来待石）	
26－12	B 4	火輪	9.5	—	—	—	—	—	—	—	—	安山岩Ａ	隅部の破片
26－13	B 4	水輪	18.0	—	—	—	—	—	—	—	29.0	安山岩Ａ	下面にわずかな窪み

※　安山岩Ａ：(大山角閃石系安山岩)　安山岩Ｂ：(大海崎石系安山岩)

三大寺遺跡Ⅰ区出土石製品観察表

挿図番号	出土地点	種別	幅(㎝)	高さ(㎝)	石材	備考
16－15	2号墓	石臼	12.0	8.3	安山岩Ａ	石臼片　放射状に擂目　径４㎝の孔あり（穀物供給孔か）
41－64	4号墓	石製品	14.8	10.3	砂石（来待石）	五輪塔（水輪）か

※　安山岩Ａ：(大山角閃石系安山岩)　安山岩Ｂ：(大海崎石系安山岩)

第７章　総　　括

（１）　古墳

調査Ｉ区中央部には、一辺10m、高さ0.5mの方墳状の高まりが確認された。調査の結果、埋葬施設や盛土は失われているが、方墳状の高まりを呈することにより古墳と想定され、周辺から出土した須恵器及び鉄鏃から時期は古墳時代中期後葉頃と考えられる。

（２）　炭溜まり

時期　炭溜まり１では、高広遺跡における編年（以後高広編年とする）のⅡＡ期及びⅢＢ～ⅣＡ期の須恵器が出土している。蓋坏の口縁端部にかえりが付く蓋は出土しておらず、ⅡＢ～ⅢＡ期の須恵器は含まれていないと考えられる。

炭溜まり２では、高広編年ⅣＡ期の須恵器が出土しているが、ＩＢ期に遡りうる蓋坏片やⅡＡ期の坏片も含まれている。

炭溜まり１及び炭溜まり２で出土する須恵器は、ⅡＡ期及びⅢＢ～ⅣＡ期の遺物が主体と考えられ、異なる２時期の遺物が出土していると考えられる。ただし山津窯跡における編年（以後山津編年とする）では、高広編年のⅡＡ期にあたる遺物は単独で成立しておらず、ⅡＢ期の遺物と同じ時期に含まれている。その場合炭溜まり１及び炭溜まり２で出土する遺物は古墳時代後期から奈良時代にかけての連続性が考えられてくるので、炭溜まり１と炭溜まり２の時期に関しては検討の余地は残される。

また遺構検出面直下の層（第32図第７層）は、高広編年ⅡＡ期の遺物包含層であり、この時期に山崩れ等の地形の変動があったことも想定される。

遺物　炭溜まり１では、炭片や黄灰色礫片と伴に遺物が出土したが、遺物の多くは破片であった。また炭溜まり２では、後世に攪乱などを受けたと考えられるが、炭片や黄灰色礫片と伴に遺物が出土している。

三大寺遺跡周辺の遺跡や大井古窯祉群で確認されている須恵質土馬（35－13）が炭溜まり１で出土した。

炭溜まり１では小型の壺と考えられる須恵器（35－９、10）が出土しているが、製作技法、胎土、焼成に差異が見受けられる。前者は底部切り離しがヘラ切りで、中央付近が外側にやや張り出している。後者の底部切り離しは自然釉付着のため不明であるが、きれいな平坦面を呈している。また前者は比較的厚手であり、後者は薄手で硬質に焼き上がっている感がある。

薦沢Ａ遺跡など周辺の遺跡でも多く確認されている須恵器の甑片（35－11､12）が出土している。高広編年ⅡＡ期頃と考えられる。

この他にも移動式竈の破片、赤彩の施されている土師器の坏もしくは皿の破片、窯壁体の破片などが出土している。

性格　炭溜まり１及び炭溜まり２については、本来同じ性格の遺構であった可能性が考えられる。しかし炭溜まり２の位置は高広編年ⅣＡ期頃に柱列１～３が建てられており、また後世の撹乱もあったため、土層堆積状況が炭溜まり１と異なっていた。

炭溜まり１に類似する遺構としては、池ノ奥窯跡の３号土壙が挙げられる。黒色炭化物層から高

広編年ＩＢ～ⅣＢ期（中心はⅡＡ～ⅢＢ期）の須恵器、土師器が出土している。また赤色塗彩の須恵質土馬、土師質土馬が１体ずつ出土している。遺構の性格は住居跡等の生活関連遺構ではなく、須恵器窯にともなう粘土採掘壙とも考えられるとしてある。

高広編年ⅡＡ期頃もしくはⅢＢ～ⅣＡ期頃の時期には、三大寺遺跡周辺では、須恵器窯が確認され、三大寺遺跡近辺にもこの時期須恵器窯が存在した可能性が考えられるが、今回の調査では灰原など須恵器窯と直接かかわる遺構は確認されなかった。しかし、炉壁体などが出土していることより須恵器生産に伴う場であった可能性は考えられる。また三大寺遺跡からは土馬が出土しているように、祭祀行為などが行われていたことも考えられる。これらのことをふまえ炭溜まり遺構の性格について推測する。

①須恵質土馬が出土していることによりこの場で祭祀が行われた。時期は高広編年ⅡＡ期頃の時期もしくは高広編年ⅢＢ～ⅣＡ期頃の二つの時期が考えられる。

②須恵器窯に伴う灰原などから遺物がこの場所に持ち込まれた。理由は様々考えられるが、その中の一つとして、整地作業的な意味合いがあったことが想定される。時期は高広編年ⅡＡ期頃の時期もしくは高広編年ⅢＢ～ⅣＡ期頃の二つの時期が考えられる。

先述した池ノ奥窯跡の３号土壙は粘土採掘壙の可能性も考えられていたが、三大寺遺跡調査地の遺構検出面に関しては、比較的水はけの良い土質であり、粘土採掘壙の可能性は低いと思われる。逆に薪などを大量に得るため樹木の伐採が行われた場合、山崩れ等が起こりえたかもしれない。

（３） 柱列１～３

柱列１～３は炭溜まり２部分で検出されている。土層（第32図）の観察よりこの部分の炭溜まりに関しては、後世の撹乱を大きく受けていると考えられる。（５層）６－①層は柱列１および（もしくは）柱列２廃絶後の埋土と考えている。また６－②層は、６－①層同様、柱列廃絶に伴う埋土である可能性もあるが、柱列を構築する際の盛土の可能性も考えられる。

（４） 東壁トレンチ・トレンチ６

調査Ⅱ区の遺構検出面直下の第７層は高広編年ⅡＡ期の遺物包含層である。自然災害等による土砂の移動を想定した場合、調査Ⅱ区を形成する谷の上方に位置する東側の谷奥部分に生活空間などの施設が存在していた可能性が考えられる。

（５） 建物跡

調査Ⅰ区の北側、丘陵斜面に高広編年ⅣＡ期の掘立柱建物跡と考えられる建物跡２棟が検出された。１号建物跡からは、多くの遺物が出土しているが、特筆すべき遺物として陶製分銅（権）が出土している。松江市福原町に所在する中嶺遺跡からも権が出土しており、同遺跡の報告書によると島根県では12遺跡から44点の権が出土している。権の出土する遺跡の多くは６世紀後半から平安時代にかけての官衙関連遺跡や須恵器生産にかかわる遺跡である。須恵質の権もしくは権の可能性がある遺物は、三大寺遺跡の周辺では、中嶺遺跡、薦沢Ａ遺跡（松江市朝酌町）、イガラビ遺跡（松江市大井町）、山津窯跡（同）で出土している。また出雲国府跡では、銅製の権が出土している。

（6） 古墓群

古墓群は、調査Ⅰ区の西側に集中して検出された。それぞれの墓の特徴は一覧表のとおりである。基壇を伴う墓も確認されたが、基壇を構築する部材として、遺跡周辺で確認される自然石（安山岩と考えられる）と共に五輪塔の部材が使用されている。五輪塔の部材は基壇以外の部分からも出土しているが、この古墓群内で五輪塔として使用されていたかは不明である。また五輪塔部材の材質に関しては、大山角閃石安山岩系の安山岩（A）、大海崎石系の安山岩（B）、来待石系の砂岩（C）の３種類に大別される。２号墓では五輪塔部材と同じ石材Ａの石臼が出土している。石材Ｃは比較的風化が早い石材であるが、三大寺遺跡で出土した石材Ｃの五輪塔は、一部の石材に風化面が確認されるが、大部分の石材は風化していない。材質による五輪塔部材の時期差については、空風輪の括れ部の特徴により、石材Ｃを使用した五輪塔が、他の石材を使用したものより新しいと推定される。五輪塔を伴う古墓群が発掘調査された事例は松江市内でも数例あるが、松江市八雲村で調査された谷ノ奥遺跡の事例が、三大寺遺跡における状況に似ている。共通する部分を以下に挙げる。

①五輪塔の石材が３種類確認されている。（双方で確認されている砂岩製の石材は同じ産地の可能性が考えられる。）

②火葬墓の墓壙掘り方は長軸及び短軸が１ｍ前後の楕円形を呈し、骨片及び炭片を含む黒色土が埋められている墓が確認されている。

③方形の基壇が組まれている。（もしくは可能性がある。）

④谷ノ奥遺跡所在地は小字名が「法正寺」であり、星上寺の末寺が存在したという口承が残されているという。一方三大寺遺跡では、調査地の一部の小字名が「三大寺」であり、付近にも「別所」、「奥別所」など寺に関係すると考えられる小字名があり、「三大寺」付近に寺が存在していたという伝承が残されている。

両遺跡の異なる点としては、谷ノ奥遺跡では、五輪塔の部材は、基壇部分に転用はされていないようであること、寛永通寶が出土していることなどが挙げられる。三大寺遺跡の特徴は、基壇や土葬墓の標石として五輪塔部材が使用されていること、11号墓において墓壙を覆う盛土が確認されたことが挙げられる。

以上のことから三大寺遺跡の古墓群について推測されることを以下に記述する。今回検出された古墓群では、より新しいと考えられる石材Ｃを使用した五輪塔部材が基壇の部材として使用されて

三大寺遺跡中世墓一覧表

遺構名		種別	基壇				墓壙				五輪塔	標石	自然石	出土遺物					備考
			平面形	規模（m）			平面形	規模（m）						骨	土器	釘	古銭	その他	
				長辺	短辺	深さ		長辺	短辺	深さ									
１号墓		火葬墓	方形基壇	1.4	1.3	0.25	−	−	−	−	○		○	−	皿１	−	26	−	
２号墓		火葬墓	(方形基壇)	1	0.9	0.2～0.3	−	−	−	−	−		○	−	−	1	−	石臼片	
３号墓		火葬墓	長方形基壇	1.3	1	0.25	−	−	−	−	○		○	○火葬骨	−	2(釘片)	10	−	
４号墓		(供養塔)	長方形基壇	2	1.5	0.25～0.3	−	−	−	−	○		○	−	−	−	−	−	埋葬の痕跡なし
５号墓		土葬墓	−	−	−	−	(方形)	1	0.85	0.4	○	○	(○)	−	−	−	−	−	(陥没部分に集石)
６号墓		(土葬墓)	−	−	−	−	(方形)	0.9	0.65	0.3	−	○	(○)	−	−	1	−	−	
７号墓		土葬墓	−	−	−	−	(方形)	0.95	0.55	0.3	−	○	(○)	−	−	−	−	−	
８号墓		(火葬墓)	−	−	−	−	不整形円形	0.85	−	0.6	−	−	−	−	−	−	−	−	
９号墓		土葬墓	−	−	−	−	楕円形	1.4	0.85	0.6	−	−	−	−	−	−	−	−	
10号墓		土葬墓	−	−	−	−	楕円形	0.95	0.7	0.25	−	○	(○)	−	−	−	−	−	
11号墓	1	火葬墓	方形基壇	1.4	1.25	0.3	(方形)	0.65	0.65	0.2	○	−	○	○火葬骨	−	21	(銅銭片)	−	盛土遺構を伴う
	2	火葬墓	−	−	−	−	楕円形	0.5	0.45	0.15	−	−	−	○火葬骨	−	−	−	−	〃
	3	土葬墓	−	−	−	−	長方形	1.32	0.7	0.2	−	○	(○)	−	−	−	−	−	〃
	4	土葬墓	−	−	−	−	不整形方形	0.85	0.7	0.25	(○)	○	−	−	−	−	−	鉄刀片	〃
12号墓		火葬墓	−	−	−	−	不整長楕円形	1.35	0.5	0.2	−	−	−	○火葬骨	−	−	−	−	
13号墓		火葬墓	−	−	−	−	不整長楕円形	1.2	0.6	0.1	−	−	−	○火葬骨	−	−	−	−	

※括弧は推測される項目

いたり、土葬墓の標石として使用されているので、当初この古墓群内で五輪塔として使用するために持ち込まれたかは不明である。ただし、４号墓は供養塔の可能性が考えられるので、五輪塔が建てられた可能性は考えられ、他の基壇を持つ墓についても同様である。また先述したとおり、石材Ｃに風化が見受けられないことより、この古墓群は構築されてそれほど時間がたたない間に土に埋まるもしくは埋められるなどして石材が保護されたことが想定される。出土する銅銭が宋銭、明銭などであることより、古墓群の時期は室町時代から江戸時代初め頃と推測される。

様々な形態の墓が確認されたが、生活域などの周辺の状況や、被葬者の性格などは不明である。

参考文献

加藤義成　1997 『修訂出雲国風土記参究』今井書店

上田正昭編 『出雲の神々　神話と氏族』筑摩書房

平凡社　1995 『島根県の地名　日本歴史地名大系33』

兵庫埋蔵銭調査会　1996 「日本出土銭総覧」

廣江耕史 「出雲の土馬」『えとのす』16　新日本教育図書　1981

今岡　稔 「山陰の石塔二三について　－２－」『島根考古学会誌　第８集』島根考古学会　1991

今岡　稔・今岡利江 「山陰の石塔二三について－10－」『島根考古学会誌　第19集』島根考古学会2002

内田律雄・岩橋康子・藤原　哲　2005 「山陰地域の土馬集成」『島根考古学会誌第22集』島根考古学会2005

朝酌郷土史編集委員会　2001 『朝酌町誌』

宮本佐知子「国内出土権衡資料」『大阪市文化財論集』（財）大阪市文化財協会　1994

安来市教育委員会　1998 『清水大日堂裏古墓発掘調査報告書』

東出雲町教育委員会　2008 『古城山遺跡』

松江市教育委員会　1988 『薦沢Ａ遺跡・薦沢Ｂ遺跡・別所遺跡』

松江市教育委員会　1990 『鉾田遺跡・朝酌荒神遺跡・イガラビ遺跡・イガラビ古墳群・池ノ奥古墳群・池ノ奥Ｃ、Ｄ遺跡、池ノ奥Ａ遺跡、池ノ奥窯跡』

松江市教育委員会　1998 『袋尻遺跡群発掘調査報告書』

八雲村教育委員会　2002 『谷ノ奥遺跡』

八雲村教育委員会　2005 『寺谷五輪塔群』

江津市教育委員会　2006 『反坂遺跡』

島根県古代文化センター　2000 『松江市東部における古墳の調査』

島根県古代文化センター　2004 『出雲国風土記の研究Ⅱ　島根郡朝酌郷調査報告書』

島根県教育委員会　1984 『高広遺跡』

島根県教育委員会　1992 『中竹矢遺跡』

島根県教育委員会　2000 『社日古墳』

島根県教育委員会　2002 『田中谷遺跡・塚山遺跡・下がり松遺跡・角谷遺跡』

松江市教育委員会　2006 『大井窯跡群　山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書』

島根県教育委員会　2007 『東前田遺跡・大谷口遺跡・中嶺遺跡・金クソ谷遺跡１区・２区・３区』